

【 大学院聴講生 】

※2024年1月29日現在(未更新のシラバスは掲載していません)

担当専修別	講義コード	講義科目名	単位	開講期	曜日	時間1	時間2	担当教員名	使用言語	聴講可否	シラバス連携	備考
日本史学	6631001	日本史学(特殊講義)	2	後期	月	2		谷川 穰	日本語	○	大学院聴講生	歴史文化学1
日本史学	6631002	日本史学(特殊講義)	2	前期	火	4		三宅 正浩	日本語	○		歴史文化学2
日本史学	6631003	日本史学(特殊講義)	2	後期	金	1		本庄 総子	日本語	○		歴史文化学3
日本史学	6631004	日本史学(特殊講義)	2	前期	月	2		岩城 卓二	日本語	○		歴史文化学4
日本史学	6631006	日本史学(特殊講義)	2	前期	火	2		福家 崇洋	日本語	○		歴史文化学5
日本史学	6631007	日本史学(特殊講義)	2	後期	木	4		斎木 涼子	日本語	○		歴史文化学6
日本史学	6631008	日本史学(特殊講義)	2	後期	月	3		岩崎 奈緒子	日本語	○		歴史文化学7
日本史学	6631009	日本史学(特殊講義)	2	前期	月	1		吉田 賢司	日本語	○		歴史文化学8
日本史学	6631010	日本史学(特殊講義)	2	前期集中	他	他		遠藤 慶太	日本語	○		歴史文化学9
日本史学	6631011	日本史学(特殊講義)	2	前期	木	4		東谷 智	日本語	○		歴史文化学10
日本史学	6631014	日本史学(特殊講義)	2	前期	木	3		熊谷 隆之	日本語	○		歴史文化学11
日本史学	6631015	日本史学(特殊講義)	2	後期	木	3		熊谷 隆之	日本語	○		歴史文化学12
日本史学	6631016	日本史学(特殊講義)	2	前期	木	2		吉江 崇	日本語	○		歴史文化学13
日本史学	6631017	日本史学(特殊講義)	2	後期	木	2		吉江 崇	日本語	○		歴史文化学14
日本史学	6631019	日本史学(特殊講義)	2	前期	火	5		坂口 正彦	日本語	○		歴史文化学15
東洋史学	6731001	東洋史学(特殊講義)	2	前期	火	4		吉本 道雅	日本語	○		歴史文化学16
東洋史学	6731002	東洋史学(特殊講義)	2	後期	火	4		吉本 道雅	日本語	○		歴史文化学17
東洋史学	6731003	東洋史学(特殊講義)	2	前期	月	4		中砂 明徳	日本語	○		歴史文化学18
東洋史学	6731004	東洋史学(特殊講義)	2	後期	月	4		中砂 明徳	日本語	○		歴史文化学19
東洋史学	6731005	東洋史学(特殊講義)	2	前期	火	2		箱田 恵子	日本語	○		歴史文化学20
東洋史学	6731006	東洋史学(特殊講義)	2	後期	火	2		箱田 恵子	日本語	○		歴史文化学21
東洋史学	6731009	東洋史学(特殊講義)	2	前期	金	2		森上 麻由子	日本語	○		歴史文化学22
東洋史学	6731010	東洋史学(特殊講義)	2	前期集中	他	他		河部 豊	日本語	○		歴史文化学23
東洋史学	6731013	東洋史学(特殊講義)	2	前期	火	1		矢木 毅	日本語	○		歴史文化学24
東洋史学	6731014	東洋史学(特殊講義)	2	後期	火	1		矢木 毅	日本語	○		歴史文化学25
東洋史学	6731018	東洋史学(特殊講義)	2	前期	火	3		承 志	日本語	○		歴史文化学26
東洋史学	6731019	東洋史学(特殊講義)	2	後期	火	3		承 志	日本語	○		歴史文化学27
東洋史学	6731023	東洋史学(特殊講義)	2	前期	月	2		富宅 潔	日本語	○		歴史文化学28
東洋史学	6731024	東洋史学(特殊講義)	2	後期	月	2		富宅 潔	日本語	○		歴史文化学29
東洋史学	6731027	東洋史学(特殊講義)	2	前期	水	1		古松 崇志	日本語	○		歴史文化学30
東洋史学	6731028	東洋史学(特殊講義)	2	後期	水	1		古松 崇志	日本語	○		歴史文化学31
東洋史学	6741001	東洋史学(演習I)	2	前期	金	3		吉本 道雅	日本語	○		歴史文化学32
東洋史学	6741002	東洋史学(演習I)	2	後期	金	3		吉本 道雅	日本語	○		歴史文化学33
東洋史学	6743001	東洋史学(演習II)	2	前期	火	5		中砂 明徳	日本語	○		歴史文化学34
東洋史学	6743002	東洋史学(演習II)	2	後期	火	5		中砂 明徳	日本語	○		歴史文化学35
東洋史学	6745001	東洋史学(演習III)	2	前期	木	1		箱田 恵子	日本語	○		歴史文化学36
東洋史学	6745002	東洋史学(演習III)	2	後期	木	1		箱田 恵子	日本語	○		歴史文化学37
東洋史学	M303001	東洋史学(演習)	2	前期	金	5		吉本 道雅	日本語	○		歴史文化学38
東洋史学	M303002	東洋史学(演習)	2	後期	金	5		吉本 道雅	日本語	○		歴史文化学39
東洋史学	M303003	東洋史学(演習)	2	前期	中砂 明徳	中砂 明徳		中砂 明徳	日本語	○		歴史文化学40
東洋史学	M303004	東洋史学(演習)	2	後期	中砂 明徳	中砂 明徳		中砂 明徳	日本語	○		歴史文化学41
東洋史学	M303005	東洋史学(演習)	2	前期	箱田 恵子	箱田 恵子		箱田 恵子	日本語	○		歴史文化学42
東洋史学	M303006	東洋史学(演習)	2	後期	箱田 恵子	箱田 恵子		箱田 恵子	日本語	○		歴史文化学43
西南アジア史学	6831004	西南アジア史学(特殊講義)	2	前期	木	3		仁子 春樹	日本語	○		歴史文化学44
西南アジア史学	6831005	西南アジア史学(特殊講義)	2	前期	月	3		山口 元樹	日本語	○		歴史文化学45
西南アジア史学	6831006	西南アジア史学(特殊講義)	2	前期	火	3		岩本 佳子	日本語	○		歴史文化学46
西南アジア史学	6831007	西南アジア史学(特殊講義)	2	後期	水	2		森谷 知可	日本語	○		歴史文化学47
西南アジア史学	6831009	西南アジア史学(特殊講義)	2	前期集中	他	他		篠本 一夫	日本語	○		歴史文化学48
西南アジア史学	6831011	西南アジア史学(特殊講義)	2	後期	火	3		岩本 佳子	日本語	○		歴史文化学49
西南アジア史学	6842001	西南アジア史学(演習II)	4	通年	火	2		磯貝 健一	日本語	○		歴史文化学50
西南アジア史学	6842002	西南アジア史学(演習II)	4	通年	水	3		岩本 佳子	日本語	○		歴史文化学51
西南アジア史学	6844001	西南アジア史学(演習II)	2	前期	金	3		伊藤 隆郎	日本語	○		歴史文化学52
西南アジア史学	6844002	西南アジア史学(演習II)	2	後期	金	3		伊藤 隆郎	日本語	○		歴史文化学53
西南アジア史学	6850001	西南アジア史学(講義)	4	通年	金	1		今松 泰也	日本語	○		歴史文化学54
西南アジア史学	6851002	西南アジア史学(講義)	2	前期	火	4		中西 章之	日本語	○		歴史文化学55
西南アジア史学	6851003	西南アジア史学(講義)	2	後期	月	3		磯貝 健一	日本語	○		歴史文化学56
西南アジア史学	9680001	イラン語(初級)(語学)	4	通年	金	2		杉山 雅樹	日本語	○		歴史文化学57
西洋史学	6931001	西洋史学(特殊講義)	2	前期	月	3		安平 弦司	日本語	○		歴史文化学58
西洋史学	6931002	西洋史学(特殊講義)	2	後期	月	3		安平 弦司	日本語	○		歴史文化学59
西洋史学	6931003	西洋史学(特殊講義)	2	後期	月	4		國師 寛忠	日本語	○		歴史文化学60
西洋史学	6931004	西洋史学(特殊講義)	2	後期	火	4		坂本 優一郎	日本語	○		歴史文化学61
西洋史学	6931005	西洋史学(特殊講義)	2	前期	火	4		竹下 哲文	日本語	○		歴史文化学62
西洋史学	6931006	西洋史学(特殊講義)	2	後期	火	4		竹下 哲文	日本語	○		歴史文化学63
西洋史学	6931007	西洋史学(特殊講義)	2	前期	月	2		伊藤 順二	日本語	○		歴史文化学64
西洋史学	6931008	西洋史学(特殊講義)	2	後期	月	2		伊藤 順二	日本語	○		歴史文化学65
西洋史学	6931009	西洋史学(特殊講義)	2	後期	木	3		田崎 直美	日本語	○		歴史文化学66
西洋史学	6931010	西洋史学(特殊講義)	2	後期	水	3		佐藤 公美	日本語	○		歴史文化学67
西洋史学	6931011	西洋史学(特殊講義)	2	前期	水	4		小関 隆	日本語	○		歴史文化学68
西洋史学	6931012	西洋史学(特殊講義)	2	後期	水	4		小関 隆	日本語	○		歴史文化学69
西洋史学	6931014	西洋史学(特殊講義)	2	前期	水	3		藤原 辰史	日本語	○		歴史文化学70
西洋史学	6931015	西洋史学(特殊講義)	2	後期	水	3		藤原 辰史	日本語	○		歴史文化学71
西洋史学	6931016	西洋史学(特殊講義)	2	前期	月	2		福本 薫	日本語	○		歴史文化学72
西洋史学	6931017	西洋史学(特殊講義)	2	後期	火	2		栗原 麻子	日本語	○		歴史文化学73
西洋史学	6931018	西洋史学(特殊講義)	2	前期	水	5		小山 哲	日本語	○		歴史文化学74
西洋史学	6931019	西洋史学(特殊講義)	2	後期	水	5		小山 哲	日本語	○		歴史文化学75
西洋史学	6931020	西洋史学(特殊講義)	2	前期	火	4		林田 敏子	日本語	○		歴史文化学76
西洋史学	6961001	西洋史学(講義)	2	前期	火	4		小山 哲	日本語	○		歴史文化学77
西洋史学	6961002	西洋史学(講義)	2	後期	火	4		小山 哲	日本語	○		歴史文化学78
西洋史学	6971001	西洋史学(演習I)	2	前期	金	5		藤井 崇	日本語	○		歴史文化学79
西洋史学	6971002	西洋史学(演習I)	2	後期	金	5		藤井 崇	日本語	○		歴史文化学80
西洋史学	6972001	西洋史学(演習II)	2	前期	金	5		佐藤 公美	日本語	○		歴史文化学81
西洋史学	6972002	西洋史学(演習II)	2	後期	金	5		佐藤 公美	日本語	○		歴史文化学82
西洋史学	6973001	西洋史学(演習III)	2	前期	金	5		小山 哲・安平 弦司	日本語	○		歴史文化学83
西洋史学	6973002	西洋史学(演習III)	2	後期	金	5		小山 哲・安平 弦司	日本語	○		歴史文化学84
西洋史学	6974001	西洋史学(演習IV)	2	前期	金	5		金澤 周作	日本語	○		歴史文化学85
西洋史学	6974002	西洋史学(演習IV)	2	後期	金	5		金澤 周作	日本語	○		歴史文化学86
考古学	7031001	考古学(特殊講義)	2	前期	金	2		吉井 秀夫	日本語	○		歴史文化学87
考古学	7031002	考古学(特殊講義)	2	後期	月	2		吉井 秀夫	日本語	○		歴史文化学88
考古学	7031009	考古学(特殊講義)	2	前期	金	3		下垣 仁志	日本語	○		歴史文化学89
考古学	7031010	考古学(特殊講義)	2	後期	金	3		下垣 仁志	日本語	○		歴史文化学90
日本史学	6601001	系共通科目(日本史学)(講義)	4	通年	火	3		上島 亨	日本語	○		歴史文化学91 学部科目
東洋史学	6701001	系共通科目(東洋史学)(講義)	4	通年	火	2		吉本 道雅	日本語	○		歴史文化学92 学部科目
東洋史学	6750001	東洋史学(講義)	4	通年	水	4		中砂 明徳	日本語	○		歴史文化学93 学部科目
東洋史学	6750002	東洋史学(講義)	4	通年	水	2		中砂 明徳	日本語	○		歴史文化学94 学部科目
東洋史学	6761001	東洋史学(実習)	2	通年	水	5		吉本 道雅・中砂 明徳・箱田 恵子	日本語	○		歴史文化学95 学部科目
西南アジア史学	6801001	系共通科目(西南アジア史学)(講義)	4	通年	水	2		磯貝 健一	日本語	○		歴史文化学96 学部科目
西南アジア史学	6840001	西南アジア史学(演習I)	4	通年	水	4		岩本 佳子	日本語	○		歴史文化学97 学部科目
西南アジア史学	6861001	西南アジア史学(実習)	1	後期	月	4		岩本 佳子	日本語	○		歴史文化学98 学部科目
西南アジア史学	6861002	西南アジア史学(実習)	1	前期	月	4		磯貝 健一	日本語	○		歴史文化学99 学部科目
西洋史学	6901001	系共通科目(西洋史学)(講義)	4	通年	火	5		金澤 周作	日本語	○		歴史文化学100 学部科目
西洋史学	6956001	西洋史学(講義)	2	前期	月	2		小俣ラホー 日登美	日本語	○		歴史文化学101 学部科目
西洋史学	6956002	西洋史学(講義)	2	後期	月	2		小俣ラホー 日登美	日本語	○		歴史文化学102 学部科目
西洋史学	6957001	西洋史学(講義)	2	前期	月	2		菅原 百合絵				

【 大学院聴講生 】

※2024年1月29日現在(未更新のシラバスは掲載していません)

担当専修別	講義コード	講義科目名	単位	開講期	曜日1	時間1	曜日2	時間2	担当教員名	使用言語	聴講可否 大学院聴講生	シラバス連番	備考
西洋史学	6958002	西洋史学(講読)	2	後期	火	3			伊藤 順二	日本語	○	歴史文化学106	学部科目
考古学	8007001	博物館学III(講義)	2	後期	水	2			宮川 禎一	日本語	○	歴史文化学107	学部科目
歴史基礎文化学系	0040001	歴史基礎文化学系(ゼミナール)	4	通年	木	1			下垣 仁志・村上 孟謙・佐藤 早紀 子・田口 佳奈・股 捷・伊藤 啓介・ 勅使河原 拓也・岩永 絳和・山下 耕平・平良 聡弘・堀 雄高・酒嶋 恭 平・小山田 真帆・西 真輝・松島 隆 真・小野木 聡・中村 慎之介・大津 谷 馨・葉 勝・徐 璐・藤田 風花・ 中辻 柚珠・田中 悠子・辻田 明子・ 高野 紗奈江・西原 和代	日本語	○	歴史文化学108	学部科目

歴史文化学1

科目ナンバリング		G-LET23 66631 LJ38			
授業科目名 <英訳>	日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 谷川 穰		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	月2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	「排外」的思想の近代日本社会史				
[授業の概要・目的]					
<p>幕末から明治初期を生き、輸入品排斥を訴えることで熱狂的支持を得た僧侶の思想・政治行動の軌跡。その軌跡をたどり、1930年代に追い求めた社会学者・著述家の営為と執念。この二つの(全く)知られざる様相を解明することを通じて、幕末から総力戦体制期までの近代日本の「排外」的思想・社会の一側面をとらえる。多様な原史料を用いて実証的に論じる歴史学の手法を示すとともに、明治維新と1930年代という変革期――戦争とテロの時代、「維新」と「国益」の時代でもある――における人間・社会の歴史的理解へと思考を及ぼしていきたい。</p>					
[到達目標]					
<p>戦前期日本社会の形成・変容の歴史に対する理解を深め、視野を広げられるようになる。また多様な史料を用いて実証的に論じる歴史学の手法を習得するとともに、歴史研究の対象と自己との関係がいかにあるべきかを、重層的に考えられるようになる。さらに、講義内容を批判的に再考することで、自らの問題意識を反映した論文作成の能力を高めることができる。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第1回はイントロダクション、最終回は「まとめ」。以下のトピックを受講生の理解度も勘案しつつ1回ずつ講じる予定であるが、受講生の理解等に応じて適宜組み替えを試みることもある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 佐田介石と仏教天文学 ・ 幕末の政局と内戦回避の政治行動 ・ 明治維新と仏教 ・ 明治政府への建白書と「消費」社会論 ・ アジア観と「排外」の自覚 ・ 舶来品排斥論と結社・演説の時代 ・ 内地雑居直前期の介石顕彰 ・ 吉野作造と明治文化研究 ・ 浅野研真の社会学とプロレタリア教育運動 ・ 中国・満洲情勢とアジア観の変容 ・ 介石研究への「旋回」と邪教撲滅・仏教復興運動 ・ 総力戦期の維新时期経済思想史と明治仏教史研究 ・ 幻の『佐田介石全集』とその行方 					
[履修要件]					
特になし					
----- 日本史学(特殊講義) (2)へ続く -----					

日本史学(特殊講義) (2)

[成績評価の方法・観点]

期末のレポート（70％）と授業中に実施予定の小レポート（30％）をふまえて、総合的に判断する。

[教科書]

授業に際してはハンドアウト・史料プリントを配布する予定である。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

受講生が各自の興味関心にしながら独力で考え実践する。ただし授業において参考文献も示すので、適宜それを読み、自らの考えを深めるよすがとしてもらえればと思う。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学2

科目ナンバリング		G-LET23 66631 LJ38			
授業科目名 <英訳>	日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 三宅 正浩		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	火4	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	近世政治史研究				
【授業の概要・目的】					
<p>近年の日本近世政治史研究は、史料批判をしつつ、一次史料にもとづいて政治過程を描き出す手法が求められる段階に到達している。従来の通説的理解を一次史料を駆使して塗り替えて、新たな方法論と論点を獲得する過程を示すことで、日本近世史研究の基礎的方法と面白さを示したい。担当者は、主に武家文書(書状・日記・法令などの一次史料と編纂史料などの二次史料)を用いて、近世前期の政治史を研究している。特に、大名家の政治構造や幕藩関係に着目しつつ、近世国家が如何なる過程を経て形成され、その結果として如何なる構造・特質を有することになったのかを中長期的に考えているところである。</p> <p>今年度は、近世国家の構造・特質を意識しつつ、近世大名の領国統治およびその理念について、近世成立期を中心に分析をおこなう。</p> <p>授業では、具体的な史料を示し、その解釈を説明しながら論じていくことになる。知識ではなく、授業を通して示される研究手法をこそ学んでもらいたい。</p>					
【到達目標】					
<p>近世の史料、特に前期の政治史・武家社会に関する史料を読み解くための基礎的能力を向上させ、発展的に応用する視角と方法論を獲得する。期末には、自己の課題にもとづいて様々な史料をとりあげて読み込み、レポートを作成できるようにする。</p>					
【授業計画と内容】					
<p>以下に示したテーマ・回数・順番については固定したものではなく、担当者の講義方針と受講者の背景や理解の状況、また、担当者の研究進展状況や学界動向に伴い、変更がありうる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 導入 近世大名の政治理念について 【2週】 2. 近世前期武家社会の学問観 【3週】 3. 近世初頭の領国統治とその理念 【4週】 4. 近世前期の領国統治とその理念 【4週】 5. 近世中後期への展望 【1週】 6. まとめと総括 【1週】 					
【履修要件】					
特になし					
----- 日本史学(特殊講義)(2)へ続く -----					

日本史学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

期末レポートで評価する

[教科書]

授業中にプリントを配付する。

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

参考文献を読むほか、関連する学術文献を各自で収集して読む。また、自身の課題を設定して史料を収集・分析し、レポートを作成する。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学3

科目ナンバリング		G-LET23 66631 LJ38			
授業科目名 <英訳>	日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 本庄 総子	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	金1	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	日本古代社会構造の研究				
[授業の概要・目的]					
<p>本科目では、日本古代史研究の方法論を提示する。 日本古代史研究においては、他分野協働の必要性が強調されて久しい。現存する史料が僅少であるため、多様な情報を研究に生かすための創意工夫が重ねられてきた。特に考古学や東洋史学との協働による成果は目覚ましいものがある。さらに近年では、古代DNAや古気候学の研究が飛躍的に進展しているため、文理の壁を超えた協働すら模索されつつある。 ただし、それぞれの研究分野にはそれぞれの方法論があり、その方法論に即した強みと弱みがある。この事実を踏まえることなく、他分野の研究成果を無批判に取り入れるならば、それは最早協働ではなく盲従であろう。協働にあたっては、各学問分野が自身の方法論を常に鍛え直しながら他分野に対峙する必要がある。 本科目では、以上の問題意識に基づき、日本古代の社会構造について、飢饉や疫病といったエラーの発生に留意しつつ探求する。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・日本古代史における史料解釈の方法を理解する。 ・日本古代史をとりまく学問的環境を他分野との関係性から理解する。 					
[授業計画と内容]					
<p>下記のテーマに沿って進める予定。 ただし、最新の研究動向や、科目担当者自身の研究の進展状況に応じて随時変更する。</p> <p>導入(1回) 人口動態 - 増加説と減少説(2回) 土地開発 - 理念、耕地面積、生産性(3回) 飢饉・疫病の背景 - 自然災害、社会構造(3回) 飢饉・疫病の歴史的展開 - 8世紀以前、9世紀以降(2回) 飢饉・疫病対策 - 救恤、農政とリスク回避(3回) 展望(1回)</p>					
[履修要件]					
特になし					
----- 日本史学(特殊講義)(2)へ続く -----					

日本史学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

学期末レポートの内容によって評価する。レポートの評価はオリジナリティを重視し、素点（100点満点）の絶対評価で評点する。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

参考文献や配付資料に基づき、講義内容の理解を深める。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学4

科目ナンバリング		G-LET23 66631 LJ38			
授業科目名 <英訳>	日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 教授 岩城 卓二		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	月2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	下級武士論ー地役人・手附・手代ー				
【授業の概要・目的】					
下級武士、とくに幕府代官所の実務を担った地役人・手附・手代を中心に、その出自・人生について、彼らが残した手紙類を用いて明らかにし、近世身分制について考える。授業では手紙の翻刻文を配布し、近世史料の読解力を習得する。					
【到達目標】					
近世史研究に必要な史料読解能力と、歴史像を構築する手法を習得する。					
【授業計画と内容】					
1, 幕府代官所の武士(2回) 2, 地役人(4回) 3, 水野正太夫の人生(4回) 4, 非正規雇用の武士(4回) 5, まとめと総括(1回) * なお、上記のテーマ・回数・順番は、担当者の講義方針と受講者の理解状況、担当者の研究進捗状況・学界動向によって変更がありうる。 フィードバックの方法は別途連絡。					
【履修要件】					
一定の漢文読解力を必要とする。					
【成績評価の方法・観点】					
授業の理解度を確かめる期末レポート					
【教科書】					
使用しない					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介する					
【授業外学修(予習・復習)等】					
授業中に指示する史料の精読。					
(その他(オフィスアワー等))					
授業中に指示する。 オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

歴史文化学5

科目ナンバリング		G-LET23 66631 LJ38			
授業科目名 <英訳>	日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 准教授 福家 崇洋		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	火2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	歴史研究事始				
[授業の概要・目的]					
<p>概要：講師の専門（近現代日本の社会運動史、社会思想史、史学史）に基づく、歴史研究の導入教育。</p> <p>目的：講師が歴史研究のプロセスを受講者に開示する。歴史研究における問題意識・目的・方法などを受講者が批判的に検討することで、自身の歴史研究や社会認識の糧にってもらうことが本講義の目的である。なお、本講義は必ずしも他分野の歴史研究の参考となるわけではないことをご理解いただきたい。</p>					
[到達目標]					
歴史研究の意義を理解し、その目的・方法を習得することができる。					
[授業計画と内容]					
<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 テーマ設定、先行研究の整理と分析 3 施設見学と資料調査1 4 施設見学と資料調査2 5 施設見学と資料調査3 6 施設見学と資料調査4 7 その他の資料調査（古書、聴き取り） 8 収集資料の整理・保存と研究活用 9 資料の読解1 10 資料の読解2 11 資料の読解3 12 歴史を叙述する1 13 歴史を叙述する2 14 歴史を叙述する3 15 まとめ <p>なお、授業の進行速度により内容が変更する可能性があります。</p>					
[履修要件]					
特になし					
----- 日本史学(特殊講義)(2)へ続く -----					

日本史学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

授業中の小レポートと期末レポート、平常点等により総合的に判断する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

各回の受講内容に関する事前学習や、興味を持ったテーマについて自ら掘り下げていく事後学習を行うこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学6

科目ナンバリング		G-LET23 66631 LJ38			
授業科目名 <英訳>	日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	奈良国立博物館学芸部 列品室長 齋木 涼子	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	木4	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	平安時代の宗教儀礼と天皇				
[授業の概要・目的]					
<p>平安時代、朝廷では様々な儀礼が整備され、やがて儀礼が政務となり、同時に政務が儀礼化していった。そのなかでも、仏教法会・神祇祭祀など宗教的要素を持つものは、朝廷において大きな比重を占めていた。</p> <p>儀礼は、文化史や宗教史の一要素として捉えられることも多いが、それらの成立背景には、何らかの社会的必然性や需要が存在する。</p> <p>本講義では、摂関期から院政期に至るまでの朝廷における神祇祭祀や仏事、また天皇や院にかかわる宗教儀礼が、政治構造とどのように関係していったのか、そこに表れる天皇権威がどのように変化していったのかを取り上げる。</p>					
[到達目標]					
<p>平安時代を中心とした日本史の具体的な知識を得るとともに、平安時代の政治・社会への理解を深め、イメージを豊かなものにする。また様々な史料研究の方法を習得する。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>基本的には下記の予定で進めるが、話題の関係で内容が前後する可能性がある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 律令国家の宗教儀礼体制と天皇(第1回) 2. 平安時代の神祇祭祀(第2~3回) 3. 護国体制の変化 密教導入の革新(第4~5回) 4. 護持される天皇と11世紀の変化(第6~9回) 5. 院政と密教(第10~12回) 6. 神仏習合(第13回) 7. 聖教という史料(第14回) 8. まとめ(第15回) 					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
授業中の小レポート(30点)と期末レポート(70点)により総合的に判断する。					
----- 日本史学(特殊講義)(2)へ続く -----					

日本史学(特殊講義)(2)

[教科書]

プリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

必要に応じて授業中に紹介する。

[授業外学修(予習・復習)等]

プリントの復習、参考文献を読む。授業で触れた史跡や場所を訪れてみる。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学7

科目ナンバリング	G-LET23 66631 LJ38				
授業科目名 <英訳>	日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	総合博物館 教授 岩崎 奈緒子		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	月3	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	近世後期の対外認識 12				
【授業の概要・目的】					
「鎖国」外交が成立する過程を、近世後期の対外認識との関係から考察する。					
【到達目標】					
近世後期の世界認識の特質を学び、近代への移行を内在的に考察できる視角を得る。					
【授業計画と内容】					
以下の各項目について講述する。各項目には、【 】で指示した週数を充てる。各項目の講義の順序は固定したのではなく、担当者の講義方針と受講者の背景や理解の状況に応じて、講義担当者が適切に決める。					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 本講義の視座【1週】 2. 「鎖国」の研究史【5週】 <ul style="list-style-type: none"> ・1945年以前の研究 ・1945年以降の研究 3. 対ロシア外交と「鎖国」【8週】 <ul style="list-style-type: none"> ・対ラクスマン外交 ・対レザノフ外交 5. フィードバック【1週】 					
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
学期末のレポート					
【教科書】					
使用しない					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介する					
【授業外学修(予習・復習)等】					
授業中に予習・復習すべきポイントを指示する。					
(その他(オフィスアワー等))					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

歴史文化学8

科目ナンバリング		G-LET23 66631 LJ38			
授業科目名 <英訳>	日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	龍谷大学文学部 教授 吉田 賢司	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	月1	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	日本中世の権力と制度				
[授業の概要・目的]					
建武政権の成立や南北朝内乱の勃発が、日本中世の権力や制度のありように及ぼした影響について考える。これらを通して、14世紀前半を画期として区分される、「中世後期」の時代状況や特質について、理解を深めることを目指す。					
[到達目標]					
日本中世史に関する理解を深めるとともに、史料の読解力を高めることを目標とする。					
[授業計画と内容]					
第1回 御家人制研究の成果と論点 第2回～第4回 御家人制「廃止」の実態 第5回～第7回 建武政権の京都大番役 第8回～第10回 建武政権の軍制構想 第11回・第12回 京都大番役の廃絶 第13回・第14回 室町期の内裏門役 第15回 総括と展望					
(以上の計画・内容は、講義の進度に応じて変更する場合があります)					
[履修要件]					
日本史に関する基礎知識と一定の漢文読解能力があることが望ましい。					
[成績評価の方法・観点]					
学期末に講義内容に即した定期試験を課し、その内容で成績評価をおこなう(90%)。また、授業の出席者に求める史料の読み下し・解釈についても、平常点として加味する(10%)。					
[教科書]					
使用しない 講義形式で授業をおこなうが、プリント(史料)を配付して出席者に読み下し・解釈を随時求める。					
[参考書等]					
(参考書) 早島大祐・大田壮一郎・松永和浩・吉田賢司 『首都京都と室町幕府』(吉川弘文館、2022年) ISBN:978-4-642-06864-2 その他については、必要に応じて、授業中に紹介する。					
----- 日本史学(特殊講義)(2)へ続く -----					

日本史学(特殊講義)(2)

[授業外学修（予習・復習）等]

- ・ 授業前には、配付した史料の未読部分を予習のうえ、授業にのぞむこと。
- ・ 授業後には、読解した史料の読み下し・解釈をもとに、授業内容の復習をおこなうこと。

（その他（オフィスアワー等））

質問などがあれば、メールにて連絡をすること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学9

科目ナンバリング		G-LET23 66631 LJ38			
授業科目名 <英訳>	日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	皇學館大学文学部 教授 遠藤 慶太		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期集中
曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	日本書紀の形成と受容				
[授業の概要・目的]					
この講義は、日本最初の公式な歴史書である『日本書紀』について、基礎的な知識や調査の方法を習得することを目的とする。『日本書紀』は古代史の基本史料であるだけでなく、古典として長く読み継がれてきた。現在のわたしたちが目にする活字や電子テキストの背後には、時代ごとの写本や刊本、個性的な解釈が存在する。そこでこの講義では、『日本書紀』の具体的な記事を取りあげ、テキストの特色にも注意しながら、歴史を書き記す意味について考えてゆく。					
[到達目標]					
『日本書紀』の成り立ちや特色について、史料の根拠や歴史学の研究の現状に即して理解し、その内容を説明できるようになることを目標とする。そのためには漢文で書かれた記事の内容やテキスト(写本、刊本、注釈)を比較しながら、史料批判に代表される歴史学の基本的な考え方を学び、論理立てて自ら判断する思考を養っていきたい。					
[授業計画と内容]					
「日本書紀の形成と受容」というテーマで、古代史書の材料や内容、それが読み継がれたことの意味について、下記のような内容で講義する。					
第1回 開講ガイダンス/日本書紀の概説					
第2回 日本紀講と写本のながれ					
第3回 大王系譜(帝紀)の成り立ち					
第4回 神社の鎮座伝承					
第5回 日本武尊と婚姻伝承					
第6回 神功皇后伝承と史料批判					
第7回 倭の五王と古墳研究					
第8回 武烈天皇の暴虐記事					
第9回 継体天皇と6世紀の倭王権					
第10回 仏教伝来記事					
第11回 聖徳太子研究の現状と課題					
第12回 大化改新の再評価					
第13回 藤原鎌足の伝記					
第14回 壬申紀の叙述					
第15回 フィードバック					
[履修要件]					
特になし					
----- 日本史学(特殊講義)(2)へ続く -----					

日本史学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

レポートで評価する。レポートの評価基準については、教室で開示する。

[教科書]

使用しない

毎回の授業で史資料のプリントを配布して解説する。

[参考書等]

(参考書)

國學院大學博物館 『日本書紀 神と人とを結ぶ書物』 (國學院大學博物館, 2021)

遠藤慶太ほか 『日本書紀の誕生』 (八木書店, 2018)

[授業外学修(予習・復習)等]

授業は短期間の集中講義形式で行うので、上記参考書のうちいずれか一つだけでも事前に目を通すと、講義内容が理解しやすくなると思われる。

(その他(オフィスアワー等))

集中講義のため、オフィスアワーを特に設けることはしない。質問等があれば各回の授業終了後に適宜受け付ける。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学10

科目ナンバリング		G-LET23 66631 LJ38			
授業科目名 <英訳>	日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	甲南大学文学部 教授 東谷 智		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	木4	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	江戸時代の支配の仕組み				
【授業の概要・目的】					
<p>本講義では、江戸時代の藩と大名を素材として、支配の仕組みについて論じる。 参勤交代を行う大名は国元と江戸を往復し、両所に拠点を持つ。江戸と国元、それぞれの拠点での藩政機構のあり方や役割について論じることで、江戸時代の領主について理解を深めたい。講義では、武家文書や地方文書を具体的に示しながら、大名や藩の世界に分け入っていくことから、京都大学総合博物館所蔵の古文書を実験する機会を設けたい。 また大名の儀礼を取り扱うことから、大名御殿の指図(設計図)なども用いるとともに、二条城二の丸御殿の見学など学外講義も行い、空間的把握にも留意したい。</p>					
【到達目標】					
藩と大名について基礎的な知見を得ると共に、史料の基本的な分析が出来るようになることを目指す。					
【授業計画と内容】					
<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 大名の姿 3. 大名の家族と交際 4. 大名の官位と役職 5. 江戸の大名屋敷 6. 江戸城における儀礼 7. 国元における城下町 8. 国元の屋敷と儀礼 9. 家臣団 10. 番方と役方 11. 藩政機構 12. 行政の仕組み 13. 機構改編と藩政改革 14. 支配の広がり 15. まとめ 					
【履修要件】					
特になし					
----- 日本史学(特殊講義)(2)へ続く -----					

日本史学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点 40%

期末レポート 60%

[教科書]

授業中に指示する
レジュメを適宜配布する。

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

史料を読む講義を受講することを心懸けて下さい。

期末レポートでは、具体的に史料を分析してもらった課題を出します。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学11

科目ナンバリング		G-LET23 66631 LJ38			
授業科目名 <英訳>	日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人間・環境学研究科 教授 熊谷 隆之		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	木3	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	日本中世の西国と東国				
[授業の概要・目的]					
鎌倉時代通史の再検討I					
<p>今期は、日本中世史のうち、鎌倉時代、なかでも承久の乱からモンゴル襲来までを取りあげ、研究の方法論に重きをおきながら、理解を深めることを目指す。</p>					
[到達目標]					
<p>日本中世史に関する認識を深めるとともに、その研究方法を理解する。 また、古文書や古記録などの文献史料を読み込むことで、読解力を習得する。</p>					
[授業計画と内容]					
講義形式で、おおむね以下のような流れで進める。					
<p>第1回 承久の乱の衝撃 第2回 北条泰時の時代(1) 第3回 北条泰時の時代(2) 第4回 北条泰時の時代(3) 第5回 北条経時の時代 第6回 宮騒動と宝治合戦 第7回 建長の政変と親王将軍の下向 第8回 北条時頼の出家 第9回 北条時頼の死と陰謀の黒幕 第10回 連署・北条時宗の時代 第11回 二月騒動と文永の役 第12回 高麗出兵計画と幕府諸勢力の西下 第13回 弘安の役と北条時宗の死 第14回 弘安徳政とその終焉 第15回 学習到達度の評価</p>					
[履修要件]					
日本史に関する基礎知識と一定の漢文読解力があることが望ましい。					
----- 日本史学(特殊講義)(2)へ続く -----					

日本史学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

学期末に到達目標に即した定期試験を課し、その内容で成績評価する。定期試験は到達目標の達成度に基づき、100点満点で評価する。

[教科書]

授業中にプリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業前は、授業の進行状況を確認のうえで予習を行い、授業後は、授業で配布したプリントをもとに、復習を行うとともに、参考文献にも必ず目を通しておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学12

科目ナンバリング		G-LET23 66631 LJ38			
授業科目名 <英訳>	日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人間・環境学研究科 教授 熊谷 隆之		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	木3	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	伊賀国の古代・中世史				
[授業の概要・目的]					
鎌倉時代通史の再検討II					
<p>今期は、鎌倉時代、なかでもモンゴル襲来後から鎌倉幕府滅亡までを取りあげ、研究の方法論に重きをおきながら、理解を深めることを目指す。</p>					
[到達目標]					
<p>日本中世史に関する認識を深めるとともに、その研究方法を理解する。 また、古文書や古記録などの文献史料を読み込むことで、読解力を習得する。</p>					
[授業計画と内容]					
講義形式で、おおむね以下のような流れで進める。					
第1回	後期鎌倉幕府政治史への展望				
第2回	霜月騒動と平頼綱政権の始動				
第3回	平頼綱政権と持明院統				
第4回	平頼綱政権と『とはずがたり』				
第5回	伏見天皇、あわや暗殺				
第6回	平禅門の乱				
第7回	北条貞時の集権化(1)				
第8回	北条貞時の集権化(2)				
第9回	北条貞時の集権化(3)				
第10回	北条貞時の挫折				
第11回	北条高時の誕生と嘉元の乱				
第12回	得宗専制の敗北				
第13回	北条高時の時代				
第14回	鎌倉幕府の滅亡				
第15回	学習到達度の評価				
[履修要件]					
日本史に関する基礎知識と一定の漢文読解力があることが望ましい。					
----- 日本史学(特殊講義)(2)へ続く -----					

日本史学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

学期末に到達目標に即した定期試験を課し、その内容で成績評価する。定期試験は到達目標の達成度に基づき、100点満点で評価する。

[教科書]

前もってプリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業前は、授業の進行状況を確認のうえで予習を行い、授業後は、配布したプリントをもとに、復習を行うとともに、参考文献にも目を通しておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学13

科目ナンバリング		G-LET23 66631 LJ38			
授業科目名 <英訳>	日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	国際高等教育院 教授 吉江 崇		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	木2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	日本古代宮廷社会の研究				
[授業の概要・目的]					
<p>日本古代における宮廷社会の特質について把握し、その様相や変遷がその後の歴史にどのような影響を与えたかについて理解することを目的とする。今期は、律令国家の根底に存在した氏族制に焦点をあて、氏族のあり方やその変容という観点から、律令制期の宮廷社会の姿を具体的に検討する。このような作業を通じて、日本古代史の様相やその変遷に関して、理解を深めることを目指す。</p>					
[到達目標]					
<p>日本における古代史の様相について具体的な知識を獲得するとともに、その研究方法を習得することで、日本の歴史の発展とその内容について、自らの視点から考察・説明できるようになる。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>日本古代の律令国家は、前代に存在した大王と諸氏族・人民との重層的な関係性を、律令法に依拠しながら合理化し、固定化した国家といえる。その頂点には官僚機構を介して国家統治を行う天皇が存在し、天皇の周辺には官僚機構と有機的に関係する宮廷社会が展開した。今期は、日本の律令国家の根底に存在した氏族制に焦点をあてながら、律令制期の宮廷社会の特質について検討する。まずは前代から続く氏族制が、唐から継受した律令法の中にいかに規定されたかを確認し、律令国家における氏族の位置付けについて整理する。次いで、政治の中枢にあった藤原氏の様相に焦点をあて、天皇と藤原氏との関係を検討しながら、奈良時代の氏族の姿を具体的に描き出す。最後に、新撰姓氏録の編纂や摂政・関白の出現を取り上げ、平安時代における氏族制の展開について検討する。</p> <p>授業の予定は以下の通りであるが、講義の進み具合などを勘案して、各回のテーマや回数を変更することがある。</p>					
<p>イントロダクション(第1回)</p> <p>1 問題の所在 律令国家と氏族制 (第2回~第3回)</p> <p>2 奈良時代の天皇と藤原氏の権力(第4回~第6回)</p> <p>3 新撰姓氏録の編纂にみる氏族制の展開(第7回~第10回)</p> <p>4 摂政・関白の出現と宮廷社会の変質(第11回~第13回)</p> <p>総括(第14回)</p> <p>《期末試験》</p> <p>フィードバック(第15回)</p>					
[履修要件]					
日本史に関する基礎知識があることが望ましい。					
----- 日本史学(特殊講義)(2)へ続く -----					

日本史学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

授業時間内で実施する小テスト（10点×2回）と学期末に課す期末レポート（80点）の合計素点（100点満点）で成績評価する。小テストは、授業内容の理解度から評点し、期末レポートは、問題設定の仕方、実証性・論理性、結論の説得力などの観点から、到達目標に即して評点する。

[教科書]

授業中にプリントを配布する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

授業前は、授業の進行を確認の上、授業内容を想定して予習を行い、授業後は、授業で配布したプリントをもとに、復習を行うこと。

（その他（オフィスアワー等））

授業は講義形式で行う。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学14

科目ナンバリング		G-LET23 66631 LJ38			
授業科目名 <英訳>	日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	国際高等教育院 教授 吉江 崇		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	木2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	日本古代宮廷社会の研究				
[授業の概要・目的]					
日本古代における宮廷社会の特質について把握し、その様相や変遷がその後の歴史にどのような影響を与えたかについて理解することを目的とする。今期は、平安時代における「家」の様相について具体的に検討し、「家」の分立という観点から古代から中世への展開を考察する。このような作業を通じて、日本古代史の様相やその変遷に関して、理解を深めることを目指す。					
[到達目標]					
日本における古代史の様相について具体的な知識を獲得するとともに、その研究方法を習得することで、日本の歴史の発展とその内容について、自らの視点から考察・説明できるようになる。					
[授業計画と内容]					
日本古代の律令国家は、前代に存在した大王と諸氏族・人民との重層的な関係性を、律令法に依拠しながら合理化し、固定化した国家といえる。その頂点には官僚機構を介して国家統治を行う天皇が存在し、天皇の周辺には官僚機構と有機的に関係する宮廷社会が展開した。今期は、平安時代における「家」の様相に焦点をあてながら、宮廷社会の変遷過程を検討する。まずは「氏」と「家」の概念について整理し、「氏」と「家」を素材に宮廷社会を考察することの意義を明確にする。次いで、政治の中枢にあった摂関家と、実務官僚を輩出した勸修寺流藤原氏とを取り上げ、平安時代の「家」の様相を具体的に検討する。最後に、「家」の分立が政治・宗教といかに関係するかについて概観し、宮廷社会の古代から中世への展開を考察する。 授業の予定は以下の通りであるが、講義の進み具合などを勘案して、各回のテーマや回数を変更することがある。					
イントロダクション(第1回)					
1 問題の所在 「氏」と「家」 (第2回~第3回)					
2 摂関家の成立(第4回~第6回)					
3 勸修寺流藤原氏にみる実務官僚の「家」(第7回~第10回)					
4 「家」の分立と政治および宗教(第11回~第13回)					
総括(第14回)					
《期末試験》					
フィードバック(第15回)					
[履修要件]					
日本史に関する基礎知識があることが望ましい。					
[成績評価の方法・観点]					
授業時間内で実施する小テスト(10点×2回)と学期末に課す期末レポート(80点)の合計素点(100点満点)で成績評価する。小テストは、授業内容の理解度から評点し、期末レポートは、					
----- 日本史学(特殊講義)(2)へ続く -----					

日本史学(特殊講義)(2)

問題設定の仕方、実証性・論理性、結論の説得力などの観点から、到達目標に即して評点する。

[教科書]

授業中にプリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業前は、授業の進行を確認の上、授業内容を想定して予習を行い、授業後は、授業で配布したプリントをもとに、復習を行うこと。

(その他(オフィスアワー等))

授業は講義形式で行う。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学15

科目ナンバリング		G-LET23 66631 LJ38			
授業科目名 <英訳>	日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	大阪商業大学経済学部 准教授 坂口 正彦		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	火5	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	近現代日本の村社会				
[授業の概要・目的]					
<p>地域社会における共同性の構築が社会的な課題となっている。また、人びとはなぜ・どのように共同するのか(しないのか)という問いは、学問領域を超えた普遍的なものに属するだろう。この講義では近現代日本の農山村、なかでも村社会(村落社会)の共同性について検討する。具体的にはまず村社会における共同性の特質を地主小作関係・合意形成をキーワードとして捉える。そのうえで、明治期から戦争を経て高度経済成長期という変転著しい歴史過程において、国家の政策が村社会においてどのように受容・執行されたのかに焦点を当てることにより、村社会の特質を把握する。</p>					
[到達目標]					
<p>近現代日本における村社会の機能(意義・限界)とその歴史的展開について理解を得ることができる。 国際比較や国内比較を行うことにより、各地域における村社会の共通性と差異について理解を得ることができる。 地域に関する歴史研究の学問的・社会的意義を理解し、調査研究の方法を知ることができる。</p>					
[授業計画と内容]					
<ol style="list-style-type: none"> 1 村社会とは何か 2 合意形成の方法 3 明治後期・大正期の村社会と国家 「改良」の時代 4 戦前期の村社会と国家 「更生」の時代 5 アジア・太平洋戦争期の村社会と国家 「動員」の時代 6 アジア・太平洋戦争期の「満洲」移民 7 戦後改革期の村社会と国家 「改革」の時代 8 高度経済成長期の村社会と国家 農村の「変化」 9 高度経済成長期の村社会と国家 山村の「変化」 10 家とは何か 11 共同労働(むら仕事)からみた村社会 12 倹約規範からみた村社会 13 アジアのなかの日本の村社会 14 村社会の研究法 15 まとめ <p>受講生の問題関心や理解度によって内容や構成を変更する可能性がある。</p>					
----- 日本史学(特殊講義)(2)へ続く -----					

日本史学(特殊講義) (2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

到達目標の達成度をはかるため、期末レポートを実施する。

【教科書】

使用しない
プリントを配付する。

【参考書等】

(参考書)

日本村落研究学会編(鳥越皓之責任編集)『むらの社会を研究する フィールドからの発想』
(農山漁村文化協会、2007年) ISBN:9784540061516

坂口正彦『近現代日本の村と政策 長野県下伊那地方 1910～60年代』(日本経済評論社、2014年) ISBN:9784818823419

【授業外学修(予習・復習)等】

授業時にさまざまな参考文献を紹介する。
参考文献や授業プリントを用いて予習・復習をおこなうこと。
その他、予習・復習の詳細については授業時に指示する。

(その他(オフィスアワー等))

教員と学生との連絡方法については授業時に指示する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学16

科目ナンバリング		G-LET24 66731 LJ38			
授業科目名 <英訳>	東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 吉本 道雅	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	火4	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	戦国時代の歴史認識				
【授業の概要・目的】					
西周王朝の滅亡(771BC)と秦始皇帝の統一(221BC)に挟まれた549年間は今日一般に「春秋戦国時代」と称されている。『春秋経』が記述する時代、すなわち本来の意味での春秋時代を前後と区分された一つの時代として扱うことは、前2世紀の公羊学派の言説に初見し、前4世紀後期の『孟子』に示唆されるが、前4世紀前中期の『左伝』や清華簡『繫年』にはなお見えない。本講義では、『左伝』『繫年』『孟子』を分析することで、前4世紀後期における歴史認識の急激な変容および、それをもたらした政治的背景を考察する。					
【到達目標】					
中国古代史研究の最新の知見、および史料の批判的分析の方法論を習得する。					
【授業計画と内容】					
以下の項目を逐次論ずる。 第1回～第2回 序論 第3回～第6回 『左伝』 第7回～第10回 『繫年』 第11回～第14回 『孟子』 第15回 結論 *フィードバック方法は授業中に説明する。					
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
講義の感想を中心とする毎回の小レポート(30点)と期末レポート(70点)に基づき総合的に評価する。					
【教科書】					
講義資料は担当者が準備する。					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介する					
【授業外学修(予習・復習)等】					
授業中に別途指示する。					
(その他(オフィスアワー等))					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

歴史文化学17

科目ナンバリング		G-LET24 66731 LJ38			
授業科目名 <英訳>	東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 吉本 道雅	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	火4	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	孔子伝の展開				
【授業の概要・目的】					
前漢中期の『史記』孔子世家は、孔子伝の基本的な枠組みを提示した。前漢後期から後漢における緯書や、魏晉における『孔子家語』『孔叢子』は孔子の事蹟を新たに創作した。北宋以降、孔子年譜の編纂が試みられ、明代以降、孔子絵伝たる聖蹟図が盛行した。本講義では、仇英・文徵明『聖蹟図』、夏洪基『孔子年譜綱目』を素材に、孔子世家以降の孔子伝の展開を考察する。					
【到達目標】					
歴史文献学に基づく、中国文献の批判的分析の方法論を習得する。					
【授業計画と内容】					
以下の項目を逐次論ずる。 第1回～第2回 序論 第3回～第14回 『聖蹟図』の分析 第15回 結論 * フィードバック方法は授業中に説明する。					
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
講義の感想を中心とする毎回の小レポート(30点)と期末レポート(70点)に基づき総合的に評価する。					
【教科書】					
講義資料は担当者が準備する。					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介する					
【授業外学修(予習・復習)等】					
授業中に別途指示する。					
(その他(オフィスアワー等))					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

歴史文化学18

科目ナンバリング	G-LET24 66731 LJ38				
授業科目名 <英訳>	東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 中砂 明德		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	月4	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	17世紀のイエズス会年報				
[授業の概要・目的]					
<p>イエズス会の海外布教は17世紀初年に高潮を迎える。それを表すのが、現地からの年次報告をまとめた諸年報であり、とくにイタリアで多く刊行された。本授業では、17世紀のイタリア語年報を読み解き、イエズス会の布教の広がりを確認するとともに、年報が果たした役割について考察する。</p>					
[到達目標]					
<p>近世におけるカトリックの世界的展開について知ることができる。 イエズス会の出版物の性格について知ることができる。</p>					
[授業計画と内容]					
<ol style="list-style-type: none"> 1、導入 2、16世紀のイエズス会年報 3、ニコラ・ピメンタのインド巡察書簡(1601.02年刊) 4、1603年日本年報(1605年刊) 5、布教報告集 ムガル・モノモタパ・ヴェルデ岬・マドゥライ(1615年刊) 6・7、日本・中国・ゴア・エチオピア年報(1621年刊) 8・9、エチオピア・マラバル・ブラジル・ゴア年報(1627年刊) 10、エチオピア年報(1628年刊) 11・12、エチオピア・中国年報(1629年刊) 13、日本年報(1632年刊) 14、まとめ 15、フィードバック 					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
レポートによる評価。レポートはこの授業で紹介する史料ないし研究にもとづいて作成してもらう。					
[教科書]					
使用しない プリントを配布する。					
----- 東洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----					

東洋史学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業で指示した参考文献を読むことで、授業内容を確認すると同時に疑問点を見つけ出し、次回の受講に備えること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学19

科目ナンバリング	G-LET24 66731 LJ38				
授業科目名 <英訳>	東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 中砂 明德		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	月4	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	近世ヨーロッパ人の世界認識				
[授業の概要・目的]					
<p>フランスの史家セルジュ・グリュジンスキは、スペイン・ハプスブルク家のフェリペ2世が1580年にポルトガル王となることで成立した帝国のもとで、グローバルな意識を持つ人々が生まれてきたと論じている。しかし、そうした作品の多くは今日ではあまり顧みられていない。本授業では、ヨーロッパを越えた世界記述を行った作品をとりあげてその内容を紹介するとともに、テキスト産生の背景をさぐる。</p>					
[到達目標]					
<p>1, 近世の西欧人の世界認識を知ることができる。 2, 忘れ去られたテキストの持つ意味について考えることができる。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>1、導入 2～4、ジョバンニ・ボテロ『一般誌』(1595) 5、ヘロニモ・デ・ロマン『世界の共和国』第三部(1595) 6、トマソ・カンパネッラ『スペイン王国論』(1600) 7、ジョアン・ドス・サントス『東エチオピア』(1609) 8、コルネリス・ヴィートフリート『東西インド一般史』(1611) 9、ピエール・デュ・ジャリック『東インド布教史』(1608-14) 10・11、ピエール・ダヴィティ『世界諸国誌』(1613) 12、サミュエル・パーチャス『巡礼』(1625) 13、アンソニー・シャーリー『全世界の政治的重み』(1622) 14、ヨハネス・デ・ラエト『新世界』(1625) 15、フィードバック</p>					
[履修要件]					
特になし					
----- 東洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----					

東洋史学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

レポートで評価する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業で紹介する参考文献を読むことによって、問題点を確認するとともに次週の授業に備える。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学20

科目ナンバリング	G-LET24 66731 LJ38				
授業科目名 <英訳>	東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 箱田 恵子		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	火2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	清末中国における国際法の受容と外交				
[授業の概要・目的]					
清末中国における近代国際関係、とくに国際法の受容については、国際法関連書の翻訳や主権などの概念理解など、思想史研究が盛んに行われてきた。本講義では実際の外交交渉と国際法受容の関係を中心に考察を行い、清末中国における近代国際関係の受容の特徴を検討する。					
[到達目標]					
清末中国における対外関係や国際環境の変化について基本的な事項を理解する。あわせて、清末中国の外交において国際法がどのように理解され、利用されていたのかを学び、清末中国における国際法観や近代国際関係の受容の特徴について考察を深めることができる。					
[授業計画と内容]					
第1回 導入：清代の対外関係 第2回 近代国際法について 第3回 アヘン戦争時期の国際法翻訳 第4回 『万国公法』の翻訳 第5回 清朝による領事裁判権の要求 第6回 台湾出兵、在外公館設置と国際法 第7回 在外公館と国際法 駐米公使の場合 第8回 在外公使と国際法 駐英公使の場合 第9回 日清戦争後の変化 第10回 第1回ハーグ平和会議への参加とその影響 第11回 第2回ハーグ平和会議への参加とその影響 第12回 マカオ領域確定交渉(1) 歴史的経緯 第13回 マカオ領域確定交渉(2) 領海問題と国際法 第14回 まとめ 第15回 フィードバック					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
授業へのコメント(40点)、学期末レポート(60点)					
----- 東洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----					

東洋史学(特殊講義)(2)

[教科書]

毎回レジュメを配布する。

[参考書等]

(参考書)

岡本隆司・箱田恵子編 『ハンドブック近代中国外交史』(ミネルヴァ書房,2019年) ISBN:
9784623084906

[授業外学修(予習・復習)等]

授業中に指示する参考書や論文に目を通すこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学21

科目ナンバリング	G-LET24 66731 LJ38				
授業科目名 <英訳>	東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 箱田 恵子		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	火2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	近代中国における「主権」意識について				
【授業の概要・目的】					
近代中国には租界や租借地、中東鉄道収用地など、中国の領土でありながら外国が行政や司法を行使する空間が様々な形態で存在した。日清戦争後には清朝もその問題性を認識し、自開商埠の設置によって対抗しようとしはじめる。近年、近代中国の「主権」意識については「領土」意識の形成との関係で議論がなされているが、本講義では租界など外国の行政・司法が行使された空間の存在が近代中国の「主権」意識に与えた影響を検討する。					
【到達目標】					
清末中国における対外関係や国際環境の変化について、基本的な事項を理解する。あわせて、中国に存在した租界などの空間の設置課程とその性質、清朝の認識の変化について学び、近代中国における「主権」意識の特徴について考察を深めることができる。					
【授業計画と内容】					
第1回 導入：前近代の広州における外国人への姿勢					
第2回 アヘン戦争と上海租界の設置					
第3回 第二次アヘン戦争と上海租界の拡大					
第4回 租界の諸相：法制度					
第5回 租界の諸相：社会					
第6回 日清戦争後の租界の増加					
第7回 利権獲競争と租借地					
第8回 自開商埠の登場					
第9回 満洲における自開商埠の拡大					
第10回 中東鉄道収用地					
第11回 日露戦争後の満洲の状況					
第12回 ハルビン自治問題 問題の性質					
第13回 ハルビン自治問題 露清交渉と清朝の「主権」					
14．まとめ					
15．フィードバック					
【履修要件】					
特になし					
----- 東洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----					

東洋史学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

授業へのコメント(40点)、期末レポート(60点)

[教科書]

毎回レジュメを配布します。

[参考書等]

(参考書)

岡本隆司『ハンドブック近代中国外交史』(ミネルヴァ書房, 2019年) ISBN:9784623084906

[授業外学修(予習・復習)等]

授業中に指示する参考書、論文に目を通しておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学22

科目ナンバリング		G-LET24 66731 LJ38			
授業科目名 <英訳>	東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	大阪大学大学院人文学研究科 河上 麻由子 准教授	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	金2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	古代アジアの対外交渉と仏教				
[授業の概要・目的]					
<p>この講義では、5世紀から10世紀のアジアの諸国間交渉において、仏教がどのような役割を果たしたのかを解説する。具体的には、仏教を鍵として行われた諸国間交渉(主として対中国交渉)を時代ごとに取り上げ、国際関係の推移とともに紹介する。それと同時に、仏教を鍵とする交渉を受け入れた側が、人々が仏教信仰に向けるエネルギーを王権に取り込むにあたって、どのような政策を実施していたのかを分析し、個々の交渉がいかなる政治的意味を持っていたのかを講義する。以上を通じて、受講生が、アジアの国際交渉の多様なあり方を理解する手がかりを得るとともに、アジア(特に中国)の王権の重層性を知ることが本授業の目的である。</p>					
[到達目標]					
<p>5世紀から10世紀に、アジア諸国間で、仏教を鍵とする国家間交渉が行われていたことについて、基礎的な事項を正確に列記することができるようになる。 そのような交渉が行われる背景として、当時のアジア(特に中国)で、仏教が王権強化に果たした役割を、適切・具体的に説明することができるようになる。 本授業で得た知識を他アジア地域・時代に応用し、授業では取り上げなかったアジアの諸国間交渉について、独自に論述することができるようになる。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>基本的に以下の予定にそって講義を進めるが、講義の進み具合や受講生の理解などに応じて、講義内容や回数を調整することがある。</p>					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 中華思想と仏教 2. 北朝の仏教 3. アジア諸国ー北朝の交渉と仏教 4. 南朝の仏教 5. アジア諸国ー南朝前半の交渉と仏教 6. アジア諸国ー南朝後半の交渉と仏教 7. 隋の皇帝の受菩薩戒 8. アジア諸国ー隋の交渉と仏教 9. 唐の皇帝の受菩薩戒(唐前半期) 10. 唐の皇帝の受菩薩戒(唐後半期) 11. アジアの諸国王たちの受菩薩戒 12. アジア諸国ー唐の交渉と仏教(唐前半期) 13. アジア諸国ー唐の交渉と仏教(唐後半期) 14. アジアの諸国間交渉と僧侶 15. まとめと振り返り 					
----- 東洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----					

東洋史学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

授業への参加状況（10点）、学期末のレポート（90点）で成績を評価する。
レポートは到達目標の達成度に基づき評価する。

【教科書】

使用しない
毎回、資料を配付する。

【参考書等】

（参考書）
河上麻由子 『古代アジア世界における対外交渉と仏教』（山川出版社、2011年）
このほか、授業中に適宜紹介する。

【授業外学修（予習・復習）等】

授業で使用する史料は、受講者にも予習することを期待する。事前に配布された史料については、各自で読み込んで、内容を確認しておくこと。

（その他（オフィスアワー等））

メールでアポイントメントを取った上で、授業後、またはズームにて面談する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学23

科目ナンバリング		G-LET24 66731 LJ38			
授業科目名 <英訳>	東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	関西大学文学部 教授 森部 豊	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期集中
曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	唐・五代史における墓誌研究 (Study of epitaphs in the Tang Dynasty and the Five Dynasties)				
[授業の概要・目的]					
<p>本講義では、唐・五代史の政治・軍事・エスニック集団という諸問題を取り上げ、墓誌を用いて分析する研究方法を提示し、その可能性と限界を見極め、21世紀の東洋史研究の方向を考えていきたい。</p> <p>(1) 政治：唐後半期の政治史に大きな影響をあたえた地方軍閥(藩鎮)のうち、唐朝に対し一貫として半独立割拠の姿勢をとりつづけた河朔三鎮を取り上げ、その構造を石刻史料を通じ概観し、唐から五代史の展開の中でどのようなポジションをとったのか考察する。</p> <p>(2) 軍事：唐代軍制の代名詞ともいべき「府兵制」は、近年、典籍史料の見直しなどを通じ、従来の理解を大幅に修正しつつある。しかし、石刻史料から見ると、実は「府兵制」崩壊後も、軍府官は存在し続けている。石刻史料はこの事実に対し、どのような答えを提示できるのか、分析していく。</p> <p>(3) 民族：唐王朝が多様なエスニック集団を内包し、または絶えず外から受け入れていたことは周知のことだが、そのエスニック集団の統治を、従来の「羈縻支配」の語で片づけてしまうのは、もはや時代錯誤である。墓誌をはじめとする石刻史料は、この問題に対し、どこまで新しい姿を提示できるのか、考察していく。</p> <p>(英訳：In this lecture, we will take up various issues related to politics, military, and ethnic groups in the history of the Tang Dynasty and the Five Dynasties, present a research method that analyzes epitaphs, identify its possibilities and limitations, and guide the direction of Oriental history research in the 21st century. I want to think about it.</p>					
[到達目標]					
<p>20世紀以来構築されてきた唐五代史の通説に対し、新しい見方と知識を身につけることができる。中国前近代史研究の新しい史料ともいべき墓誌の使い方、その有用性と限界を理解することができる。</p> <p>(英訳：1) You will be able to acquire new perspectives and knowledge on the commonly held theories about the history the Tang Dynasty and the Five Dynasties that have been established since the 20th century. 2) You will be able to understand the use of epitaphs, which can be called new historical materials for the study of pre-modern Chinese history, and their usefulness and limitations.</p>					
[授業計画と内容]					
第1回	イントロダクション				
第2回	河朔三鎮と藩鎮昭義				
第3回	「魏博節度使何弘敬墓誌」考察				
第4回	「魏博節度使何進滔德政碑」考察				
第5回	河朔三鎮のソグド系武人の淵源				
東洋史学(特殊講義)(2)へ続く					

東洋史学(特殊講義)(2)

- 第6回 六州胡に関する墓誌
- 第7回 五代におけるソグド武人
- 第8回 沙陀・李克用墓誌の考察
- 第9回 安祿山と契丹・奚
- 第10回 遼寧省朝陽市出土の契丹人墓誌と唐の羈縻支配
- 第11回 唐朝の羈縻支配再論
- 第12回 契丹人「李永定墓誌」の考察
- 第13回 唐代府兵制概論
- 第14回 墓誌と折衝府
- 第15回 フィードバック

(英訳)

- 1 : Introduction
- 2 : Heshuo Sanzhen and Zhoayi
- 3: Consideration of the epitaph of He Hongjing
- 4 : Consideration of the epitaph of He Jintao
- 5: The origin of the Sogdian warriors in Heshuo Sanzhen
- 6: Epitaphs about Liuzhou-Hu
- 7: Sogdian warriors in the Five Dynasties
- 8: Consideration of the epitaph of Li Keyong
- 9 : An Lushan and Qidan, Xi
- 10: Qidan epitaphs discovered in Chaoyang City, Liaoning Province and the control of Tang Dynasty
- 11: Re-examination of the Tang Dynasty's control over fibers
- 12 : Consideration of the epitaph of Li Yongding
- 13 : Introduction of Fubing Military System
- 14 : Epitaphs and Fubing Military System
- 15 : Feedback

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

講義への参加度：評価60%（毎回の授業でのコメントシート提出も含む）
レポート：評価40%（各自の問題関心に基づいてテーマを設定し、レポートにまとめる）
(英訳)Participation in lectures: 60% /Report: Evaluation 40%

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)

森部豊 (MORIBE Yutaka) 『ソグド人の東方活動と東ユーラシア世界の歴史的展開 (Activities of the Sogdians in China and historical development of the East Eurasian world)』 (関西大学出版部、2010年 (Kansai University Press, 2010))
森部 (MORIBE Yutaka) 『安祿山 (An Lushan)』 (山川出版社、2013年 (Yamakawa Shuppansha Ltd., 2013))

東洋史学(特殊講義)(3)へ続く

東洋史学(特殊講義)(3)

[授業外学修(予習・復習)等]

授業時に適宜参考資料等を指示するので、必ず目を通して理解を深めること。

(その他(オフィスアワー等))

担当教員への連絡は電子メール(y-moribe@kansai-u.ac.jp)で行ってください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学24

科目ナンバリング	G-LET24 66731 LJ38				
授業科目名 <英訳>	東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 教授 矢木 毅		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	火1	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	朝鮮史詳説(古代篇1)				
[授業の概要・目的]					
<p>朝鮮半島に展開した諸部族・諸国家の歴史を概観し、古代における政治・社会の特質について考察する。漢文史料の読解能力を高めるとともに、東アジア世界(特に中国史)との関係にも留意しつつ、朝鮮の歴史への理解を深めることを目的とする。</p>					
[到達目標]					
<p>基本史料(漢文)を読解して平易な現代日本文で説明する能力を養う。また、その史料の背景となる政治や社会の特質を理解し、現代社会との対比において説明する能力を養う。</p>					
[授業計画と内容]					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 朝鮮史の舞台 2. 衛氏朝鮮と楽浪郡 3. 高句麗の建国 4. 遼東の公孫氏政権 5. 遼東の慕容氏政権 6. 高句麗の遼東進出 7. 百済の建国 8. 加耶諸国と倭国 9. 新羅の建国 10. 新羅の建国(続き) 11. 隋唐帝国と高句麗 12. 百済の滅亡 13. 高句麗の滅亡 14. 高句麗の滅亡(続き) 15. まとめ(史料講読) 					
[履修要件]					
<p>中国古典文(漢文)の基礎的な読解能力(学部専門課程の講読授業履修程度)を身につけていることが望ましい。</p>					
----- 東洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----					

東洋史学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

学期中 2 回の課題レポート（各50点）、および平常点（授業時の質疑応答等）を勘案して総合的に評価する。

[教科書]

使用しない

講読史料、レジュメ等のプリントは事前に PandA で配信し、授業当日にも同じものを印刷して配布する。

[参考書等]

（参考書）

李成市ほか 『朝鮮史1』（山川出版社）ISBN:9784634462137

井上秀雄 『古代朝鮮』（講談社）ISBN:9784061596788

姜在彦 『朝鮮半島史』（角川ソフィア文庫）ISBN:9784044006419

矢木毅 『韓国・朝鮮史の系譜』（塙書房）ISBN:9784827331110

（関連URL）

<http://db.history.go.kr/>(韓国史データベース(韓国・国史編纂委員会))

[授業外学修(予習・復習)等]

配布プリントを事前に予習しておくこと。特に漢文史料を訓読できるようにしておくこと。

（その他(オフィスアワー等)）

講義を基本とするが、講読・演習の要素も加味する。受講生諸君の積極的な取り組みを期待する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学25

科目ナンバリング	G-LET24 66731 LJ38				
授業科目名 <英訳>	東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 教授 矢木 毅		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	火1	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	朝鮮史詳説(古代篇2)				
【授業の概要・目的】					
朝鮮半島に展開した諸部族・諸国家の歴史を概観し、古代における政治・社会の特質について考察する。漢文史料の読解能力を高めるとともに、東アジア世界(特に中国史)との関係にも留意しつつ、朝鮮の歴史への理解を深めることを目的とする。					
【到達目標】					
基本史料(漢文)を読解して平易な現代日本語で説明する能力を養う。また、その史料の背景となる政治や社会の特質を理解し、現代社会との対比において説明する能力を養う。					
【授業計画と内容】					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 百済遺民の動向 2. 高句麗遺民の動向 3. 新羅の「三韓」統一 4. 渤海と日本 5. 唐・平盧軍と渤海・新羅 6. 新羅の骨品制 7. 新羅の骨品制(続き) 8. 張保臯と円仁 9. 張保臯と円仁(続き) 10. 新羅海賊の出没 11. 新羅末の群盗 12. 崔致遠の帰国 13. 崔致遠の帰国(続き) 14. 唐朝の滅亡と新羅 15. まとめ(史料講読) 					
【履修要件】					
中国古典文(漢文)の基礎的な読解能力(学部専門課程の講読授業履修程度)を身につけていることが望ましい。					
【成績評価の方法・観点】					
学期中2回の課題レポート(各50点)、および平常点(授業時の質疑応答等)を勘案して総合的に評価する。					
【教科書】					
使用しない 講読史料、レジュメ等のプリントは、事前に PandA で配信し、授業当日にも同じものを印刷して 東洋史学(特殊講義)(2)へ続く					

東洋史学(特殊講義)(2)

配布する。

[参考書等]

(参考書)

李成市ほか『朝鮮史1』(山川出版社) ISBN:9784634462137
井上秀雄『古代朝鮮』(講談社) ISBN:9784061596788
姜在彦『朝鮮半島史』(角川ソフィア文庫) ISBN:9784044006419
矢木毅『韓国・朝鮮史の系譜』 ISBN:9784827331110

(関連URL)

<http://db.history.go.kr/>(韓国史データベース(韓国・国史編纂委員会))

[授業外学修(予習・復習)等]

配布プリントを事前に予習しておくこと。特に漢文史料を訓読できるようにしておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

講義を基本とするが、講読・演習の要素も加味する。受講生諸君の積極的な取り組みを期待する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学26

科目ナンバリング	G-LET24 66731 LJ38				
授業科目名 <英訳>	東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	追手門学院大学 基盤教育機構 教授 承 志		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	火3	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	マンジュ語『内国史院档』の研究				
【授業の概要・目的】					
マンジュ語『内国史院档』は、ダイチン=グルンの成立の歴史を研究する上で最も重要な原典史料であり、ジュシェン(女真)人のマンチュリア支配から中国本土支配への移行期の歴史を正確に把握するためにも必読の基本史料である。この授業では、マンジュ語の原典に基づいて文献解説と講読を行う。初回の授業では世界におけるマンジュ語史料の保存状況と研究の実態、必要な辞典類・目録・索引・史料集および主なマンジュ語史料のデジタルデータなどを紹介する。最終回ではまとめを行う。3-14回の授業では史料の読解、参加者との質疑・討論を行う。					
【到達目標】					
<ul style="list-style-type: none"> ・マンジュ語史料の研究方法を習得できる。 ・マンジュ語の基礎的な文法を学ぶことができる。 ・史料を読み解くことができるようになること。 					
【授業計画と内容】					
第1回 イン트로ダクション 第2回 『内国史院档』の研究史とその内容 第3回～14回 『内国史院档』の読解、参加者との質疑・討論 第15回 まとめ					
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
平常点(授業での発表など)60点、期末レポート40点					
【教科書】					
使用しない 読解史料は、授業の際にプリントを配布する。					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介する					
【授業外学修(予習・復習)等】					
授業前の予習を必須とする。					
(その他(オフィスアワー等))					
質問などがある場合には、Email(chengzhi@otemon.ac.jp)に連絡してください。					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

歴史文化学27

科目ナンバリング		G-LET24 66731 LJ38			
授業科目名 <英訳>	東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	追手門学院大学 基盤教育機構 教授 承 志	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	火3	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	マンジュ語『内国史院档』の研究				
【授業の概要・目的】					
<p>マンジュ語『内国史院档』は、ダイチン=グルンの成立の歴史を研究する上で最も重要な原典史料であり、ジュシェン(女真)人のマンチュリア支配から中国本土支配への移行期の歴史を正確に把握するためにも必読の基本史料である。この授業では、マンジュ語の原典に基づいて文献解説と購読を行う。初回の授業では世界におけるマンジュ語史料の保存状況と研究の実態、必要な辞典類・目録・索引・史料集および主なマンジュ語史料のデジタルデータなどを紹介する。最終回ではまとめを行う。前期の3-14回の授業ではマンジュ語入門と基礎文法、史料の読解、参加者との質疑・討論を行う。</p>					
【到達目標】					
<ul style="list-style-type: none"> ・マンジュ語史料の研究方法を習得できる。 ・マンジュ語の基礎的な文法を学ぶことができる。 ・史料を読み解くことができるようになること。 					
【授業計画と内容】					
<p>第1回 イン트로ダクション 第2回 『内国史院档』の研究史とその内容 第3回～14回 『内国史院档』の読解、参加者との質疑・討論 第15回 まとめ</p>					
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
平常点(授業での発表など)60点、期末レポート40点					
【教科書】					
使用しない 読解史料は、授業の際にプリントを配布する。					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介する					
【授業外学修(予習・復習)等】					
授業前の予習を必須とする。					
(その他(オフィスアワー等))					
質問などがある場合には、Email(chengzhi@otemon.ac.jp)に連絡してください。					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

歴史文化学28

科目ナンバリング	G-LET24 66731 LJ38				
授業科目名 <英訳>	東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 教授 宮宅 潔		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	月2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	中国古代制度史と出土文字史料				
【授業の概要・目的】					
近年中国古代史の研究に大きな影響を与えている新出史料、すなわち竹簡・木簡史料について概説する。出土地域ごとに発見史をたどりながら、主要な竹簡・木簡群を紹介し、それが歴史研究、特に制度史研究に与えたインパクトについて講義する。					
【到達目標】					
新出史料に関する知識を身につけ、そこからうかがえる古代社会の有様について理解を深め、古代史研究の基礎を確立する。					
【授業計画と内容】					
<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 中国簡牘史料の発見史 3. 楚簡の概観 4. 秦簡の概観 5. 墓葬出土漢簡の概観 6. 辺境出土漢簡の概観 					
初回のガイダンスの後、各単元を2～3回に分けて講義する。					
【履修要件】					
中国古代史に関する基本的知識を身につけていることが望ましい。					
【成績評価の方法・観点】					
期末のレポート(50点)に平常点(授業中の質問・発言、小テスト 50点)を加味して評価する。					
【教科書】					
授業中に指示する					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介する					
【授業外学修(予習・復習)等】					
特に予習は必要としないが、授業内容の復習とともに、関連する諸分野の研究にも関心を広げてもらいたい。					
(その他(オフィスアワー等))					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

歴史文化学29

科目ナンバリング		G-LET24 66731 LJ38			
授業科目名 <英訳>	東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 教授 宮宅 潔	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	月2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	法廷から眺めた中国古代				
[授業の概要・目的]					
<p>近年公表されている中国古代の出土文字史料のうち、裁判に関連する文献(睡虎地秦簡「封診式」、岳麓書院所蔵簡や張家山漢簡の裁判記録)を活用し、統一秦の頃から漢代初期に至るまでの、政治や社会の状況について講義する。まず、裁判が行われる場やその手続きについて整理し、制度の特徴や限界を明らかにする。そのうえで居住区や交易の場など、当時の地域社会の様子について紹介する。さらに秦～漢初の政治状況、たとえば統一に伴う混乱や、皇帝と諸侯王との関係などについて、いくつかトピックを取りあげて講義する。こうした考察を通じて、中国古代の専制国家の姿について、理解を深めることを目指す。</p>					
[到達目標]					
<p>中国古代史の諸制度について、基本的な知識を身につけたうえで、そこからうかがえる古代社会の有様について理解を深め、古代史研究の基礎を確立する。</p>					
[授業計画と内容]					
<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 裁判制度について <ol style="list-style-type: none"> (1) 秦漢時代の法制史料 (2) 裁きの場 獄という場所 (3) 裁判手続きの概要とその特徴 3. 社会のありさま <ol style="list-style-type: none"> (1) 里の風景 (2) 市の風景 4. 秦～漢初の諸相 <ol style="list-style-type: none"> (1) 秦と楚 (2) 戦争と平和 (2) 逃亡者たち <p>ガイダンスの後、各単元を1～2回に分けて講義する。</p>					
[履修要件]					
<p>中国古代史に関する基本的知識を身につけていることが望ましい。</p>					
----- 東洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----					

東洋史学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

期末レポート(50点)に平常点(50点 授業への参加態度、特に授業内での質問・発言)を加味して評価する。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

特に予習は必要としないが、授業内容の復習とともに、関連する諸分野の研究にも関心を広げてもらいたい。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学30

科目ナンバリング	G-LET24 66731 LJ38				
授業科目名 <英訳>	東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 教授 古松 崇志		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	水1	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	中国石刻史料の研究				
[授業の概要・目的]					
中国史研究において、石刻史料はきわめて重要な史料群である。本講義では、中国本土およびその周辺の石刻史料を取り上げ、歴史研究に利用するための手法を、実際に受講生が史料(京都大学人文科学研究所所蔵の拓本実物を含む)を読み解きながら学んでいく。					
[到達目標]					
漢語で書かれた中国石刻史料の史料としての特性を理解し、研究手法を学びとって、みずからの研究に活用できるようにする。					
[授業計画と内容]					
<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス(1回) 2. 石刻学・石刻研究史の概観(2~3回) 3. 石刻史料へのアクセス(伝統的な石刻文献を含めた典籍文献、新出史料集、ウェブ上のデータベースなど)概観(2~3回) 4. 石刻史料積読(7~9回) 5. まとめ(1回) <p>積読する石刻史料は、担当者の専門分野の契丹(遼)・宋・金・元(モンゴル帝国)時代のものを中心に上げる予定だが、適宜受講生の関心に応じた史料を読むことも検討している。また、担当者が勤務する京都大学人文科学研究所所蔵の拓本を実見する機会を設けるほか、できるだけ拓影(拓本の写真)のあるものを用いるが、典籍文献(伝統的な石刻文献や地方志、文集など)のみに載せられているものも適宜取り上げる。</p> <p>基本的に以上の予定にしたがって講義を進めるが、回数など変更の可能性があることに留意されたい。</p>					
[履修要件]					
前期・後期つづけて履修することが望ましい。					
[成績評価の方法・観点]					
平常点(授業での発表など)50点、期末レポート50点					
----- 東洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----					

東洋史学(特殊講義)(2)

[教科書]

积読史料はプリントなどを配布する。

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

积読する史料を指定したあとは、受講者各自に読んでもらうため、授業前の予習を必須とする。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学31

科目ナンバリング	G-LET24 66731 LJ38				
授業科目名 <英訳>	東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 教授 古松 崇志		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	水1	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	中国石刻史料の研究				
[授業の概要・目的]					
中国史研究において、石刻史料はきわめて重要な史料群である。本講義では、中国本土およびその周辺の石刻史料を取り上げ、歴史研究に利用するための手法を、実際に受講生が史料(京都大学人文科学研究所所蔵の拓本実物を含む)を読み解きながら学んでいく。					
[到達目標]					
漢語で書かれた中国石刻史料の史料としての特性を理解し、研究手法を学びとって、みずからの研究に活用できるようにする。					
[授業計画と内容]					
1. ガイダンス(1回) 2. 石刻史料積読(13回) 3. まとめ(1回)					
積読する石刻史料は、担当者の専門分野の契丹(遼)・宋・金・元(モンゴル帝国)時代のものを中心に上げる予定だが、適宜受講生の関心に応じた史料を読むことも検討している。また、担当者が勤務する京都大学人文科学研究所所蔵の拓本を実見する機会を設けるほか、できるだけ拓影(拓本の写真)のあるものを用いるが、典籍文献(伝統的な石刻文献や地方志、文集など)のみに載せられているものも適宜取り上げる。					
[履修要件]					
前期・後期つづけて履修することが望ましい。					
[成績評価の方法・観点]					
平常点(授業での発表など)50点、期末レポート50点					
[教科書]					
積読史料はプリントなどを配布する。					
[参考書等]					
(参考書) 授業中に紹介する					
----- 東洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----					

東洋史学(特殊講義)(2)

[授業外学修（予習・復習）等]

積読する史料は受講者各自に読んでもらうため、授業前の予習を必須とする。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学32

科目ナンバリング	G-LET24 76741 SJ38				
授業科目名 <英訳>	東洋史学（演習Ⅰ） Oriental History (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 吉本 道雅		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	金3	授業形態	演習（対面授業科目）	使用言語	日本語
題目	『春秋左伝正義』				
【授業の概要・目的】					
十三経注疏の一つである『春秋左伝正義』を輪読する。					
【到達目標】					
漢文資料を文法的に正確に読解する能力を身につけるとともに、経学（中国古典注釈学）の基礎的な方法論・春秋時代史の研究資料としての活用法を理解する。					
【授業計画と内容】					
<p>昨年度の続き。魯の年代記の形式を採る『春秋』と、その注釈書の形式を採る『左伝』は春秋時代を研究するための基本的な資料である。『春秋』『左伝』の成立過程については今なお活発な議論が進行中である。『左伝』には、西晋・杜預の『春秋経伝集解』、唐・孔穎達の『正義』が附されている。本演習では『正義』を精読することで、漢文を文法的に正確に読解する能力を養うとともに、『正義』の引用する唐代以前の諸文献を調査し、また『正義』の論理構成に習熟することによって、経学の基本的な方法論を理解する。また、先秦期の文献・出土資料を全面的に参照することによって、『春秋』『左伝』の成立過程についても考察し、先秦史研究の資料学的素養を身につける。</p> <p>第1回～第15回 『春秋左伝正義』の輪読 * フィードバック方法は授業中に説明する。</p>					
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
平常点。					
【教科書】					
教材は担当教員が準備する。					
【参考書等】					
（参考書） 授業中に紹介する					
【授業外学修（予習・復習）等】					
発表の有無に関わらず、2葉程度は予習しておくことが必須である。文法的な読解とともに、引用文献（出典）の調査が不可欠である。					
（その他（オフィスアワー等））					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

歴史文化学33

科目ナンバリング	G-LET24 76741 SJ38				
授業科目名 <英訳>	東洋史学（演習Ⅰ） Oriental History (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 吉本 道雅		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	金3	授業形態	演習（対面授業科目）	使用言語	日本語
題目	『春秋左伝正義』				
【授業の概要・目的】					
十三経注疏の一つである『春秋左伝正義』を輪読する。					
【到達目標】					
漢文資料を文法的に正確に読解する能力を身につけるとともに、経学（中国古典注釈学）の基礎的な方法論・春秋時代史の研究資料としての活用法を理解する。					
【授業計画と内容】					
前期の続き。魯の年代記の形式を採る『春秋』と、その注釈書の形式を採る『左伝』は春秋時代を研究するための基本的な資料である。『春秋』『左伝』の成立過程については今なお活発な議論が進行中である。『左伝』には、西晋・杜預の『春秋経伝集解』、唐・孔穎達の『正義』が附されている。本演習では『正義』を精読することで、漢文を文法的に正確に読解する能力を養うとともに、『正義』の引用する唐代以前の諸文献を調査し、また『正義』の論理構成に習熟することによって、経学の基本的な方法論を理解する。また、先秦期の文献・出土資料を全面的に参照することによって、『春秋』『左伝』の成立過程についても考察し、先秦史研究の資料学的素養を身につける。 第1回～第15回 『春秋左伝正義』の輪読 *フィードバック方法は授業中に説明する。					
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
平常点。					
【教科書】					
教材は担当教員が準備する。					
【参考書等】					
（参考書） 授業中に紹介する					
【授業外学修（予習・復習）等】					
発表の有無に関わらず、2葉程度は予習しておくことが必須である。文法的な読解とともに、引用文献（出典）の調査が不可欠である。					
（その他（オフィスアワー等））					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

歴史文化学34

科目ナンバリング		G-LET24 76743 SJ38			
授業科目名 <英訳>	東洋史学(演習II) Oriental History (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 中砂 明德	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	火5	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	天啓年間の政争				
【授業の概要・目的】					
<p>本授業では、明末の党争に関する重要な史料とされている金日升の『頌天臚筆』巻5・6に収録される「東林六君子」関係の文章を読む。「東林六君子」とは、天啓年間に朝政を掌握した宦官魏忠賢に抵抗して処刑ないし自死した人々である。政争の敗者であった彼らは崇禎年間に名誉回復される。本書を通じてその過程をみてゆく。</p>					
【到達目標】					
<p>1、白文テキストを読むことで、自力で句読する能力が身に付く。 2、明末の政治情勢を知ることができる。 3、政争のメカニズムを知ることができる。</p>					
【授業計画と内容】					
<p>進度については、受講生次第なので、確言できない。 第1回 史料の性質について説明 第2～9回 巻5(楊漣、左光斗、袁化中) 第10～14回 巻6(魏大中、周朝瑞、顧大章) 第15回 フィードバック</p>					
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
平常点で評価する。					
【教科書】					
テキストはこちらから配布する。					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介する					
【授業外学修(予習・復習)等】					
前もってテキストを配布するので、十分に予習しておくこと。担当者には訳稿の提出を求める。					
(その他(オフィスアワー等))					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

歴史文化学35

科目ナンバリング		G-LET24 76743 SJ38			
授業科目名 <英訳>	東洋史学(演習II) Oriental History (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 中砂 明德	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	火5	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	『明清档案』				
【授業の概要・目的】					
<p>中央研究院が刊行中の『明清档案』に収録されている清朝順治年間の文書を読み、中国制圧の過程を清朝サイドから見てゆく。明清の王朝交代は、日本では「華夷変態」として、またヨーロッパでも宣教師によってそのニュースが紹介されるなど、大事件として受けとめられていた。しかし、明末清初の動乱に関する歴史記述とそれを承けた研究は、満州人王朝の世界史的意義が強調されるようになった今日においてもなお「敗者」の側に片寄りすぎている。あらためてこの史料集を読むことで、勝者の視点から冷静に支配確立の過程を見てゆきたい。</p> <p>今年は順治八年(1651)の档案を読む。清朝支配の試行錯誤の過程を、文書を通じてたどってゆく。</p>					
【到達目標】					
<ol style="list-style-type: none"> 1、白文に取り組むことで、自力で句読を行う能力を身につけることができる。 2、行政文書の形態に習熟できる。 3、清朝の中国征服史について理解を深めることができる。 					
【授業計画と内容】					
<p>1回 『明清档案』のテキストの性格を説明し、昨年読んだところについて言及しながら、順治年間前半の政治情勢について解説する。1コマにつき一、二本を読む予定。</p> <p>2～14回でとりあげる予定の档案のテーマは以下のとおり。</p> <p>反乱(山西、湖広、江西、浙江)、漕運、殺人、胥吏、黄河の治水、官員の挙劾など</p> <p>15回 フィードバック</p>					
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
平常点で評価する。					
【教科書】					
プリントを配布する。					
----- 東洋史学(演習II)(2)へ続く -----					

東洋史学(演習II)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

1週間前に当番を決めて、文書1本ないしその一部を担当してもらうので、それについては責任をもって予習すること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学36

科目ナンバリング		G-LET24 76745 SJ38			
授業科目名 <英訳>	東洋史学（演習Ⅲ） Oriental History (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 箱田 恵子	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	木1	授業形態	演習（対面授業科目）	使用言語	日本語
題目	薛福成『庸庵海外文編』				
【授業の概要・目的】					
薛福成は清末の洋務思想家、外交官として知られる。この授業では、彼がイギリスを中心に欧州に赴任していた時期の著作を集めた『庸庵海外文編』を輪読し、清末の知識人・外交官の海外認識や洋務思想について理解する。					
【到達目標】					
清末の漢文史料を正確に読解する能力を身につけるとともに、関連する歴史事象や史料を調査できるようにする。 清末知識人の海外認識と洋務思想について理解する。					
【授業計画と内容】					
第1回 薛福成とその著作について 第2回 清末文書の読解方法について（教員による読解） 第3回～第14回 『庸庵海外文編』の輪読 第15回 フィードバック					
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
平常点で評価する。					
【教科書】					
教材は担当教員が準備する。					
【参考書等】					
（参考書） 授業中に紹介する					
【授業外学修（予習・復習）等】					
受講生の状況にあわせて進度は調整するが、毎回2葉程度の予習は必要となる。関連する歴史事象や文献の調査も行うこと。					
（その他（オフィスアワー等））					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

歴史文化学37

科目ナンバリング	G-LET24 76745 SJ38				
授業科目名 <英訳>	東洋史学(演習III) Oriental History (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 箱田 恵子		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	木1	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	薛福成『庸庵海外文編』				
【授業の概要・目的】					
清末の洋務思想家・外交官として知られる薛福成の『庸庵海外文編』を輪読し、あわせて郭嵩燾など他の清末知識人の思想との比較を行い、薛福成の洋務思想の位置づけ、変法思想との関係などを検討する。					
【到達目標】					
清末の漢文史料の正確な読解能力を身につけるとともに、関連する歴史事象や文献を調査できるようになる。薛福成の洋務思想を他の清末知識人の思想と比較し、薛の洋務思想の特徴を理解する。					
【授業計画と内容】					
第1回 清末の洋務・変法思想について 第2回 清末の漢文史料の読解について(教員による読解) 第3回-第14回 『庸庵海外文編』の輪読、関連文献との比較 第15回 フィードバック					
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
平常点で評価する。					
【教科書】					
教材は担当教員が準備する。					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介する					
【授業外学修(予習・復習)等】					
受講生の状況にあわせて進度は調整するが、毎回2葉程度の予習は必要。関連する歴史事象や文献の調査なども行うこと。					
(その他(オフィスアワー等))					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

歴史文化学38

科目ナンバリング	G-LET24 7M303 SJ38				
授業科目名 <英訳>	東洋史学(演習) Oriental History (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 吉本 道雅		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	金5	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	中国古代史史料学				
[授業の概要・目的]					
銭穆『先秦諸子繫年』を輪読し、関連史料・研究を批判的に検討する。					
[到達目標]					
中国古代史研究に関わる文献・出土文字資料・考古学的資料の運用能力を向上させる。					
[授業計画と内容]					
昨年度の続き。従来の戦国史(453-221BC)研究は、戦国後期の秦史に偏しており、戦国前・中期や六国については、資料の絶対量の乏しさに加えて、『史記』紀年の混乱が、歴史的推移の時系列的把握を困難にしてきた。1990年代以降の戦国楚簡の出現は、とりわけ思想史的研究を活発化させているが、かえって文献に対する研究の立ち後れを露呈させている。本演習では、銭穆『先秦諸子繫年』(香港中文大学、1956)を輪読し、関連史料・研究を批判的に検討することによって、中国古代史研究に関わる文献・出土文字資料・考古学的資料の運用能力を向上させる。 第1回～第15回 『先秦諸子繫年』の輪読 *フィードバック方法は授業中に説明する。					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
平常点。					
[教科書]					
講義資料は担当者が準備する。					
[参考書等]					
(参考書) 授業中に紹介する					
[授業外学修(予習・復習)等]					
発表の有無に関わらず、5頁程度は予習しておくことが必須である。文法的な読解とともに、引用文献(出典)の調査が不可欠である。					
(その他(オフィスアワー等))					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

歴史文化学39

科目ナンバリング		G-LET24 7M303 SJ38			
授業科目名 <英訳>	東洋史学(演習) Oriental History (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 吉本 道雅	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	金5	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	中国古代史史料学				
【授業の概要・目的】					
銭穆『先秦諸子繫年』を輪読し、関連史料・研究を批判的に検討する。					
【到達目標】					
中国古代史研究に関わる文献・出土文字資料・考古学的資料の運用能力を向上させる。					
【授業計画と内容】					
前期の続き。従来の戦国史(453-221BC)研究は、戦国後期の秦史に偏しており、戦国前・中期や六国については、資料の絶対量の乏しさに加えて、『史記』紀年の混乱が、歴史的推移の時系列的把握を困難にしてきた。1990年代以降の戦国楚簡の出現は、とりわけ思想史的研究を活発化させているが、かえって文献に対する研究の立ち後れを露呈させている。本演習では、銭穆『先秦諸子繫年』(香港中文大学、1956)を輪読し、関連史料・研究を批判的に検討することによって、中国古代史研究に関わる文献・出土文字資料・考古学的資料の運用能力を向上させる。 第1回～第15回 『先秦諸子繫年』の輪読 *フィードバック方法は授業中に説明する。					
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
平常点。					
【教科書】					
講義資料は担当者が準備する。					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介する					
【授業外学修(予習・復習)等】					
発表の有無に関わらず、5頁程度は予習しておくことが必須である。文法的な読解とともに、引用文献(出典)の調査が不可欠である。					
(その他(オフィスアワー等))					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

歴史文化学40

科目ナンバリング		G-LET24 7M303 SJ38			
授業科目名 <英訳>	東洋史学（演習） Oriental History (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 中砂 明德	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	金2	授業形態	演習（対面授業科目）	使用言語	日本語
題目	『清史鏡鑑』				
[授業の概要・目的]					
<p>21世紀にはじまった中国の清史編纂事業の副産物である『清史鏡鑑』を選読し、討論する。本シリーズは、この事業に関係する研究者たちの短文を集めて2006年に編集が開始された『清史参考』をもとに、一般向けに出版したもので、現在まで13冊が刊行されている。「真実の歴史をもって青年・大衆を教育することを目的とする」本シリーズを概観することで、現在の中国における公式的な清朝史観を把握することを目指す。</p>					
[到達目標]					
<p>1、中国の清史研究の現況を把握できる。 2、歴史研究のアクチュアリティについて考察を深めることができる。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>1、国家清史編纂事業について 2、馬大正「清朝の辺境政策の現代への啓示」 3、「新修『清史』台湾関係人物伝稿」鄭成功、施琅、劉銘伝、丘逢甲 4、趙晨嶺「台湾版『清史』の得失」「趙爾巽の『清史稿』への貢献と限界」 「台湾“国史館”と“新清史”」 5、李文海「辛亥革命百年の歴史観」「清朝滅亡百周年随想」 6、楊東梁「日本の釣魚島占領」「清代の中国と琉球」 7、戴逸「中日甲午戦争と世界史」王曉秋「甲午戦争と中華民族の覚醒」 8、秦暉「太平天国：伝統的な民変の特殊標本」 9、王汎森「清末の歴史記憶と国家の構築」 10、周永平「新疆統治の経験」 11、張世明「八旗衰退の原因」 12、楊益茂「満洲人の漢化」 13、劉鳳雲「“新清史”“内陸アジア”研究の視角について」 14、楊念群「漢化論と満洲特性論をこえて」 15、フィードバック</p>					
----- 東洋史学（演習）(2)へ続く -----					

東洋史学（演習）(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点で評価する。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

担当者は、その授業で取り上げる著者の履歴や著作をリストアップしたレジюмеを作成すること。

（その他（オフィスアワー等））

書講師がコピーを提供します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学41

科目ナンバリング		G-LET24 7M303 SJ38			
授業科目名 <英訳>	東洋史学（演習） Oriental History (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 中砂 明德	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	金2	授業形態	演習（対面授業科目）	使用言語	日本語
題目	外国語論文のレビュー				
【授業の概要・目的】					
<p>この授業では、受講者が自らの関心にしたがって外国語（受講者にとっての外国語。英語でも、中国語でも、他の言語でもよい）の論文を選んで、その内容を紹介するとともに、その論文の学界における位置づけを参加者（講師も含む）にわかりやすいように行う。</p> <p>かつては、言語ごとに論文のスタイルはずいぶん異なっていた。現在でも、日本語、中国語、英語それぞれ特有の「癖」は存在するが、英語論文の影響により、かなり平準化してきている。外国語論文を読むことで、ある種のスタンダードを知るとともに、その問題点を個々の受講者が感じ取るようになれば、この授業の目的は達成される。</p>					
【到達目標】					
<p>1、外国語論文の「癖」を知ること、自国語論文のスタイルについて再考することができる。</p> <p>2、日本では数少ない「論文のレビュー」（『史学雑誌』の「回顧と展望」は、単なる紹介に過ぎない）を授業の場で公表し、それに対する疑義を受け止めるなかで、自分なりの評価の型を作ることができる。</p> <p>3、査読者の立場に身を置くことで、投稿者としての自己を振り返ることができる（ちなみに、査読付きの論文だからといって、これ以上の査読を必要としないほどに完成しているわけではない）。</p>					
【授業計画と内容】					
<p>1回 全体の趣旨説明</p> <p>2～14回 受講者が1回分を担当する。時間の半分を論文の紹介、評にあて、残り半分の時間で、出席者全員による質疑応答を行う。受講者の数が少ない場合には、適宜受講者自身の研究発表の場を設ける。</p> <p>15回 フィードバック</p>					
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
平常点による評価を行う。					
----- 東洋史学（演習）(2)へ続く -----					

東洋史学（演習）(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

担当論文を口頭で紹介する際に、補助材料としてレジュメを作成すること。

（その他（オフィスアワー等））

参加者は少ないことが予想されるので、他専修からの参加も歓迎する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学42

科目ナンバリング	G-LET24 7M303 SJ38				
授業科目名 <英訳>	東洋史学(演習) Oriental History (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 箱田 恵子		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	月5	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	『外交報』と関連史料の精読				
【授業の概要・目的】					
『外交報』は、日本の『外交時報』にならい、1902年に張元済らによって創刊された外交・国際問題の評論誌であり、日本をはじめ海外の外交・国際関係に関する論説、報道も多数翻訳されている。この授業では、『外交報』から巖復らの論説や海外の論説・報道の翻訳記事などを選んで精読する。海外の論説・報道の翻訳記事については、もとの文献と比較し、近代的概念の翻訳状況や語彙の変化についても考察する。後半は受講生が自らの関心によって文章を選択し、関連文献とあわせて読解を担当する。					
【到達目標】					
20世紀初めの漢文史料を正確に読解する能力を身につけるとともに、関連する文献を調査する方法を理解する。翻訳記事をもとの文献と照らしあわせて精読することで、近代中国における近代的概念の翻訳状況や清末知識人の認識、語彙の変化などについても理解する。					
【授業計画と内容】					
第1回 ガイダンス：史料の説明や担当について 第2回-第9回 『外交報』の中から重要な文章を選んで輪読（翻訳記事についてはもとの文献もあわせて読む） 第10回-第14回 受講生が選んだ記事を担当して読解（関連文献もあわせて読む） 第15回 フィードバック					
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
平常点で評価する。					
【教科書】					
教材は担当教員が準備する。					
【参考書等】					
（参考書） 授業中に紹介する					
【授業外学修（予習・復習）等】					
前半は輪読のため、毎回の予習が必要。後半は自分の担当会にはレジュメを作成すること。関連文献の調査も必要となる。					
（その他（オフィスアワー等））					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

歴史文化学43

科目ナンバリング		G-LET24 7M303 SJ38			
授業科目名 <英訳>	東洋史学(演習) Oriental History (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 箱田 恵子	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	月5	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	『外交報』と関連史料の精読				
【授業の概要・目的】					
『外交報』は、日本の『外交時報』にならい、1902年に張元済らによって創刊された外交・国際問題の評論誌であり、日本をはじめ海外の外交・国際関係に関する論説、報道も多数翻訳されている。この授業では、前期に引き続き『外交報』から巖復らの論説や海外の論説・報道の翻訳記事などを選んで精読する。海外の論説・報道の翻訳記事については、もとの文献と比較し、近代的概念の翻訳状況や語彙の変化についても考察する。後半は受講生が自らの関心によって文章を選択し、関連文献とあわせて読解を担当する。					
【到達目標】					
20世紀初めの漢文史料を正確に読解する能力を身につけるとともに、関連する文献を調査する方法を理解する。翻訳記事をもとの文献と照らしあわせて精読することで、近代中国における近代的概念の翻訳状況や清末知識人の認識、語彙の変化などについても理解する。					
【授業計画と内容】					
第1回 ガイダンス：史料の説明や担当について 第2回-第9回 『外交報』の中から重要な文章を選んで輪読（翻訳記事についてはもとの文献もあわせて読む） 第10回-第14回 受講生が選んだ記事を担当して読解（関連文献もあわせて読む） 第15回 フィードバック					
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
平常点で評価する。					
【教科書】					
教材は担当教員が準備する。					
【参考書等】					
（参考書） 授業中に紹介する					
【授業外学修（予習・復習）等】					
前半は輪読のため、毎回の予習が必要。後半は自分の担当会にはレジュメを作成すること。関連文献の調査も必要となる。					
（その他（オフィスアワー等））					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

科目ナンバリング		G-LET25 66831 LJ38			
授業科目名 <英訳>	西南アジア史学(特殊講義) West Asian History (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	イスラーム地域研究センター 仁子 寿晴 研究員	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	木3	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	イスラーム言語哲学史研究				
[授業の概要・目的]					
<p>《授業全体のテーマ》</p> <p>通常のイスラーム思想史においてほとんど顧みられないのだが、或る類の言語哲学形態(なにがしかの意味でアラビア語から立ち上げられる言語哲学)がイスラーム思想の歴史において重要な柱であったと私は思う。ここ数年は、そうした言語哲学を集中的に扱ってきた。古典期バスラ系カラム(神学)、イブン・ハズムの極端なタイプのザーヒル主義、哲学者ファーラービーの言語思想を論じたのは、そうした流れにおいてだ(言語哲学的色彩が強いイスラーム思想家としてハンバル派法学者イブン・タイミーヤ、更には、後期アシュアリー派神学も視野に入る)。昨年度講義では、ジャック・ランガド(Jacques Langhade)の『クルアーンから哲学へ』(Du coran a la philosophie)を採り上げた。ランガドは、ファーラービー(abu Nasr al-Farabi, 西暦950年歿)の言語思想に焦点を合わせていくのだが、副題(La langue arabe et la formation du vocabulaire philosophique de Farabi)が示すようにランガドは、西暦十世紀までにファーラービーの言語であるアラビア語を省察してきたアラビア語=イスラーム文化の言語思想を網羅的に調べ、ファーラービーが如何にその言語思想の歴史を己れの哲学言語形成に組み込んだかを丹念に追う。その研究は、ファーラービーの哲学的思惟に新たな光を当てるだけでなく、元来、外来思想とのみ目されてきた哲学(ファルサファ)の持つ重要な、だがイスラーム思想史記述からはすっぽりと抜け落ちる局面を浮彫にする。</p> <p>本講義は、ガザーリー(西暦1111年歿)以降後期アシュアリー学団神学の動向を決定づけた最重要人物ファフルッディーン・アッ=ラーズィー(西暦1209年歿)である。アシュアリー学団の神学の転換点にあるファフルッディーン・アッ=ラーズィー(西暦一二〇九年歿)の思想を採り挙げる。私が最も信頼する研究者Roger Arnaldezの研究書(Fakhr al-Din al-Razi: Commentateur du Coran et philosophe)の内容を追うことでファフルッディーン・アッ=ラーズィーの思想を探る端緒としたい。</p> <p>ファフルッディーン・アッ=ラーズィーは、哲学者イブン・スィーナ(西暦1037年歿)の『指示と勧告』(al-Isharat wal-tanbihat)に批判的註を施したことで知られるが、更に言えば、神学者で初めてイブン・スィーナの著作に附註したばかりでなく、或る意味で、西暦12世紀ないし13世紀から始まる(少なくとも20世紀初めまで続く)イスラーム思想界における注疏伝統の発端となる人物である。イスラーム思想界における注疏伝統の一つの局面は、伝統的神学(カラム)と哲学、更には神秘主義が独特なし方で統合されることだ。ファフルッディーン・アッ=ラーズィーにおいてその局面がどのように立ち現れるのかを観ることは、イスラーム後期思想を考察し探究するために必須だと思われる。そしてその局面がファフルッディーン・アッ=ラーズィーではイスラームにとって欠かすことのできないクルアーン注釈の形式の下で現れる。それと共に、こうした後期神学の開拓者の一人であるファフルッディーン・アッ=ラーズィーにおいて、古典期神学の言語哲学とファルサファに見えた言語哲学が如何なるし方で統合されるのか、更には、その統合される場をラーズィーがどのように設定するのかに注視したい。</p> <p>講義は、Roger Arnaldez, Fakhr al-Din al-Razi: Commentateur du Coran et philosophe, J. Vrin, 2002の章立てに沿って行う。第1回講義で必要最小限概説したのち、第2回から第4回にファフルッディーン・アッ=ラーズィーの文化的思想的環境を、第5回から第7回に、文献から知られるファフルッディーン・アッ=ラーズィーが行った論争の実態を追う。第8回から第12回までは、ファフルッディーン</p>					
----- 西南アジア史学(特殊講義)(2)へ続く -----					

西南アジア史学(特殊講義)(2)

ン・アッ＝ラーズィーのクルアーン註を題材に、法学問題群・神学問題群・神秘主義問題群・哲学問題群を彼が如何に把握するのかを問う。第13回から第15回は、ファフルッディーン・アッ＝ラーズィーの哲学著作二篇を概観する。

西暦12世紀以降のイスラーム思想では、これまでに為されてきた学問的営為の総合/統合が標榜される。それは、イスラーム思想史において重要な局面であるとともに800年以上続く精練の途でもある。その発端となるファフルッディーン・アッ＝ラーズィーは、その重要性をいくら主張してもしすぎることはない。

和訳並びに必要な箇所を配布するので、事前に読んで講義に備えてほしい。

[到達目標]

本講義は「イスラーム言語哲学史研究」と銘打った。イスラーム思想において「言語/アラビア語」を研究対象とする者は、限られた思想家だけでない。或る意味でクルアーンにおいてそうした傾向が既に見えるし、主要な思想家たちがほぼ例外なく言語哲学的な側面を有つ。種々の思想家たちの言語思想に触れることで、イスラーム思想史のかなりの部分が言語思想/言語哲学であることを考察できる。これは、別の言い方をすれば、従来のイスラーム思想史記述に何が欠けていたのかを理解することでもある。

イスラーム思想は、西暦11世紀・12世紀に転換点をもつ。取り分けて本講義では、初期イスラーム思想と後期イスラーム思想の転換点であるファフルッディーン・アッ＝ラーズィーを採り挙げる。初期イスラーム思想と後期イスラーム思想がどの点で違うのかを明確に説明できるようになる。その転換点に立つファフルッディーン・アッ＝ラーズィーの思想を少なくとも大掴みにすることができるようになる。

[授業計画と内容]

基本的にR・アルナルデス『ファフルッディーン・アッ＝ラーズィー』の章立てに従って講義を進める。ただし講義の進みぐあい 鋭い質問への対応も含む に応じて順序や同一テーマの回数を変えることがある。事前に日本語訳を配布するので出来る限り眼を通しておいていただきたい。

- | | | | |
|------|---------------------------------|-------------------------------------------------|-------------------------------------------------------|
| 第1回 | 概説 | アシュアリー学団, 西暦12世紀以降の神学、そしてファフルッディーン・アッ＝ラーズィーについて | |
| 第2回 | ファフルッディーン・アッ＝ラーズィーが受け継ぐ文化的遺産(1) | | 文法学と法学 |
| 第3回 | ファフルッディーン・アッ＝ラーズィーが受け継ぐ文化的遺産(2) | | 神学諸学派 |
| 第4回 | ファフルッディーン・アッ＝ラーズィーが受け継ぐ文化的遺産(3) | | 神秘家たちと哲学者たち(ファーラービー, ミスカウィフ, イブン・スィーナ, イスマーイル派の思想家たち) |
| 第5回 | ファフルッディーン・アッ＝ラーズィーの論争(1) | | 法学基礎論をめぐる問題群 |
| 第6回 | ファフルッディーン・アッ＝ラーズィーの論争(2) | | 実定法をめぐる問題群 |
| 第7回 | ファフルッディーン・アッ＝ラーズィーの論争(3) | | 神学的問題 |
| 第8回 | ファフルッディーン・アッ＝ラーズィーのクルアーン註(1) | | クルアーンとは何か |
| 第9回 | ファフルッディーン・アッ＝ラーズィーのクルアーン註(2) | | 文献学的註と法学的註 |
| 第10回 | ファフルッディーン・アッ＝ラーズィーのクルアーン註(3) | | 宗教的・道徳的命令と神学的問題(神の属性群, 人間の自由の問題等) |
| 第11回 | ファフルッディーン・アッ＝ラーズィーのクルアーン註(4) | | 神秘主義への開き |
| 第12回 | ファフルッディーン・アッ＝ラーズィーのクルアーン註(5) | | 科学と哲学 |
| 第13回 | ファフルッディーン・アッ＝ラーズィーの哲学思想(1) | | 『東方探究』(al-Mabahith al-Mashriqiyya) 1 |
| 第14回 | ファフルッディーン・アッ＝ラーズィーの哲学思想(2) | | 『東方探究』(al-Mabahith al-Mashriqiyya) 2 |
| 第15回 | ファフルッディーン・アッ＝ラーズィーの哲学思想(3) | | 『イブン・スィーナ「指示と勧告」註』 |

西南アジア史学(特殊講義)(3)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

期末レポートのみで評価する。
レポートについては到達目標の達成度に基づき評価する。
独自の工夫が見られるものについては、高い点を与える。

【教科書】

使用テキストは、R. Arnaldez, Fakhr al-Din al-Razi: Commentateur du Coran et philosophe, Paris: V. Vrin, 2002.

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

事前に仏文テキストと和訳を配布するので講義に備えて読んでおくこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学45

科目ナンバリング		G-LET25 66831 LJ38			
授業科目名 <英訳>	西南アジア史学(特殊講義) West Asian History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授 山口 元樹		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	月3	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	東南アジアのイスラームと中東アラブ地域との関係 Islam in Southeast Asia and its relationship with the Arab Middle East				
【授業の概要・目的】					
<p>東南アジアは、イスラーム世界の「周縁」に位置しながらも現在では非常に多くのムスリム人口を抱えている。この地域に住む人々のイスラームの信仰はしばしば表層的なものに見做されてきた。しかし、この宗教が東南アジア社会の中で歴史的に重要な役割を果たしてきたことを無視すべきではない。本講義では、東南アジア島嶼部を中心に、前近代から近代までのイスラームの歴史的展開について解説する。特にイスラーム世界の「中心」である中東アラブ地域との関係について、史料を参照しながら検討していく。</p> <p>Southeast Asia, although located on the periphery of the Muslim world, now has a very large Muslim population. The Islamic faith of the inhabitants has often been viewed as superficial. However, we should not ignore the fact that this religion has historically played an important role in Southeast Asian society. In this lecture, I will explain the historical development of Islam from pre-modern to modern times, focusing on the maritime Southeast Asia. In particular, we will examine the relationship with the Arab Middle East, the center of the Muslim world, referring to historical documents.</p>					
【到達目標】					
<ul style="list-style-type: none"> ・前近代から現代までの東南アジアにおけるイスラームの歴史について基礎的な知識を獲得する。 ・東南アジアを事例として、イスラーム世界の中に存在する地域性や多様性、そして中心・周縁の関係性について理解する。 <p>Upon the success of completion of this course, students (1) will acquire a basic knowledge of the history of Islam in Southeast Asia from pre-modern times to the present, and (2) will understand the regional characteristics and diversity that exists within the Islamic world, and the relationship between the center and the periphery, using Southeast Asia as a case study.</p>					
【授業計画と内容】					
<p>第1回 東南アジアのイスラームの基礎知識 第2回 西アジアのムスリム商人と東南アジア 第3-4回 東南アジアにおけるイスラーム化の始まり 第5回 ワリ・ソンゴ(九聖人)とジャワのイスラーム 第6-7回 マレー世界の形成と発展 第8回 東南アジア古典文学のなかのイスラーム 第9-10回 アラブ地域との学問ネットワーク 第11-12回 東南アジアからのマッカ巡礼 第13-14回 植民地支配の進展と抵抗運動 第15回 まとめ</p>					
----- 西南アジア史学(特殊講義)(2)へ続く -----					

西南アジア史学(特殊講義)(2)

講義の進み具合や受講者の関心によって内容を変更することがある。

- 1: Basic Knowledge of Islam in Southeast Asia
2. West Asian Muslim Traders and Southeast Asia
- 3-4. The Beginning of Islamization in Southeast Asia
5. Wali Songgo (Nine Saints) and Islam in Java
- 6-7 The Formation and Development of the Malay World
- 8 Islam in the Classical Literature of Southeast Asia
- 9-10. Intellectual Network with the Arab region
- 11-12. Pilgrimage to Makkah from Southeast Asia
- 13-14 Progress of Colonial Rule and Resistance Movements
15. Conclusion

The contents may be changed depending on the progress of the lecture and the interests of the students.

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

授業への積極的な参加（50点）、レポート（50点）で評価する。

Participation in class (50%)

Final report (50%)

【教科書】

授業中に指示する

【参考書等】

（参考書）

授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

授業中に別途指示する。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学46

科目ナンバリング		G-LET25 66831 LJ38			
授業科目名 <英訳>	西南アジア史学(特殊講義) West Asian History (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 岩本 佳子	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	火3	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	オスマン朝の成立とオスマン朝の「古典期」統治体制の成立と変容 Reserch of the Ottoman Empire I: Its Origin and Ruling System in the "Classical Period"				
【授業の概要・目的】					
<p>1300年頃にアナトリア西北部で誕生し、その後、1922年まで「ヨーロッパ」「中東」「北アフリカ」にまたがる地域を支配した「オスマン帝国/オスマン朝」の、特に15-17世紀に焦点をあてて、多様な人々がどのように出会い、それが何を生み出していったのかを、近年の新たな研究動向を参考に、年代記やオスマン語(アラビア文字表記トルコ語)の定期刊行物など実際の史料を取り上げて考察する。実際の史料を読み解くために、トルコ語およびオスマン語の文法事項も解説する。</p> <p>Focusing on the history of the Ottoman Empire that emerged in northwestern Anatolia around 1300 and ruled over Europe, the Middle East, and North Africa until 1922, this class examines how diverse peoples met and what emerged from their encounters in the 15-17th centuries Ottoman Empire, referring to new research trends in recent years. The lecturer also explains Turkish and Ottoman Turkish grammar to read and understand the historical documents.</p>					
【到達目標】					
<p>前近代オスマン朝の支配や管理諸制度の持つ地域性や特色を、その起源や変容を含めて考察できるようになる。</p> <p>The class achievement is an understanding of the feature of the ruling systems of the pre-modern Ottoman Empire, as well as their origins and transformations.</p>					
【授業計画と内容】					
<p>第1週：ガイダンス 第2~第4週：オスマン朝の成立および「古典期」統治体制の概説 第5~第6週：研究史料の解説 第7~9週：トルコ語・オスマン語文法解説 第10~14週：史料の講読・分析を通じたオスマン朝統治体制の探求 第15週：まとめ</p> <p>week 1: Guidance weeks 2-4: Outline of the Ottoman Empire and its administration system weeks 5-6: Introducing historical materials. weeks 7-9: Turkiush and Ottoman Turkish grammar. weeks 10-14: Exploration of the Ottoman ruling system through reading and analysis of historical materials week 15: Feedback and discussion</p>					
----- 西南アジア史学(特殊講義)(2)へ続く -----					

西南アジア史学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

授業・講読への取組（50%）、期末レポートまたは授業出席者による研究発表（50%）により評価する。

Participation in class (50%)

Final report or presentation (50%)

【教科書】

必要な資料をPDF化し、Web上で共有する。

Handouts will be shared through the Internet Cloud system.

【参考書等】

（参考書）

野田納嘉子 『改訂版 ゼロから話せるトルコ語』（三修社,2014）ISBN:978-4-384-04587-1

岩本佳子 『帝国と遊牧民：近世オスマン朝の視座より』（京都大学学術出版会,2019）ISBN:

9784814001828

教科書やレジュメ類は講師から受講生に配布する。受講生は事前に教科書を用意する必要はない。

Reading Texts and Handouts will be shared through the Internet Cloud System. Course instructor prepares the reading materials or textbook in the first week; thus, students do not need to prepare the textbook in advance.

【授業外学修（予習・復習）等】

第5週から14週にかけて、研究書、論文、オスマン語年代記（ラテン文字転写含）等を講読するので必ず予習が必要。

Students are expected to participate in the class with adequate preparation.

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学47

科目ナンバリング		G-LET25 66831 LJ38			
授業科目名 <英訳>	西南アジア史学(特殊講義) West Asian History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	東南アジア地域研究研究所 教授 帯谷 知可		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	水2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	現代中央アジアにおける歴史の見直しの諸相				
[授業の概要・目的]					
この授業では、旧ソ連中央アジア、特にウズベキスタンを対象として、ソ連時代のペレストロイカによる自由化、さらに独立とソ連解体を契機として進行した、歴史の見直しの諸相を検討する。それを通じて、現代中央アジア理解を深めるとともに、多様な歴史叙述のあり方についての認識を深めることをねらいとする。					
[到達目標]					
中央アジアの近現代(ロシア帝政支配期～ソ連期～ソ連解体・独立から現代まで)の歴史の流れと、ソ連時代から現代に至るまでの中央アジアにおける基本的な民族観・歴史観および歴史記述の特徴を理解する。					
[授業計画と内容]					
以下の予定に従って、講義を行う。					
<ul style="list-style-type: none"> * 旧ソ連中央アジアという地域の概要(第1-2週) * 民族史の記述(第3-4週) * ペレストロイカと歴史の見直し(第5-7週) * 中央アジア諸国の独立後の新しいナショナリズムと歴史研究(第8-9週) * 評価の逆転(ティムール、ジャディード運動、バスマチ運動)(第10-12週) * 新しい正史(第13-14週) * まとめ(第15週) 					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
平常点30%、期末のレポート70%の割合で評価を行う。					
[教科書]					
使用しない					
[参考書等]					
(参考書)					
宇山智彦(編著)『中央アジアを知るための60章』(明石書店)ISBN:978-4-7503-3137-9(中央アジア研究の入門書)					
----- 西南アジア史学(特殊講義)(2)へ続く -----					

西南アジア史学(特殊講義)(2)

小松久男 『革命の中央アジア あるジャディードの肖像』(東京大学出版会) ISBN:4-13-025027-2
(ロシア革命期の中央アジアに関する必読文献)
宇山智彦 『「カザフ民族史再考 歴史記述の問題によせて」 『地域研究論集』 Vol.2, No. 1 (1999)』
(国立民族学博物館地域研究企画交流センター)(ソ連中央アジアの歴史記述の基本理念を論じた論文)
帯谷知可 『「英雄の復活 現代ウズベキスタン・ナショナリズムのなかのティムール」 酒井啓子・
臼杵陽編 『イスラーム地域の国家とナショナリズム』』(東京大学出版会) ISBN:4-13-034185-5 (ソ連解体後の中央アジアナショナリズムと歴史の見直しを論じた論文)
帯谷知可編 『ウズベキスタンを知るための60章』(明石書店) ISBN:9784750346373 (ウズベキスタン地域研究の入門書)

[授業外学修(予習・復習)等]

授業期間中に、各回の講義内容を復習するとともに、参考書等としてあげている文献を読み、より深い理解と考察に結びつけてほしい。

(その他(オフィスアワー等))

授業でも紹介しますが、中央アジア近現代史に関する文献をできる限り多く読んでください。
連絡の必要がある場合はこちらへ [obiya\[at\]cseas.kyoto-u.ac.jp](mailto:obiya[at]cseas.kyoto-u.ac.jp) ([AT]を@に替えてください)

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET25 66831 LJ38			
授業科目名 <英訳>	西南アジア史学(特殊講義) West Asian History (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	東京大学東洋文化研究所 教授 森本 一夫	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期集中
曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	預言者ムハンマド一族から見るイスラーム史				
[授業の概要・目的]					
<p>世界には、イスラーム教の創始者ムハンマドの一族とされる人々が多数存在している。彼らの中心をなすのは、ムハンマドの一族であるだけでなく、スンナ派にとっての第4代正統カリフにしてシーア派にとっての初代イマームであるアリー一族を称す人々である。この集中講義では、このムハンマド一族に関わる歴史上のいくつかのトピックを扱うなかで、彼ら自身についてのみならず、イスラーム史の全体的な展開や、さまざまな時代や地域のイスラーム教・ムスリム諸社会のあり方についても理解を深める。このテーマは、「社会における聖なる血統」を扱うものとも言える。その意味では、ムスリム諸社会をこえた人間社会一般に対する洞察が得られるような内容にできればとも考えている。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・イスラーム史の展開を、ムハンマド一族という独自の視点から理解する。 ・ムハンマド一族の聖なる血統をムスリム諸社会がどのように扱い、内包してきたのか、制度と言説のあり方を理解する。 ・スンナ派とシーア派というイスラーム教の二大宗派の共通点や相違点について、ムハンマド一族という視点から理解を深める(あるいは、初めて理解する)。 ・ムハンマド一族をめぐる歴史書、宗教書、系譜書といったさまざまな文献の事例を知ることを通じて、テキスト生成の背景にある社会的契機を考える眼力を養う。 					
[授業計画と内容]					
<p>基本的に以下の計画にしたがって進めるが、受講者の理解や授業の進み具合に応じて手直しをする可能性がある。</p> <p>第1回：導入(I) ムハンマド一族とは誰か 第2回：導入(II) イスラーム史研究・イスラーム研究とムハンマド一族 第3回：いできたり(I) ムハンマドとその近親者たち 第4回：いできたり(II) 共同体の指導者位をめぐる争いと「ムハンマド一族」 第5回：いできたり(III) 特別扱いの制度化とムハンマド一族の拡散 第6回：「サイド」と「シャリーフ」の時代の到来 第7回：地域別ケース・スタディ(I) モロッコ・インドネシアの事例 第8回：地域別ケース・スタディ(II) 中東地域からの事例 第9回：言説の構築(I) 何が違うのか、どうして大事にせねばならぬのか？ 第10回：言説の構築(II) どのように対さねばならぬのか？ 第11回：言説の構築(III) スンナ派・シーア派という二分法との関係 第12回：ほんものにとせもの(I) 系譜記録・系譜学の世界</p>					
西南アジア史学(特殊講義)(2)へ続く					

西南アジア史学(特殊講義)(2)

第13回：ほんものとしもの(Ⅱ) 世論の力とその形成要因

第14回：ほんものとしもの(Ⅲ) イスラーム法の態度

第15回：まとめ

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

レポートにより評価する予定である。ただし、4月下旬の履修者確定時点で履修者が10名以下であることが判明した場合には、平常点(授業への能動的参加)50%とレポート50%の組み合わせとする。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)

森本一夫『聖なる一族』(山川出版社, 2010年) ISBN:978-4634474642

森本一夫『アリー』(山川出版社, 2024年予定) ISBN:Not yet fixed (世界史リブレット人シリーズ。4月後半刊行予定)

【授業外学修(予習・復習)等】

あらかじめ参考書『聖なる家族』を読んでおけば、より能動的に講義内容にコミットできるであろう(が必須ではない)。なお、事前にKLASISを通じて課題を課す可能性がある(履修者数に大きく左右されるのでシラバス記入時には決定不可)。

(その他(オフィスアワー等))

・授業中の質問を歓迎し、メールによる質問を受け付ける。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学49

科目ナンバリング		G-LET25 66831 LJ38			
授業科目名 <英訳>	西南アジア史学(特殊講義) West Asian History (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 岩本 佳子	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	火3	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	オスマン朝の転換と近代化 Reserch of the Ottoman Empire II: Its Transformation and Modernization				
【授業の概要・目的】					
<p>1300年頃にアナトリア西北部で誕生し、その後、1922年まで「ヨーロッパ」「中東」「北アフリカ」にまたがる地域を支配した「オスマン帝国/オスマン朝」の、特に18 - 20世紀に焦点をあてて、多様な人々がどのように出会い、それが何を生み出していったのかを、近年の新たな研究動向を参考に、年代記やオスマン語(アラビア文字表記トルコ語)の定期刊行物など実際の史料を取り上げて考察する。また、卒業論文や修士論文執筆を目指す受講生などから希望があれば、適宜、オスマン語文献を講読する。</p> <p>Focusing on the history of the Ottoman Empire that emerged in northwestern Anatolia around 1300 and ruled over Europe, the Middle East, and North Africa until 1922, this class examines how diverse peoples met and what emerged from their encounters in the 18-20th centuries Ottoman Empire, referring to new research trends in recent years. In this lecture, Ottoman literature will be lectured on request by students who wish to write their graduation thesis or master's thesis, as appropriate.</p>					
【到達目標】					
<p>近代オスマン朝の支配や管理諸制度の持つ地域性や特色を、その起源や変容を含めて考察できるようになる。 また、史料から歴史的事実を引き出す技術を習得し、自身の研究に活かすことができるようになる。</p> <p>Upon the successful completion of this course, students will: (1) understand the feature of the ruling systems of the modern Ottoman Empire, as well as their origin and transformation. (2) gain skills to deduct reliable facts from historical sources.</p>					
【授業計画と内容】					
<p>第1回 ガイダンス 第2~第4週：オスマン朝の近代化の概説 第5~第6週：研究史料の解説 第7~14週：史料の講読・分析を通じた近代オスマン朝統治体制の探求 第15週：まとめ</p> <p>week 1: Guidance weeks 2-4: Outline of the modern Ottoman Empire weeks 5-6: Introducing historical materials. weeks 7-14: Exploration of the Ottoman ruling system through reading and analysis of historical materials Week 15: Feedback and Discussion</p>					
----- 西南アジア史学(特殊講義)(2)へ続く -----					

西南アジア史学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

授業・講読への取組（50%）、期末レポートまたは授業出席者による研究発表（50%）により評価する。

Participation in class (50%)

Final report or presentation (50%)

【教科書】

必要な資料をPDF化し、Web上で共有する。

Handouts will be shared through the Internet Cloud system.

【参考書等】

（参考書）

授業中に紹介する

第5週から14週にかけて、研究書、論文、オスマン語年代記（ラテン文字転写含）等を講読するので必ず予習が必要。

Students are expected to participate in the class with adequate preparation.

【授業外学修（予習・復習）等】

必ず前回の内容を復習したうえで授業に臨むこと。

Students will be required to review class notes before attending each lesson.

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学50

科目ナンバリング		G-LET25 76842 SJ38			
授業科目名 <英訳>	西南アジア史学(演習II) West Asian History (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 磯貝 健一	
配当学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・開講期	2024・通年
曜時限	火2	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ペルシア語、アラビア語両語による法学文献講読 Reading Islamic legal texts in both Persian and Arabic				
[授業の概要・目的]					
<p>16世紀のシャーフイー派ウラマーであるIbn Ruzbihanが、ペルシア語で著した統治マニュアル、Suluk al-Mulukを講読する。ペルシア語本文と引用元のアラビア語原文を対照することにより、アラビア語がペルシア語に翻訳される際、アラビア語固有の表現がどのようにペルシア語に移し替えられたのかにつき学習する。</p> <p>In this course students read Suluk al-Muluk, the early 16th century Central Asian governance manual compiled by Ibn Ruzbihan, a Shafiite ulama who fled there to avoid persecution from Shiite Safavids. The work consists of citations from different Arabic lawbooks, which were literally translated into Persian by the author. We can easily find out original Arabic text of each part of the work owing to annotations made by the author about reference sources. Students will read the work in both Persian and Arabic, thereby acquiring knowledge about to what extent Arabic syntax left its traces on translated text.</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・ペルシア語、および、アラビア語の文法をより深く理解し、歴史的なテキストを正確に読解することができる。 ・イスラーム法学の基本的な術語について正確に理解し、これを他者に説明することができる。 <p>Upon the successful completion of this course, students will:</p> <p>(1) gain an in-depth understanding about the grammar of both Persian and Arabic and obtain the ability to read historical text written in these languages accurately.</p> <p>(2) have an adequate knowledge about the technical terms used by Islamic jurists.</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 授業の進め方についての説明。講読文献の著者、および、その内容についての解説。授業参加者の希望を聞いての講読箇所を選定。</p> <p>第2回~第14回 初回授業で選定した箇所の講読。</p> <p>第15回 これまでの講読内容のまとめ、および、内容についての討議。</p> <p>第16回~第29回 Suluk al-Mulukの講読。</p> <p>第30回 これまでの講読内容のまとめ、および、内容についての討議。</p> <p>Week 1: Explaining about the author and work</p>					
----- 西南アジア史学(演習II)(2)へ続く -----					

西南アジア史学(演習II)(2)

Weeks 2-14: Reading the chapter of the Suluk al-Muluk we will select in the 1st week.

Week 15: Feedback and Discussion

Weeks 16-29: Reading the chapter of the Suluk al-Muluk

Week 30: Feedback and Discussion

【履修要件】

アラビア語ないしペルシア語の基礎文法を学習していることが望ましい。

Students are expected to have learned the basic grammar of either Arabic or Persian.

【成績評価の方法・観点】

講読の担当、予習の状況にもとづき、平常点で評価する。

Participation in class and preparation for reading

【教科書】

使用しない

PDF化したファイルを、Web上で共有する。

Handouts will be shared through Google Drive.

【参考書等】

(参考書)

授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

毎回、前回の授業時に予告された講読箇所を一通り読んで授業に参加すること。

Students will be required to make adequate preparations for reading the text.

(その他(オフィスアワー等))

特になし。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学51

科目ナンバリング		G-LET25 76842 SJ38			
授業科目名 <英訳>	西南アジア史学(演習II) West Asian History (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 岩本 佳子		
配当学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・開講期	2024・通年
曜時限	水3	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	オスマン朝の遊牧民と国家 Reserch of the nomadic people in the Ottoman Empire				
[授業の概要・目的]					
<p>1300年頃にアナトリア西北部で誕生し、その後、1922年まで「ヨーロッパ」「中東」「北アフリカ」にまたがる地域を支配した「オスマン帝国/オスマン朝」に焦点をあてて、オスマン朝における遊牧民と国家の関係を、近年の新たな研究動向を参考にしつつ、オスマン語(アラビア文字表記トルコ語)で書かれた行財政文書など実際の史料を取り上げて考察する。また、卒業論文や修士論文執筆を目指す受講生などから希望があれば、適宜、オスマン語文献を講読する。</p> <p>Focusing on the history of the Ottoman Empire that emerged in northwestern Anatolia around 1300 and ruled over Europe, the Middle East, and North Africa until 1922, this class examines nomadic people in the Ottoman Empire, referring to new research trends in recent years. In this lecture, Ottoman literature will be lectured on request by students who wish to write their graduation thesis or master's thesis, as appropriate.</p>					
[到達目標]					
<p>オスマン朝の遊牧民支配のシステムの持つ地域性や特色を、その起源や変容を含めて考察できるようになる。</p> <p>The class achievement is an understanding of the feature of the ruling systems of the Ottoman Empire, as well as their origins and transformations.</p>					
[授業計画と内容]					
<p>前期</p> <p>第1週：前期ガイダンス</p> <p>第2~第4週：オスマン朝およびオスマン朝の遊牧民統治システムの概説</p> <p>第5~第6週：研究史料の解説</p> <p>第7~14週：史料の講読・分析を通じたオスマン朝統治体制の探求</p> <p>第15週：まとめ</p> <p>後期</p> <p>第16週：後期ガイダンス</p> <p>第17~第20週：研究史料の解説</p> <p>第21~29週：史料の講読・分析を通じたオスマン朝統治体制の探求</p> <p>第30週：まとめ</p> <p>Spring Term</p> <p>week 1: Guidance</p> <p>weeks 2-4: Outline of the nomadic people in the pre-modern Ottoman Empire</p> <p>weeks 5-6: Introducing historical materials.</p> <p>weeks 7-14: Exploration of the Ottoman ruling system through reading and analysis of historical materials</p>					
西南アジア史学(演習II) (2)へ続く					

西南アジア史学(演習II) (2)

week 15: Feedback and discussion

Autumn Term

week 16: Guidance

weeks 17- 20 : Outline of the nomadic people in the modern Ottoman Empire

weeks 21-29: Exploration of the Ottoman ruling system through reading and analysis of historical materials

week 30: Feedback and discussion

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

授業・講読への取組（50%）、期末レポートまたは授業出席者による研究発表（50%）により評価する。

Participation in class (50%)

Final report or presentation (50%)

【教科書】

必要な資料をPDF化し、Web上で共有する。

i以下の史料を講読する可能性が高い。

・ Evliya Celebi, Seyhatname. (Evliya Celebi Seyahatnamesi. Evliya Celebi b. Dervisa Mehemed Zili, Seyit Ali Kahraman et al. (eds.) Istanbul: Yapi Kredi Yayinlari, 2011.)

・ Muhimme defteri no.3 (3 numarali muhimme defteri, 966-968/1558-1560. Istanbul: T.C. Basbakanlik Devlet Arsivleri Genel Mudurlugu, 1993.)

Handouts will be shared through the Internet Cloud system.

This class will read the above-mentioned historical materials, but these are changeable.

【参考書等】

(参考書)

授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

適宜、研究書、論文、オスマン語行財政文書（ラテン文字転写含）を講読するので必ず予習が必要。

Students are expected to participate in the class with adequate preparation.

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西南アジア史学(演習II) (3)へ続く

西南アジア史学(演習II) (3)

オフィスの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学52

科目ナンバリング	G-LET25 76844 SJ38				
授業科目名 <英訳>	西南アジア史学(演習II) West Asian History (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	神戸大学 人文学研究科 准教授 伊藤 隆郎		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	金3	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	アラビア語古典史料演習				
[授業の概要・目的]					
<p>本演習ではアラビア語史料の読解をおこなう。その際、固有名詞や用語、引用の典拠についても調査し、記述内容を深く理解することを目指す。</p> <p>本年度は、マムルーク朝時代後期の代表的な歴史家の一人である Ibn Taghribirdi (ca. 812-874/1410-1470) の年代記 al-Nujum al-zahira fi muluk Misr wal-Qahira を読む。</p>					
[到達目標]					
<p>アラビア語の古典を読解し、内容を理解する能力を身につける。アラビア語(フスハー)文法に則して文意だけでなく、古典特有の文体や表現を理解する。また、固有名詞や用語、引用などを調査し、その情報を活かして文献をさらに深く読み込む能力を習得する。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 開講にあたって 授業の進め方、講読文献の著者、概要などについて説明する。</p> <p>第2回-第14回 文献講読 al-Nujum al-zahiraを順次読み進める。</p> <p>第15回 フィードバック 授業全体に関する質問を受け付ける。</p>					
[履修要件]					
アラビア語(フスハー)文法を習得していること。					
[成績評価の方法・観点]					
<p>成績評価の方法：平常点で評価する。</p> <p>評価の基準：アラビア語文を適切に音読し文法に則して解釈できるか。講読文献中の固有名詞や用語、引用の典拠についても調査し、記述内容を深く理解しているか。</p>					
[教科書]					
講読教材および関連資料は配布する。					
----- 西南アジア史学(演習II)(2)へ続く -----					

西南アジア史学(演習II)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

予習：毎回の授業で講読する部分を読み、固有名詞や用語、引用の典拠についても調査する。
復習：予習時の理解を授業後の理解と照らし合わせ、誤解していた部分があれば、その理由を考えて対処する。また、授業で解決できなかった問題点があれば、さらに調査、考察を重ね、必要に応じて次回または第15回の授業で質問する。

(その他(オフィスアワー等))

毎回あてるので、予習に十分時間をかけて授業に臨んでください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学53

科目ナンバリング	G-LET25 76844 SJ38				
授業科目名 <英訳>	西南アジア史学(演習II) West Asian History (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	神戸大学 人文学研究科 准教授 伊藤 隆郎		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	金3	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	アラビア語古典史料演習				
[授業の概要・目的]					
<p>本演習ではアラビア語史料の読解をおこなう。その際、固有名詞や用語、引用の典拠についても調査し、記述内容を深く理解することを目指す。</p> <p>前期に引き続き、マムルーク朝時代後期の歴史家 Ibn Taghribirdi (ca. 812-874/1410-1470) の年代記 al-Nujum al-zahira fi muluk Misr wal-Qahira を読む。</p>					
[到達目標]					
<p>アラビア語の古典を読解し、内容を理解する能力を身につける。アラビア語(フスハー)文法に即して文意だけでなく、古典特有の文体や表現を理解する。また、固有名詞や用語、引用などを調査し、その情報を活かして文献をさらに深く読み込む能力を習得する。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 開講にあたって 授業の進め方、講読文献の著者、概要などについて説明する。</p> <p>第2回-第14回 文献講読 al-Nujum al-zahiraを順次読み進める。</p> <p>第15回 フィードバック 授業全体に関する質問を受け付ける。</p>					
[履修要件]					
アラビア語(フスハー)文法を習得していること。					
[成績評価の方法・観点]					
<p>成績評価の方法：平常点で評価する。</p> <p>評価の基準:アラビア語文を適切に音読し文法に則して解釈できるか。講読文献中の固有名詞や用語引用の典拠についても調査し、記述内容を深く理解しているか。</p>					
[教科書]					
講読教材および関連資料は配布する。					
----- 西南アジア史学(演習II)(2)へ続く -----					

西南アジア史学(演習II)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

予習：毎回の授業で講読する部分を読み、固有名詞や用語、引用の典拠についても調査する。
復習：予習時の理解を授業後の理解と照らし合わせ、誤解していた部分があれば、その理由を考えて対処する。また、授業で解決できなかった問題点があれば、さらに調査、考察を重ね、必要に応じて次回または第15回の授業で質問する。

(その他(オフィスアワー等))

毎回あてるので、予習に十分時間をかけて授業に臨んでください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学54

科目ナンバリング		G-LET25 76850 LJ38			
授業科目名 <英訳>	西南アジア史学(講読) West Asian History (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	イスラーム地域研究センター 今松 泰 客員准教授	
配当学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・開講期	2024・通年
曜時限	金1	授業形態	講読(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	現代トルコ語文法・講読				
[授業の概要・目的]					
現代トルコ語文法の基礎を学び、その後、現代トルコ語で書かれた研究書あるいは論文の講読を行う。 さらに受講者の必要に応じて、アラビア文字表記のトルコ語(オスマン語)文献の講読をおこなう。					
[到達目標]					
現代トルコ語の基礎的な文法事項を確実に習得し、それらの知識を活用してトルコ語の文献を読みこなせるようになることが到達目標である。					
[授業計画と内容]					
第1回 イントロダクション 文字と発音 第2回 母音の交替、子音の交替 第3回 数詞、形容詞、複数接尾辞、人称、所有人称接尾辞 第4回 格接尾辞(1) 第5回 格接尾辞(2)、名詞修飾 第6回 代名詞、否定文、疑問文、後置詞 第7回-第9回 動詞 活用 第10回 動詞語幹の派生 第11回 動名詞 第12回 形動詞(分詞、連体形) 第13回 副動詞ほか *以降の授業では現代トルコ語、さらにはオスマン語のテキストを講読する 第14回-第30回 テキスト講読					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
平常点評価。 参加者の受講態度と担当した講読の内容をもとに評価する。 文法習得時には、課題を課し、確認のため小テストを行うことがある。					
[教科書]					
授業中にプリントを配布する。					
----- 西南アジア史学(講読)(2)へ続く -----					

西南アジア史学(講読)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

文法事項の説明をしている間、予習は特に必要ではないが、毎授業後の復習は必ず行なうこと。
テキスト講読に入ってから、必ず予習を行なうこと。

(その他(オフィスアワー等))

特になし。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学55

科目ナンバリング	G-LET25 76851 LJ38				
授業科目名 <英訳>	西南アジア史学(講読) West Asian History (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 准教授 中西 竜也		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	火4	授業形態	講読(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ペルシア語講読 Reading Persian historical text				
【授業の概要・目的】					
<p>この授業では、Fakhr al-Din `Ali b. Husayn Wa`iz Kashifiがペルシア語で著した、スーフィズムの一派、ナクシュバンディー派の聖者伝、Rashahat `ayn al-hayat(1503-4年完成)を読む。とくにKhwaja Ahrar (1490年没)について書かれた箇所などを読み、ティムール朝末期の中央アジアにおける宗教文化を考察する。</p> <p>In this course, we read some parts of Rashahat `ayn al-hayat, a Persian hagiography of Naqshbandiyya, compiled by Fakhr al-din Ali b. Husain al-Wa'iz Kashifi in 1503-4. Particularly, we read some parts of the work where the author describes regarding Sufis including Khwaja Ahrar (d.1490). Thus, we aim to explore the religious cultures in Central Asia during the late Timurid period.</p>					
【到達目標】					
<p>ペルシア語の歴史文献を正確に読解することができる。</p> <p>Upon the successful completion of this course, students will gain the ability to read Persian historical texts precisely.</p>					
【授業計画と内容】					
<p>第1回 授業ガイダンス、講読作品の説明 第2回~第14回 第15回 授業内容のまとめ、および、質問の受付と回答</p> <p>Week 1: Explaining about Rashahat `ayn al-hayat. Weeks 2-14: Reading some parts of Rashahat `ayn al-hayat. Week 15: Feedback and Discussion</p>					
【履修要件】					
<p>ペルシア語の基礎文法を習得していること。</p> <p>Students are expected to have learned the basic grammar of Persian language.</p>					
----- 西南アジア史学(講読)(2)へ続く -----					

西南アジア史学(講読)(2)

[成績評価の方法・観点]

予習の成果と講読への取組を基準として、平常点により評価する。

Preparation for reading and participation in discussion

[教科書]

使用しない

必要な資料はPANDAで配布。

The texts and other materials will be shared through Panda.

[参考書等]

(参考書)

Beatrice Forbes Manz 『Power, Politics and Religion in Timurid Iran』 (Cambridge University Press, 2007)

Itzhak Weismann 『The Naqshbandiyya: Orthodoxy and Activism in a Worldwide Sufi Tradition』 (Routledge, 2007)

川本正知 『15世紀中央アジアの聖者伝 ホージャ・アフラルのマカーマート』 (東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、2005年)

その他、授業中にも適宜紹介する。

[授業外学修(予習・復習)等]

毎回、必ず予習して授業に臨むこと。

Students will be required to make adequate preparations for reading the text.

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学56

科目ナンバリング	G-LET25 76851 LJ38				
授業科目名 <英訳>	西南アジア史学(講読) West Asian History (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 磯貝 健一		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	月3	授業形態	講読(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ペルシア語講読 Reading Persian historical text				
[授業の概要・目的]					
<p>この授業では、ミールホンド(1498年没)が著した著名なペルシア語年代記『Raudat al-Safa』の一部を講読する。講読対象となるのは、ティムールによるシリア攻撃(1400-01年)を叙述する箇所である。本授業では、近世のイラン、中央アジアで作成された美文体ペルシア語年代記の読解能力の涵養を目指す。</p> <p>In this course students read some parts of Raudat al-Safa, a famous Persian chronicle compiled by Mirkhwand (d. 1498). The parts that will be read in this course record the events which occurred during Timur's campaign toward Syria (1400-01). The main purpose of the course is to gain the ability to read Persian historical text written in the florid prose style common to almost all chronicles created in pre-modern Iran and Central Asia.</p>					
[到達目標]					
<p>ペルシア語の歴史文献を正確に読解することができる。</p> <p>Upon the successful completion of this course, students will gain the ability to read Persian historical texts precisely.</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 授業ガイダンス、講読作品、および、時代背景の説明 第2回~第14回 同作品中、1400年から翌年にかけてのシリア攻撃に関する箇所を講読する 第15回 授業内容のまとめ、および、質問の受付と回答</p> <p>Week 1: Explaining about Mirkhwand and his Raudat al-Safa Weeks 2-14: Reading the parts of Raudat al-Safa concerning Timur's campaign toward Syria in 1400-01. Week 15: Feedback and Discussion</p>					
[履修要件]					
<p>ペルシア語の基礎文法を習得していること。</p> <p>Students are expected to have learned the basic grammar of Persian language.</p>					
----- 西南アジア史学(講読)(2)へ続く -----					

西南アジア史学(講読)(2)

[成績評価の方法・観点]

講読への取組と、事前準備の状況を基準として、平常点により評価する。

Participation in class and preparation for reading

[教科書]

使用しない
必要な資料をPDF化し、Web上で共有する。

Handouts will be shared through Google Drive

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

毎回、必ず予習して授業に臨むこと。目安となる予習時間は、180分程度である。

Students will be required to make adequate preparations for reading the text (about 180 mins. for each class)

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学57

科目ナンバリング		G-LET49 89608 LJ48			
授業科目名 <英訳>	イラン語（初級）（語学） Iranian	担当者所属・ 職名・氏名	京都外国語大学 外国語学部 非常勤講師 杉山 雅樹		
配当学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・開講期	2024・通年
曜時限	金2	授業形態	語学（対面授業科目）	使用言語	日本語
題目	イラン語（初級）				
[授業の概要・目的]					
この授業の目的は、現在イランの公用語であるペルシア語（新ペルシア語）の基本文法や基礎単語を修得し、ペルシア語の古典文を読解するための基礎的な能力を獲得することである。					
[到達目標]					
基本的なペルシア語の文法規則・単語を習得することにより、平易な文章であれば自分で辞書を使用しつつ読むことができるようになる。また、ペルシア語による現代文と古典文との表現や文法的な違いを理解し、ペルシア語で書かれた歴史史料を読むための基礎的な能力を獲得する。					
[授業計画と内容]					
（前期）					
第1回 インTRODクシヨン、文字					
第2回 発音と表記の注意点					
第3回 名詞、基本的な文章、疑問詞					
第4回 形容詞、エザーフェ、人称代名詞					
第5回 過去形、前置詞					
第6回 現在形、複合動詞					
第7回 現在形、未来形、副詞					
第8回 現在完了形、命令形					
第9回 仮説法、助動詞					
第10回 助動詞、人称代名詞、受動態					
第11回 接続詞					
第12回 関係詞、祈願文、副詞					
第13回 接続詞、複合動詞、過去分詞、現在分詞、その他					
第14回 数詞					
第15回 確認テスト、前期のまとめ、後期のテキストや予習の仕方について					
（後期）					
第16～18回 現代文（物語）の読解（1）～（3）					
第19～21回 現代文（イランの教科書）の読解（1）～（3）					
第22～29回 古典文（歴史史料）の読解（1）～（8）					
第30回 フィードバック（詳細については授業内で指示する）					
前期は、文字の読み方や書き方を練習しつつ、基本的な文法や単語を学ぶ。					
後期は、まずイランの物語や教科書など現代のペルシア語で書かれたものを扱い、ペルシア語の文章を読むことに慣れておく。その後、前近代に書かれたペルシア語の歴史史料の中から比較的読み易い作品をテキストとして採り上げ、古典文を読むための基本的な能力を身に付ける。					
原則として、前期の文法の授業では毎回復習のための小テストを行う。					
イラン語（初級）（語学）(2)へ続く					

イラン語（初級）(語学)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点評価（前期と後期の合計で100点）
前期（基礎文法）：小テスト（25点）、確認テスト（25点）
後期（テキスト読解）：予習の取り組み（50点）

各期で5回以上欠席した場合には、単位を認めない。

【教科書】

前期は文法事項をまとめたレジユメを毎回配布する。後期は講読するテキストのコピーを事前に配布する。

【参考書等】

（参考書）

特に後期の授業では、黒柳恒男『新ペルシア語大辞典』（大学書林）などペルシア語辞書を用いて予習する必要がある。
その他の辞書や文法書など参考文献については、第1回授業で指示する。

【授業外学修（予習・復習）等】

文字の書き方、基本文法、基礎単語の修得が中心となる前期においては、毎授業後十分に復習をし、次の授業の冒頭に行われる小テストに備えること。
実際のテキストを使用して講読を行う後期においては、各自辞書で単語を調べて訳文を作成しておくなど、毎回時間をかけて予習することが必須である。

（その他（オフィスアワー等））

質問等があれば、sugiyama.masaki.25z@st.kyoto-u.ac.jpにご連絡下さい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET26 66931 LJ38				
授業科目名 <英訳>	西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 講師 安平 弦司		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	月3	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	近世オランダにおける宗派共存とカトリックのサバイバル				
[授業の概要・目的]					
<p>宗教改革後のヨーロッパを生きた人々にとって宗派共存は大きな課題・試練であった。なぜなら、当時のヨーロッパで宗教的多様性は、一般的に公的秩序や政治=社会的安定への脅威として認識されていたからである。そうした近世ヨーロッパの中であって、改革派(カルヴァン派)を唯一の公的教会とするオランダ共和国は、宗派共存が機能していた社会として知られ、ときに「寛容の楽園」とも称される。他方、オランダ共和国においてカトリックは潜在的な国家反逆者の烙印を押され、公的領域における多くの権利を剥奪されていた。本講義は、近世オランダの宗派共存を、従来の研究で主に用いられてきた改革派の統治戦略の視角のみならず、カトリックの生存戦術の視角からも捉えなおす。そうすることで、現代世界の喫緊の課題でもある共存や寛容といった問題を、政治=宗教的マジョリティと政治=宗教的マイノリティ双方の視点から歴史的・多角的に理解することを目指す。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・近世ヨーロッパ、特にオランダ共和国における宗派共存を、政治=宗教的マジョリティの統治戦略と政治=宗教的マイノリティの生存戦術という2つの視点から考察できるようになる。 ・共存や寛容といった通時代的問題を近世ヨーロッパ史、中でも近世オランダ史を通じて考察できるようになる。 					
[授業計画と内容]					
<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション：近世オランダの宗派共存とカトリックのサバイバルについて学ぶ意義 2. オランダ共和国の宗教的状況概観 3. 改革派の統治戦略：迫害(1) 4. 改革派の統治戦略：迫害(2) 5. 改革派の統治戦略：寛容(1) 6. 改革派の統治戦略：寛容(2) 7. カトリックの生存戦術：社会的地位とネットワーク(1) 8. カトリックの生存戦術：社会的地位とネットワーク(2) 9. カトリックの生存戦術：空間実践(1) 10. カトリックの生存戦術：空間実践(2) 11. カトリックの生存戦術：空間実践(3) 12. カトリックの生存戦術：自己表象言説(1) 13. カトリックの生存戦術：自己表象言説(2) 14. カトリックの生存戦術：自己表象言説(3) 15. まとめとフィードバック <p>なお、受講生の反応や学習状況に応じて、授業内容を変更することはあり得る。</p>					
----- 西洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----					

西洋史学(特殊講義) (2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

学期末のレポートによって、講義内容の理解度を評価する。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

授業資料をもとに講義内容を復習し、疑問点があればそれを言語化しておくことが望ましい。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET26 66931 LJ38				
授業科目名 <英訳>	西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 講師 安平 弦司		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	月3	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	近世オランダにおけるカトリックとジャンセニスム論争2				
[授業の概要・目的]					
<p>近世のオランダ共和国は、改革派(カルヴァン派)を唯一の公的教会とするプロテスタント国家であり、かつ多宗派共存社会でもあった。オランダのカトリック共同体は、差別的待遇を受けながらも17世紀の過程で再建されていったが、ジャンセニスム論争を経て、1723年にユトレヒト教会分裂を経験した。ジャンセニスムとは、近世カトリック教会内部で異端視された思想である。教会分裂により、オランダのカトリック共同体は、ローマ教皇に認可されるもプロテスタントのオランダ政府には否認されたローマ・カトリックと、教皇に否認されるもオランダ政府には認可された古カトリック(ジャンセニスト)に分裂し、両者の分断は現在も続いている。本講義では、ジャンセニスム論争を通じて、17・18世紀のオランダ共和国のカトリック共同体の復興と内部分裂を考察する。そうすることで、宗教改革後の近世ヨーロッパにおける複数宗派の共存・競合という問題を多角的に理解することを目的とする。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・近世ヨーロッパにおける宗教的多様性を、プロテスタント国家オランダにおけるカトリック共同体の復興と内部分裂を通じて考察できるようになる。 ・宗教問題、特にカトリックとジャンセニスム論争を通じて近世ヨーロッパを理解するための視座を得る。 					
[授業計画と内容]					
<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション：近世オランダのカトリックについて学ぶ意義 2. 古代・中世のキリスト教と低地地方 3. オランダ共和国の成立とプロテスタント宗教改革(1) 4. オランダ共和国の成立とプロテスタント宗教改革(2) 5. オランダ共和国におけるカトリック共同体再興と対抗宗教改革(1) 6. オランダ共和国におけるカトリック共同体再興と対抗宗教改革(2) 7. ジャンセニスム論争の教会史(1) 8. ジャンセニスム論争の教会史(2) 9. ジャンセニスム論争の政治文化史(1) 10. ジャンセニスム論争の政治文化史(2) 11. ジャンセニスム論争の社会経済史(1) 12. ジャンセニスム論争の社会経済史(2) 13. ジャンセニスム論争の宗教文化史(1) 14. ジャンセニスム論争の宗教文化史(2) 15. まとめとフィードバック 					
<p>なお、受講生の反応や学習状況に応じて、授業内容を変更することはあり得る。</p>					
----- 西洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----					

西洋史学(特殊講義)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

学期末のレポートによって、講義内容の理解度を評価する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業資料をもとに講義内容を復習し、疑問点があればそれを言語化しておくことが望ましい。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学60

科目ナンバリング		G-LET26 66931 LJ38			
授業科目名 <英訳>	西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	甲南大学 文学部 教授 函師 宣忠	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	月4	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	西欧中世における紛争と裁判				
[授業の概要・目的]					
<p>この講義では、中世ヨーロッパの紛争や裁判に関するトピックを取り上げ、史料のあり方に着目しながら「メディアとコミュニケーション」という観点から具体的に検討していく。過去のヨーロッパ社会を生きた人々は、争いや諍いにどのように対応していたのか。あるいはいかに裁かれたのか。法と裁判のあり方(ひいては紛争と紛争解決のあり方)は、その時代の社会の構造や人々の価値観を映し出す。紛争の記録や裁判記録など関連する史料を読み解きながら、当時の社会について理解を深めたい。また現代の日本社会との比較を通じて、私たちが当たり前に取り扱っている現代社会のありようを見つめ直すきっかけをもちたい。</p>					
[到達目標]					
<p>歴史的な知識の習得：中世ヨーロッパ社会の歴史過程について基本的な知識を習得する。 歴史学的なまなざしの獲得：歴史的な史料の性質を踏まえて、そこから読み取れる内容について判断できるようになるとともに、歴史を学ぶ意味について考えを深める。 法的思考の涵養：法の根本的な価値や考え方を理解し、社会的判断力を培う。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 インTRODクシヨン：中世とは何か？ 第2回 中世における記憶と記録 第3回 紛争のなかのヨーロッパ中世 第4回 紛争と紛争解決1：神判・宣誓・決闘裁判 第5回 紛争と紛争解決2：フェーデと神の平和 第6回 ローマ法とカノン法 第7回 中世におけるキリスト教と異端 第8回 異端審問と権力1：異端審問とは何か？ 第9回 異端審問と権力2：審問記録の作成・保管・利用 第10回 ジャンヌ・ダルク裁判1：ジャンヌ・ダルクとその時代 第11回 ジャンヌ・ダルク裁判2：審問記録を読む 第12回 都市裁判と刑罰：中世都市における暴力 第13回 近世への展望1：国王裁判と恩赦嘆願 第14回 近世への展望2：魔女裁判と拷問による自白 第15回 まとめ：中世史とは何か？</p> <p>授業計画は一部変更になる可能性がある。</p>					
----- 西洋史学(特殊講義) (2)へ続く -----					

西洋史学(特殊講義) (2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

授業中の小レポート（30点）

期末レポート（70点）

（授業中の小レポートでは、授業内容の理解度を確認する。期末レポートでは、独自の問いを立てて適切な論理展開のもとでレポート作成ができているかを見る。）

【教科書】

使用しない

【参考書等】

（参考書）

ジョン・アーノルド（図師宣忠、赤江雄一訳）『中世史とは何か』（岩波書店、2022年）ISBN: 9784000615778

服部良久・山辺規子・南川高志編『大学で学ぶ西洋史 古代・中世』（ミネルヴァ書房、2006年）ISBN:9784623045921

その他、各回の講義内容に関連する文献については授業中に適宜紹介する。

【授業外学修（予習・復習）等】

予習：関連文献を読み、授業内容へのイメージをつかむ。

復習：授業内容について批判的に振り返りを行う。

（その他（オフィスアワー等））

授業後に質問を受け付けます。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学61

科目ナンバリング		G-LET26 66931 LJ38			
授業科目名 <英訳>	西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	関西学院大学文学部 教授 坂本 優一郎	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	火4	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	証券投資と近現代イギリス社会				
[授業の概要・目的]					
<p>この講義では「投資と貯蓄」が近現代社会に与えた影響を歴史学の立場から評価することを目的とする。</p> <p>「投資と貯蓄」というテーマは、これまでおもに経済学ないし経済史学の領域にて経済学の視点からアプローチされることがほとんどであった。この講義ではこうした「投資と貯蓄」という対象を社会史や文化史の視座からとらえなおしてみたい。そこでは「投資と貯蓄」の主体の実像が明らかにされつつ、公債や株式への投資が19世紀以降の近現代社会にいかなる衝撃を与えたのか、また、現在のわれわれの生きる社会の基盤をいかに構成してきたのかといった諸点について、長期的な把握を試みることになるであろう。</p> <p>具体的な検討対象として取り上げられるのは、19世紀から20世紀にかけての近現代イギリスの経験である。19世紀イギリスにおける近代社会の成長、同世紀後半からの第一次グローバル化の到来と帝国の拡大、二度の大戦とその狭間の戦間期、戦後の福祉国家の生成、1970年代以降のネオ・リベリズムの到来と第二次グローバル化といった教科書上の主要な動きについて、「投資と貯蓄」の主体となる人びとの存在を可視化して問い直すと、それぞれどのような像として現れうるだろうか。そして、それが現在の社会のありかたとどう関係するのであるだろうか。こうした問題群を受講生の皆さんと共に考えていきたい。</p>					
[到達目標]					
近現代イギリスの歴史的な歩みを金融という側面から説明できるようになる。同時に二度のグローバル化という現象を歴史学的な視点から論じることができるようになる。					
[授業計画と内容]					
<p>基本的に以下のプランに従って講義を進める。ただし講義の進行状況や受講生の理解に応じて、テーマを扱う順序や取り上げる回数を変更する場合がある。</p> <p>第1回：ガイダンスと金融史および近現代イギリス史の基本事項確認</p> <p>「投資社会」の勃興【第2～4週】</p> <p>第2回：「投資社会」の起源（～17世紀）</p> <p>第3回：「投資社会」の勃興（18世紀）</p> <p>第4回：「投資社会」の勃興（18世紀）</p> <p>ヴィクトリア朝の証券投資【第5～8週】</p> <p>第5回：「コンソル公債」とは何だろうか。</p> <p>第6回：文学と証券投資</p> <p>第7回：女性投資家の諸相</p>					
----- 西洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----					

西洋史学(特殊講義)(2)

第8回：帝国の拡大と証券投資

福祉国家とグローバル化【第9～14週】

第9回：二度の世界大戦と戦債

第10回：総力戦体制と貯蓄運動

第11回：社会民主主義はどう向き合ったのか 福祉国家と証券投資 1

第12回：ロンドン・シティの変容と機関投資家の登場 福祉国家と証券投資 2

第13回：大衆社会と「投資と貯蓄」 サッチャリズムの歴史的前提

第14回：グローバル化と「ソブリン・ウェルス・ファンド」の世界

期末レポート

第15回：フィードバック

【履修要件】

17世紀末から20世紀にいたるイギリス史の基本的な事項を確認しておくことが望ましい。

【成績評価の方法・観点】

コメントペーパー（40%）、期末レポート（60%）

【教科書】

使用しない

【参考書等】

（参考書）

坂本優一郎 『投資社会の勃興：財政金融革命の波及とイギリス』（名古屋大学出版会、2015年）

山室信一他編 『現代の起点 第一次世界大戦 2 総力戦』（岩波書店、2014年）

【授業外学修（予習・復習）等】

社会史の対象として金融を扱うため過度に経済学的な議論には深入りしないが、場合によっては操作概念の都度の確認や歴史的な文脈の確認が必要となる。そのため、授業前、授業後に、事典などを用いた概念や用語の確認作業、概説書などを用いた基本的な歴史上の流れなどを、自主的に進める姿勢が必要となる。

（その他（オフィスアワー等））

授業前・授業後の時間的な制約が大きいいため、質問などはメールでも受け付ける。メールアドレスは初回授業で案内する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学62

科目ナンバリング	G-LET26 66931 LJ38				
授業科目名 <英訳>	西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 助教 竹下 哲文		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	火4	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ラテン語中級講読				
[授業の概要・目的]					
ラテン語の初級文法を学んだ人を対象として、前年度に引き続き、サルスティウス『カティリーナの陰謀』（およびキケロー『カティリーナ弾劾演説』、『カエリウス弁護演説』）を教材に講読を行う。					
[到達目標]					
ラテン語散文に親しみ、基本的な感覚を身につける 語彙を増やし、複雑な文章にも対応できる力をつける 古代ローマの文化や歴史を理解する 辞書や注釈など工具書の扱いに習熟する					
[授業計画と内容]					
初級文法で学んだ内容を適宜振り返りつつ、実際の古典ラテン語原文の読解を進めていきます。熟語や類義語に注意を払いながら、辞書や注釈をどのように見ていくかといった点についても少しずつ習熟していくことを目指します。 第1回 イン트로ダクション 第2回～第14回 講読 第15回 フィードバック 授業の進度によっては15回を講読に充てる場合もあります。					
[履修要件]					
ラテン語初級文法を既習得であること。					
[成績評価の方法・観点]					
平常点。					
[教科書]					
プリントを配布。					
[参考書等]					
(参考書) Hans H. Ørberg 『Catilina ex C. Sallustii Crispi De Catilinae coniuratione libro et M. Tullii Ciceronis orationibus in Catilinam』 (Edizioni Accademia Vivarium Novum 2019 (orig. 1999))					
[授業外学修(予習・復習)等]					
テキストと注釈を読み、予習と復習を行うこと。					
(その他(オフィスアワー等))					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

歴史文化学63

科目ナンバリング	G-LET26 66931 LJ38				
授業科目名 <英訳>	西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 助教 竹下 哲文		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	火4	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ラテン語中級講読				
[授業の概要・目的]					
ラテン語の初級文法を学んだ人を対象として、前期に引き続き、サルスティウス『カティリーナの陰謀』(およびキケロー『カティリーナ弾劾演説』, 『カエリウス弁護演説』)を教材に講読を行う。					
[到達目標]					
ラテン語散文に親しみ、基本的な感覚を身につける 語彙を増やし、複雑な文章にも対応できる力をつける 古代ローマの文化や歴史を理解する 辞書や注釈など工具書の扱いに習熟する					
[授業計画と内容]					
初級文法で学んだ内容を適宜振り返りつつ、実際の古典ラテン語原文の読解を進めていきます。熟語や類義語に注意を払いながら、辞書や注釈をどのように見ていくかといった点についても少しずつ習熟していくことを目指します。 第1回 イン트로ダクション 第2回～第14回 講読 第15回 フィードバック 授業の進度によっては15回を講読に充てる場合もあります。					
[履修要件]					
ラテン語初級文法を既習得であること。					
[成績評価の方法・観点]					
平常点。					
[教科書]					
プリントを配布。					
----- 西洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----					

西洋史学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)

Hans H. Ørberg 『Catilina ex C. Sallustii Crispi De Catilinae coniuratione libro et M. Tullii Ciceronis orationibus in Catilinam』 (Edizioni Accademia Vivarium Novum 2019 (orig. 1999)) ISBN: 9788895611259

[授業外学修(予習・復習)等]

テキストと注釈を読み，予習と復習を行うこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学64

科目ナンバリング	G-LET26 66931 LJ38				
授業科目名 <英訳>	西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 准教授 伊藤 順二		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	月2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ロシア帝国末期のジョージア				
[授業の概要・目的]					
<p>19世紀後半から1905年までの帝政ロシア支配下の南コーカサス史を、ジョージア中心に概観する。</p> <p>ロシア人がチェチェン人やジョージア人に抱くイメージは、少なくとも19世紀以来現代に至るまで、「高貴な野蛮人」あるいは単に「野蛮人」である。南コーカサスは帝政ロシア初の本格的植民地であり、オスマン帝国との最前線の一つでもあった。住民に対する民族学的視線は帝国の統治政策に直結すると同時に、「高貴な野蛮人」への文学的憧憬をも産み出した。一方、「治安の悪さで悪名高い」南コーカサスは、傭兵の輸出地としても名高く、義賊伝説に溢れ、スターリン等の革命家を輩出した地でもあった。本講義では帝国とジョージア人の関わりを主軸に、19世紀後半におけるナショナリズムと社会主義の相関関係について考えたい。</p>					
[到達目標]					
ロシア帝国に関する基本的知識を習得し、帝国と植民地についての歴史的イメージを会得する。					
[授業計画と内容]					
<p>第1回：イントロダクション 第2,3回：「半アジア人」 第4,5回：露土戦争 第6,7回：「ムスリムのジョージア人」の文字と宗教 第8,9回：油田とマンガン鉱山 第10,11回：マルクス主義サークル 第12,13回：義賊と革命 第14回：1905年 第15回：おわりに</p>					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
期末レポート(80点)および中間レポート(20点)による。					
----- 西洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----					

西洋史学(特殊講義)(2)

[教科書]

プリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

各自、授業中に紹介する基本文献を読んでおくこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーは、月曜3限とする。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学65

科目ナンバリング		G-LET26 66931 LJ38			
授業科目名 <英訳>	西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 准教授 伊藤 順二	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	月2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	第一次世界大戦期の南コーカサス				
[授業の概要・目的]					
<p>南コーカサスは「東部戦線」と並んでロシア帝国の最前線だった。ジョージアの社会主義者やアルメニアやアゼルバイジャンの民族主義者のほとんどは、第一次世界大戦開戦に際し、帝国の戦争に全面協力した。帝国の中心における革命は彼らにとって予期せぬ事件だったが、さまざまな構想を一気に開花させる力となった。本講義では南コーカサスにおける戦争と革命の経緯をジョージア中心にたどりつつ、ロシア革命なるものの影響力を再考したい。</p>					
[到達目標]					
<p>第一次世界大戦とロシア革命についての基礎的知識を習得するとともに、帝国・戦争・革命に対する歴史的洞察力を養う。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第1回：イントロダクション 第2,3回：ロシア1905年革命、イラン立憲革命、青年トルコ人革命 第4,5回：バルカン戦争と戦争準備 第6回：敵性国民としてのドイツ人 第7,8回：カフカス戦線と「アルメニア人問題」 第9,10回：社会主義者の戦争 第11回：ロシア革命とカフカス 第12回：ジョージア民主共和国の成立 第13,14回：民主共和国と地域問題 第15回：おわりに</p>					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
<p>期末レポート(80点)および中間レポート(20点)による。</p>					
[教科書]					
<p>プリントを配布する。</p>					
[参考書等]					
<p>(参考書) 授業中に紹介する</p>					
----- 西洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----					

西洋史学(特殊講義)(2)

[授業外学修（予習・復習）等]

各自、授業中に紹介する基本文献を読んでおくこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは、月曜3限とする。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学66

科目ナンバリング	G-LET26 66931 LJ38				
授業科目名 <英訳>	西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	京都女子大学発達教育学部 教授 田崎 直美		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	木3	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	第二次世界大戦期のフランス：音楽文化史の視点より				
[授業の概要・目的]					
第二次世界大戦期に4年間(1940-44年)ナチス・ドイツに占領されたパリでは、実のところ戦前以上に、多彩で活発な音楽活動が展開していた。ここでは音楽/音楽活動にどのような「力」が作用しどのような意味を纏うことになったのか、そして後世にどのような影響を及ぼしたのか。本講義では、ヴィシー政権下のフランスの音楽界を主な対象として、史料研究より明らかになった事実・事例を紹介しつつ、社会のなかで音楽と政治が直接的/間接的に影響しあう諸相について検討し、現代にも通じる文化史の意義について考えることを目的とする。					
[到達目標]					
第二次世界大戦期のフランス史を政治的・軍事的側面と(音楽)文化の側面から併せて検証することで、歴史をマクロ/ミクロ双方の視点から有機的かつ多面的に考察することができるようになる。					
[授業計画と内容]					
第1回 導入：西洋史学と音楽学の交差するところ 第2回 音楽と政治の関係(1)：文化政策について 第3回 音楽と政治の関係(2)：文化装置としての音楽 第4回 ヴィシー期フランス(1940-44)の概要 第5回 「国民革命」と音楽(1)：プロパガンダを考える 第6回 「国民革命」と音楽(2)：「変わらなさ」の演出、フランス音楽の促進 第7回 「国民革命」と音楽(3)：芸術家の生活保障 第8回 反ユダヤ主義の音楽界への影響(1)：第三共和政期からヴィシー期まで 第9回 反ユダヤ主義の音楽界への影響(2)：ヴィシー期 第10回 戦争捕虜と音楽 第11回 マスメディアとしての音楽：ラジオを中心に 第12回 音楽と政治の関係(3)：ミクロヒストリーの視点より 第13回 ヴィシー期の音楽家たちの態度 第14回 「集合的記憶」と音楽：解放後の音楽家たち 第15回 総括とフィードバック					
[履修要件]					
特になし					
----- 西洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----					

西洋史学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

学年末レポート(60点)、授業への参加状況(40点)

・授業の最後にも書いてもらうコメントペーパーを通して、授業の理解度をはかるとともに授業への参加状況を判断する。

・レポート評価については、到達目標の達成度に基づき評価する。

[教科書]

使用しない

講義資料を配付する。

[参考書等]

(参考書)

田崎直美 『抵抗と適応のポリトナリテ ナチス占領下のフランス音楽』(アルテスパブリッシング、2022年) ISBN:4865592482

ロバート・O・パクストン/渡辺和行・剣持久木 共訳 『ヴィシー時代のフランス 対独協力と国民革命 1940-1944』(柏書房、2004年) ISBN:476012571X

渡辺和行 『ナチス占領下のフランス 沈黙・抵抗・協力』(講談社、1994年) ISBN:4062580349

[授業外学修(予習・復習)等]

上記参考文献および授業中に紹介する文献を読み、学期末レポートに活かしてほしい。

(その他(オフィスアワー等))

積極的な質問やコメントを期待します。質問については、毎回のコメントペーパーで受け付けます(次回以降の授業のなかで、できる限り回答します)。メールでの質問も受け付けますので、必要に応じて tazaki@kyoto-wu.ac.jp にメールしてください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学67

科目ナンバリング		G-LET26 66931 LJ38			
授業科目名 <英訳>	西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	人間・環境学研究科 教授 佐藤 公美	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	水3	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	中世イタリアのコミュニティ・国家・政治文化				
【授業の概要・目的】					
<p>中世イタリアでは、都市コムーネと「地域/領域国家」を舞台に高度な政治文化が繁栄した。そこでは社会の幅広い層の人々が日常の「政治」行為に関与し、現実の政治経験と政治理論の緊密な関係が見られた。近現代の政治、国家、社会と思想も、中世イタリアの歴史と切り離せない関係にあるのである。その中でも近年目覚ましい研究の進展が見られたのが、中世後期の党派(ゲルファ党とギベリン党)とシニョリーア制である。本講義では、党派とシニョリーアに関するテーマを導入し、中世後期の政治反乱とコミュニティを分析する。これにより広い意味での政治文化と幅広い層の人々の政治行為をつなぎ、中世イタリア政治史を長い歴史の中に位置づける考察を学ぶ。</p>					
【到達目標】					
<p>1. 中世イタリアの政治史、国制史、政治文化史に関する基本的事項を理解し説明することができる。</p> <p>2. 中世イタリアの政治史、国制史、政治文化史に関する専門的課題と研究状況を理解し説明することができる。</p> <p>3. 1・2をヨーロッパ史の広い文脈の中に位置づけて理解し説明することができる。</p> <p>4. 1～3について適切な参考文献や史料に基づいて、明確で論理的な文章で表現することができる。</p>					
【授業計画と内容】					
<p>基本的に以下の計画に沿って授業を進めるが、講義の進展に応じて変更がありうる。</p> <p>第1回 イントロダクション：なぜ中世イタリア政治史を学ぶのか</p> <p>第2～3回 中世イタリア政治制度史概説：都市コムーネから地域/領域国家へ</p> <p>第4～6回 中世イタリアの政治と政治理論</p> <p>第7～9回 党派とシニョリーア再考</p> <p>第10～12回 政治反乱に見る党派とコミュニティ</p> <p>第13～14回 政治反乱に見るシニョリーアとコミュニティ</p> <p>第15回 フィードバック</p>					
【履修要件】					
特になし					
----- 西洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----					

西洋史学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

レポートにより評価する。

[教科書]

使用しない
授業中にプリントを配布し、随時参考文献を紹介する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

- ・特に履修要件は定めないが、高校世界史の中世ヨーロッパに関する部分の基礎知識を身に付けていることが望ましい。その不足を感じる場合には自ら参考書等で学習し補ってほしい。
- ・随時紹介する参考文献や授業中に配布する資料に目を通すこと。その他、関連する文献や資料を各自主体的に読み進めていくことが望ましい。

(その他(オフィスアワー等))

質問その他の相談はオフィスアワーの他随時受付ます。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学68

科目ナンバリング		G-LET26 66931 LJ38			
授業科目名 <英訳>	西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 教授 小関 隆	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	水4	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	大戦間期再考				
【授業の概要・目的】					
現代世界の起点となった第一次世界大戦は「未完の戦争」であった。いわゆる大戦間期においても、「次なる戦争」への懸念は広く共有され、実際に第一次世界大戦終結の約20年後には第二次世界大戦が到来した。この授業では、ナショナリズム、デモクラシー、帝国主義、資本主義、等、さまざまな視点から大戦間期の動向を再検討し、特にイギリスに注目しながら、二度目の世界大戦を防ぐことがなぜできなかったのかを考える。					
【到達目標】					
2つの世界大戦を連続性において把握し、その戦後世界に対する深甚な影響を理解する能力を身に着けること。					
【授業計画と内容】					
(1)第一次世界大戦の記憶(1回) (2)大戦間期 : ナショナリズム(1回) (3)大戦間期 : デモクラシー(1回) (4)大戦間期 : 帝国主義(1回) (5)大戦間期 : 資本主義(1回) (6)大戦間期 : 芸術(1回) (7)大戦間期 : 平和主義(1回) (8)大戦間期 : 開戦へ(2回) (9)第二次世界大戦概略(5回) (10)総括(1回)					
授業の進捗に応じて変更する可能性がある。また、フィードバックについては別途指示する。					
【履修要件】					
前期・後期の授業を通年で受講することが望ましい。					
【成績評価の方法・観点】					
学期末のレポートによって評価する。					
【教科書】					
使用しない プリントを配布する。					
----- 西洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----					

西洋史学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

自分の関心に合わせて、両世界大戦に関連する書籍や映画、音楽、等に触れるよう日頃から心がけること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学69

科目ナンバリング	G-LET26 66931 LJ38				
授業科目名 <英訳>	西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 教授 小関 隆		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	水4	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	イギリスの第二次世界大戦経験				
【授業の概要・目的】					
前期の授業を受け、後期にはイギリスが第二次世界大戦をいかに経験したか、に焦点を合わせる。「至上の時」の神話、戦時経済、戦時メディア、核兵器、等の論点をとりあげるが、中でも、首相として大戦を指導し、戦後には歴史家として今日でも影響力の強い大戦回顧録を執筆した、ウィンストン・チャーチルに注目する。					
【到達目標】					
首相として、そして歴史家として、いわば第二次世界大戦を二度戦った人物がどのように歴史像を構築したか、理解する能力を身に着けること。					
【授業計画と内容】					
(1)チャーチル政権(2回) (2)「至上の時」(3回) (3)戦時経済(2回) (4)戦時メディア(1回) (5)チャーチル『第二次世界大戦回顧録』(4回) (6)核時代(2回) (7)総括(1回)					
【履修要件】					
前期の授業を受講していることが望ましい。					
【成績評価の方法・観点】					
学期末のレポートによって評価する。					
【教科書】					
使用しない プリントを配布する。					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介する					
【授業外学修(予習・復習)等】					
自分の関心に合わせて、第二次世界大戦やイギリスに関連する書籍や映画、音楽、等に触れるよう日頃から心がけること。					
(その他(オフィスアワー等))					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

歴史文化学70

科目ナンバリング	G-LET26 66931 LJ38				
授業科目名 <英訳>	西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 准教授 藤原 辰史		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	水3	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	食と農の人文学				
[授業の概要・目的]					
とりわけ20世紀以降、食と農はどのように変化を遂げてきたのか? ドイツと日本を中心に、食べものをめぐる制度や文化や技術の変遷を追う。この講義の目的は、現代史の知識を蓄えることではない。あるいは、現代史の概略をつかむことでもない。現代史を批判的に眺める目を獲得し、食と農の未来の構築するためのヒントを考えることである。					
[到達目標]					
現代史における食と農の変遷について理解し、現代社会の食と農の問題を広いパースペクティブでとらえることができるようになる。					
[授業計画と内容]					
以下の課題について、1週から3週かけて講義する予定である(全15回)					
<ol style="list-style-type: none"> 1 食をめぐる研究の方法 2 明治大正期の食 3 アジア太平洋戦争までの食 4 戦後の食 5 牛乳の歴史学 6 品種改良の歴史学 7 フィードバック 					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
学期末にレポートを課す。					
[教科書]					
使用しない					
[参考書等]					
(参考書)					
池上甲一・原山浩介編 『食と農のいま』					
藤原辰史 『稲の大東亜共栄圏』					
藤原辰史 『ナチスのキッチン』					
藤原辰史 『カブラの冬』					
----- 西洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----					

西洋史学(特殊講義)(2)

ポール・ロバーツ 『食の終焉』
藤原辰史 『給食の歴史』
湯澤規子他編 『食と農の人文学』

(関連URL)

<http://www.zinbun.kyoto-u.ac.jp/~fujihara/>

[授業外学修(予習・復習)等]

食と農に関する新聞・雑誌記事を読んで、現代社会の食と農への関心を深めておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学71

科目ナンバリング	G-LET26 66931 LJ38				
授業科目名 <英訳>	西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 准教授 藤原 辰史		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	水3	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	食と農の人文学				
[授業の概要・目的]					
とりわけ20世紀以降、食と農はどのように変化を遂げてきたのか？ ドイツと日本を中心に、食べものをめぐる制度や文化や技術の変遷を追う。この講義の目的は、現代史の知識を蓄えることではない。あるいは、現代史の概略をつかむことでもない。現代史を批判的に眺める目を獲得し、食と農の未来の構築するためのヒントを考えることである。					
[到達目標]					
現代史における食と農の変遷について理解し、現代社会の食と農の問題を広いパースペクティブでとらえることができるようになる。					
[授業計画と内容]					
以下の課題について、1週から3週かけて講義する予定である(全15回)					
<ol style="list-style-type: none"> 1 食糧戦争としての第一次世界大戦 2 有機農業の歴史 3 毒ガスと農薬の歴史 4 トラクターの歴史 5 戦時期の農村女性たち 6 食糧戦争としての第二次世界大戦 7 フィードバック 					
[履修要件]					
前期の授業を受講しているものとして授業を進める。					
[成績評価の方法・観点]					
講義の終わり頃に筆記試験を課す予定					
[教科書]					
使用しない					
[参考書等]					
(参考書)					
池上甲一・原山浩介編 『食と農のいま』					
藤原辰史 『稲の大東亜共栄圏』					
藤原辰史 『ナチスのキッチン』					
藤原辰史 『カブラの冬』					
----- 西洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----					

西洋史学(特殊講義)(2)

ポール・ロバーツ 『食の終焉』
藤原辰史 『給食の歴史』
湯澤規子他編 『食と農の人文学』

(関連URL)

<http://www.zinbun.kyoto-u.ac.jp/~fujihara/>

[授業外学修(予習・復習)等]

食と農に関する新聞・雑誌記事を読んで、現代社会の食と農への関心を深めておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学72

科目ナンバリング		G-LET26 66931 LJ38			
授業科目名 <英訳>	西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 福本 薫	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	月2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	造形芸術から見た古代ギリシア・ローマ世界				
[授業の概要・目的]					
<p>この講義では、造形芸術を通して古代ギリシア・ローマ世界の変遷を概観する。古代ギリシア・ローマの造形芸術は、その後のヨーロッパ社会の文化に大きな影響を与えた。しかし、古代ギリシア・ローマの文化として、一体的に受容されることで、その変遷や差異は捨象されがちである。本講義では、古代ギリシアにおける造形芸術の始まりから、古代ローマにおけるその受容と変遷、キリスト教美術の誕生までを、代表的な美術作品を取り上げ概観することを通して、古代ギリシア・ローマ世界に生きた人々のあり様を共に探究することを目的とする。</p>					
[到達目標]					
<p>古代ギリシア・ローマ美術の代表的な作品に関する基本的な事項を理解し、またそれを自分の言葉で表現できるようになることを目標とする。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>具体的には次のように進めるが、受講生の理解度などに応じて、順番や内容を変更する可能性がある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 古代ギリシア・ローマ世界 2. エーゲ・ミュケナイ文明 《アガメムノンのマスク》 3. 東方化様式 《誕生のピトス》 4. アルカイック 《アナヴィソスのクーロス》 5. アルカイック エクセキアス作《アイアスとアキレウス》 6. エトルリア 墓壁画 7. クラシック パルテノン神殿 8. クラシック 白地レキュトスの墓辺図 9. ヘレニズム ペルガモン大祭壇彫刻 10. ローマ プリマポルタのアウグストゥス 11. ローマ ポンペイ 12. ローマ トラヤヌス記念柱 13. ローマ 属州のモザイク 14. 初期キリスト教 サンタ・マリア・マッジョーレ聖堂モザイク 15. 古代ギリシア・ローマ美術の研究の今 フィードバックの方法は、授業中に説明します。 					
----- 西洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----					

西洋史学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

- ・ 期末レポート(50点)
提示されたテーマについて、講義の内容を踏まえ、参考文献を活用したうえで、自身の考えを論理的に述べることを問う。
- ・ 平常点(50点)
毎回、講義の内容に関するミニ課題を設ける。作品を言葉にすることや、授業内容の要約など。課題は毎回授業の最初に提示し、対面授業であればその授業の最後に、オンライン授業であればPandAなどで1週間を目安に提出してもらう。それを通じて、講義の内容の理解度を確認する。なお、課題への回答に加えて、講義内容についての質問などを書いてよい。

【教科書】

毎回講義のレジユメを配布する。

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

- ・ 毎回出すミニ課題については、次回の授業の冒頭で解説を行う。授業内容を復習して理解を深め、自分なりに参考文献などを読んで知識を深める。
- ・ 関連書籍をなるべく読む。

(その他(オフィスアワー等))

講義に関する質問には、授業後に対応します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学73

科目ナンバリング		G-LET26 66931 LJ38			
授業科目名 <英訳>	西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	大阪大学人文学研究科 教授 栗原 麻子	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	火2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	女たちの古代ギリシア				
【授業の概要・目的】					
<p>古代ギリシアでは、民主政下であっても女性は参政権を持たなかった。同時代の戦争と外交を描くトゥキディデス『歴史』には、個人名を伴う女性が3名しか登場しない。本講義の目的は、そのように声なき存在であった女性たちの視線から、古代ギリシア史を描きなおすことである。研究史を踏まえたうえで、女性たちひとりひとりに光を当て、女性とポリス共同体との関係性、宗教、法制度との関わり、親族ネットワーク、ジェンダー規範といった問題について論じたい。なお、資料的限界から分析は古典期のアテナイを中心とするが、他地域とヘレニズム時代についても展望する。</p>					
【到達目標】					
ジェンダー史が、どのように社会にかんする理解を修正しうるのかを、具体的な事例から理解することができる。					
【授業計画と内容】					
<p>以下のような流れで実施する。</p> <p><はじめに></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 男性中心のギリシア史から女たちのギリシア史へ 2. 資料的限界と本講義の方法 <p><第1部 事例></p> <ol style="list-style-type: none"> 3. 結婚と女の一生 4. 色男にご注意：姦通罪 5. 戦う母：女性たちの法廷闘争 6. 生家と女性 7. 祈る女・申う女・呪う女 8. 銀行家の妻 9. 女性の職業 10. 老女 <p><第2部 ポリスと女性></p> <ol style="list-style-type: none"> 11. 女性市民とは何か(3回) 12. ヘレニズムへの展望 13. レポートへのフィードバック(1回)*フィードバック方法は授業中に説明 					
----- 西洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----					

西洋史学(特殊講義)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

学期末のレポート（80点） 講義内容に即した記述ができているかどうかと，到達目標の達成度とに基づき評価する。

平常点（20点） 講義中に記入するコメントシートおよび授業態度

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）

授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

講義内容，配布資料について，授業前に見直しておくこと。授業中に別途指示することもありうる。

（その他（オフィスアワー等））

講義内容に関して不明な点があれば，積極的な質問を期待する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学74

科目ナンバリング		G-LET26 66931 LJ38			
授業科目名 <英訳>	西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 小山 哲	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	水5	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ポーランド史の窓から ヨーロッパ史のもうひとつの視角				
【授業の概要・目的】					
<p>19世紀前半、ポーランドの詩人ユリウシュ・スウォヴァツキは「ヨーロッパがニンフなら/ナポリが彼女の碧い瞳/ワルシャワが心臓/.../パリが頭、ロンドンがぱりっとたった衿/ローマは僧侶の胸当て」と歌った。ポーランドから見ると、ヨーロッパ史はどのように見えるのだろうか。ポーランドの人びとは、ヨーロッパ世界のなかに、どのように自らを位置づけてきたのだろうか。そのさいに「東」と「西」の区分とその境界には、どのような意味が与えられてきたのだろうか。東に隣接するウクライナとの関係にも論及しながら、中世から近現代までの幅のなかで、ポーランド史におけるヨーロッパ認識の変遷について考察する。</p>					
【到達目標】					
<p>ヨーロッパ東部に視座をおくことによって、ヨーロッパ史の見え方がどのように変わるかを認識する。ヨーロッパの自己意識の多様で重層的な内実について理解を深めると同時に、地域アイデンティティの歴史的な構築性について考える手がかりとする。</p>					
【授業計画と内容】					
<p>以下のテーマに従って、講義を進める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ポーランドから見るヨーロッパ 問題への誘い(第1回) 2. 「ポーランド史」とは何か(第2・3回) 3. 中世ヨーロッパにおけるポーランドの「発見」(第4・5回) 4. サルマチア 近世ポーランドの自己認識(第6~8回) 5. 東と西のあいだで 近現代ポーランドにおけるヨーロッパ認識(第9~11回) 6. ポーランドからみるウクライナ 歴史のなかで考える(第12~14回) 7. フィードバック(第15回) 					
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
<p>学期末に筆記試験をおこない、その結果にもとづいて成績を評価する。 論述試験によって授業の内容にかんする理解度を確認し、到達目標に照らして達成度を判定する。</p>					
----- 西洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----					

西洋史学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

配布する資料を予習・復習に用いることができる。また、授業でとりあげる時代と地域の概要を、歴史地図・年表や概説書などで、その都度確認しておくとう理解が深まるであろう。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学75

科目ナンバリング		G-LET26 66931 LJ38			
授業科目名 <英訳>	西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 小山 哲	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	水5	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ヤン・フリゾストム・パセクの世界 17世紀のポーランド貴族の回想録から				
[授業の概要・目的]					
<p>ポーランドの17世紀は「日記・回想録の時代」とも呼ばれる。出版を想定しない手書きの記録が多数残され、書き手の多くは貴族身分の男性であった。本講義では、そのようなテキスト群のなかから、ヤン・フリゾストム・パセクJan Chryzostom Pasek (c.1636 - 1701)の回想録をとりあげ、その内容を紹介しながら、17世紀のポーランド貴族が自らの生きる世界をどのように認識し記述したか、その歴史的特質を探る。</p>					
[到達目標]					
<p>近世ポーランドの貴族共和政の担い手の自己認識と世界認識の特徴を認識することをつうじて、ヨーロッパ東部の近世史についての理解を深める。併せて、エゴ・ドキュメントを史料として用いる歴史研究の可能性と制約性について考える手がかりとする。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>以下のようなテーマに従って、講義を進める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ポーランド史における日記・回想録 問題への導入(第1・2回) 2. 近世ポーランドの日記・回想録(第3・4回) 3. ヤン・フリゾストム・パセクのプロフィール(第5・6回) 4. パセクの回想録を読む(第7~14回) 5. フィードバック(第15回) 					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
<p>学期末に筆記試験をおこない、その結果にもとづいて成績を評価する。 論述試験によって授業の内容にかんする理解度を確認し、到達目標に照らして達成度を判定する。</p>					
[教科書]					
授業中に指示する					
----- 西洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----					

西洋史学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

配布する資料を予習・復習に用いることができる。また、授業でとりあげる時代と地域の概要を、歴史地図・年表や概説書などで、その都度、確認しておくとう理解が深まるであろう。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET26 66931 LJ38			
授業科目名 <英訳>	西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	奈良女子大学大学院生活環境科 学系(生活環境学部)教授 林田 敏子	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	火4	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	大戦とジェンダー 軍隊・記憶・セクシュアリティ				
[授業の概要・目的]					
<p>二〇世紀に起こった二度にわたる世界大戦は、銃後を広く巻き込む総力戦として多くの女性たちを動員した。前線にまで拡大した女性の戦時活動は、ときに「男の領域の侵犯」ととらえられ、様々な手段でジェンダー秩序の維持がはかられた。本講義では両大戦期のイギリスを対象に、大規模な戦時動員が引き起こした諸問題をジェンダーとセクシュアリティの観点から考察する。戦争に主体的に関わることを求められた女性たちの活動や経験を、軍隊(前線)と家庭(銃後)という二つの空間の重なりや連続性のなかに位置づけてみたい。女性に求められた戦時の役割や女性表象が果たした機能、戦時の「男らしさ」をめぐる価値観の揺らぎ、そして長い「戦後」という時空間における大戦の記憶の変遷に焦点をあてながら、女性たちの長い「戦い」を論じる。</p>					
[到達目標]					
<p>総力戦となった両大戦期において、なぜ、そしていかなる形でジェンダー問題が顕在化し、どのような対処がなされたのかを、現代社会とのつながりのなかで理解する。大戦とジェンダー研究の複数の論点への理解を深めることで、汎用性のあるアプローチ方法を獲得し、それを自らの問題関心にひきつけて、新たな研究の可能性を探ることができるようになる。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>以下の授業計画に沿って進めるが、講義の進捗や受講生の関心や理解度によって、回数や順序、テーマを微調整することがある。</p>					
<ol style="list-style-type: none"> 1. パンプスを履いた女性兵士 戦うことと「女らしさ」 2. 大戦とジェンダーをめぐるトピックと論点 3. 女性の戦時動員とセクシュアリティ 4. 第一次世界大戦と女性部隊 5. 第二次世界大戦と女性部隊 6. 軍隊のなかのジェンダー秩序 制服の下の女らしさ 7. 軍隊のなかのジェンダー秩序 誰が引き金を引くか 8. 近代戦とマスキュリニティ 9. 軍隊とマスキュリニティ 兵士になれない男たち 10. 軍隊とマスキュリニティ—シェルショック 11. 軍隊と同性愛 排除が黙認か 12. キッチン・ソルジャー 主婦たちの世界大戦 13. 語り出す女性たち 「忘れられた軍隊」の記憶 14. 「普通の人々」の大戦経験 Mass Observationと第二次世界大戦 15. Mass Observationと第二次世界大戦 ある主婦の日記をもとに 					
----- 西洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----					

西洋史学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

授業中に出される課題（30％）、学期末のレポート（70％）で成績を評価する。
到達目標に掲げた水準に達しているか否かで達成度を測る。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

大戦とジェンダーに関する文献（授業中に適宜紹介する）を積極的に参照すること。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学77

科目ナンバリング		G-LET26 76961 LJ38			
授業科目名 <英訳>	西洋史学（講読） European History (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 小山 哲	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	火4	授業形態	講読（対面授業科目）	使用言語	日本語
題目	ポーランド書講読				
[授業の概要・目的]					
ポーランド語で書かれた歴史書を精読することをつうじて、ポーランド語の読解力の向上を図るとともに、ポーランドにおける歴史認識や歴史研究の現状について理解を深めることを目標とする。					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・歴史学の研究で用いられるポーランド語の語彙や語法を習得する。 ・ポーランドとその周辺地域の歴史について、ポーランド語のテキストをつうじて基本的な事項を理解する。 					
[授業計画と内容]					
この授業では、次の本のなかから、いくつかの章を講読する。					
Marcin Kula, Historia w tera ^ń szej historii, Gda ^ń sk 2022.					
本書はポーランド現代史の研究者が、コロナ感染の拡大やウクライナでの戦争をはじめとする同時代の問題をふまえながら、歴史と現代の関係について考察した論集である。					
授業は受講者による訳読と、担当者による解説を中心に進める。ポーランド語の歴史叙述で用いられる語彙に親しむとともに、今日の歴史認識をめぐる論点についての理解を深めることを目指す。					
第1回 オリエンテーション 第2～14回 訳読と解説 第15回 フィードバック					
[履修要件]					
ポーランド語の初級文法を習得していることが望ましい。					
[成績評価の方法・観点]					
平常点（授業中の訳読の実績）によって評価する。					
----- 西洋史学（講読）(2)へ続く -----					

西洋史学（講読）(2)

[教科書]

授業でテキストを配布する。

[参考書等]

（参考書）

授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

- ・あらかじめテキストを読んでおくことが授業に参加する前提である。
- ・授業中に訳読について指摘された点を授業後にもう一度確認しておく、さらにポーランド語の文献を読み進むうえで効果的であろう。

（その他（オフィスアワー等））

読解力を高めるためには、ある程度の分量のテキストを読み続けることが不可欠である。受講生には、継続して出席し、十分な予習をしたうえで授業にのぞむことを期待する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学78

科目ナンバリング	G-LET26 76961 LJ38				
授業科目名 <英訳>	西洋史学(講読) European History (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 小山 哲		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	火4	授業形態	講読(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	ポーランド書講読				
[授業の概要・目的]					
ポーランド語で書かれた歴史書を精読することをつうじて、ポーランド語の読解力の向上を図るとともに、ポーランドにおける歴史認識や歴史研究の現状について理解を深めることを目標とする。					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・歴史学の研究で用いられるポーランド語の語彙や語法を習得する。 ・ポーランドとその周辺地域の歴史について、ポーランド語のテキストをつうじて基本的な事項を理解する。 					
[授業計画と内容]					
この授業では、次の本のなかから、近世の歴史にかんする章を講読する。					
Dzieje polskiego parlamentaryzmu, redakcja naukowa: Dariusz Kupisz, Warszawa 2022.					
本書は最新のポーランド議会史の通史である。全体は15世紀から現代までを扱っているが、そのなかから近世(1569~1793年)にかかわる章を読む。					
授業は受講者による訳読と、担当者による解説を中心に進める。ポーランド語の歴史叙述で用いられる語彙に親しむとともに、ポーランド近世史・国制史をめぐる論点についての理解を深めることを目指す。					
第1回 オリエンテーション 第2~14回 訳読と解説 第15回 フィードバック					
[履修要件]					
ポーランド語の初級文法を習得していることが望ましい。					
[成績評価の方法・観点]					
平常点(授業中の訳読の実績)によって評価する。					
----- 西洋史学(講読)(2)へ続く -----					

西洋史学(講読)(2)

[教科書]

授業でテキストを配布する。

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

- ・あらかじめテキストを読んでおくことが授業に参加する前提である。
- ・授業中に訳読について指摘された点を授業後にもう一度確認しておく、さらにポーランド語の文献を読み進むうえで効果的であろう。

(その他(オフィスアワー等))

読解力を高めるためには、ある程度の分量のテキストを読み続けることが不可欠である。受講生には、継続して出席し、十分な予習をしたうえで授業にのぞむことを期待する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学79

科目ナンバリング		G-LET26 76971 SJ38			
授業科目名 <英訳>	西洋史学（演習I） European History (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 藤井 崇	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	金5	授業形態	演習（対面授業科目）	使用言語	日本語
題目	西洋史学演習 I（西洋古代史演習）				
[授業の概要・目的]					
<p>この授業は、ギリシア・ローマ史を中心とする西洋古代史の研究を本格的におこなう能力を養成することを目的とする。主に外国語で書かれた一次史料ならびに二次文献を分析することで、基本的な歴史的事象やこれまでに学界で議論されてきた代表的論点を学び、自身で歴史学的課題を設定し、それを解決する能力を涵養する。また、研究の成果を口頭・文書で論理的に表現し、他の研究者と意義あるディスカッションをおこなう技能の獲得も目指す。一部を同時双方向型メディア授業とし、多様な素材を通じて西洋古代史をより深く理解することも目的の一部とする。</p>					
[到達目標]					
<p>西洋古代史の広範な歴史的事象と歴史学的論点を理解することで、自身の研究をさらに発展させる。一次史料と二次文献を批判的に分析し、その成果を自身の研究に取り入れ、国際レベルでの研究者となる基礎を形成する。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>おおむね以下の内容に従って演習を進めていく。ただし、報告割当の都合などで、各内容の順番は前後する可能性がある。</p> <p>前期の演習では、古代末期における権力構造理解を刷新したPeter Brown, <i>Power and Persuasion in Late Antiquity</i> (1988) を講読する。講読にあたって、一次史料の分析を組み合わせることで、基本的な歴史的知識を養うと同時に、これまで学界で議論されてきた重要な論点の意義と将来性を見抜く能力を獲得する。各受講生は、この演習での経験をもとに、各自の研究の深化を図ってほしい。</p>					
<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション（同時双方向型メディア授業、1回） 2. 遺跡等紹介（同時双方向型メディア授業、2回） 3. テクスト講読と遺跡等紹介（同時双方向型メディア授業、3回） 4. 受講生の研究報告（対面授業、8回、5月24日（金）、5月31日（金）、6月7日（金）を中心に行う） 5. まとめ・フィードバック（1回） 					
[履修要件]					
<p>西洋古代史の分野で研究をおこなう大学院生の出席を授業の前提とする。</p>					
<p>----- 西洋史学（演習I）(2)へ続く -----</p>					

西洋史学（演習I）(2)

【成績評価の方法・観点】

報告分担時の報告内容、ディスカッションへの参加などを総合的に勘案し、到達目標の達成度を基準として、平常点で評価する。

【教科書】

使用するテキストは授業初回で紹介し、進行にあわせて準備する。

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

基本テキスト、一次史料、個別論文の予習が不可欠となる。大学院生は、関連する一次史料、二次文献も積極的に活用すること。さらに、この演習での経験をもとに、自身の研究の発展を目指す必要がある。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学80

科目ナンバリング		G-LET26 76971 SJ38			
授業科目名 <英訳>	西洋史学（演習I） European History (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 藤井 崇	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	金5	授業形態	演習（対面授業科目）	使用言語	日本語
題目	西洋史学演習I（西洋古代史演習）				
[授業の概要・目的]					
<p>この授業は、ギリシア・ローマ史を中心とする西洋古代史の研究を本格的におこなう能力を養成することを目的とする。主に外国語で書かれた一次史料ならびに二次文献を分析することで、基本的な歴史的事象やこれまでに学界で議論されてきた代表的論点を学び、自身で歴史学的課題を設定し、それを解決する能力を涵養する。また、研究の成果を口頭・文書で論理的に表現し、他の研究者と意義あるディスカッションをおこなう技能の獲得も目指す。一部を同時双方向型メディア授業とし、多様な素材を通じて西洋古代史をより深く理解することも目的の一部とする。</p>					
[到達目標]					
<p>西洋古代史の広範な歴史的事象と歴史学的論点を理解することで、自身の研究をさらに発展させる。一次史料と二次文献を批判的に分析し、その成果を自身の研究に取り入れ、国際レベルでの研究者となる基礎を形成する。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>おおむね以下の内容に従って演習を進めていく。ただし、報告割当の都合などで、各内容の順番は前後する可能性がある。</p> <p>後期の演習では、受講生が順に各自の研究報告をおこなう。その際、それぞれのテーマに関係の深い文献を、受講生全員で講読する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 受講生の研究報告と関連文献の講読ならびに遺跡等の紹介（同時双方向型メディア授業、6回） 2. 受講生の研究報告と関連文献の講読（対面授業、8回、10月25日（金）、11月1日（金）、11月8日（金）を中心に行う） 3. まとめ・フィードバック（1回） 					
[履修要件]					
西洋古代史の分野で研究をおこなう大学院生の出席を授業の前提とする。					
[成績評価の方法・観点]					
報告分担時の報告内容、ディスカッションへの参加などを総合的に勘案し、到達目標の達成度を基準として、平常点で評価する。					
----- 西洋史学（演習I）(2)へ続く -----					

西洋史学（演習I）(2)

[教科書]

使用するテキストは授業初回で紹介し、進行にあわせて準備する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

基本テキスト、一次史料、個別論文の予習が不可欠となる。大学院生は、関連する一次史料、二次文献も積極的に活用すること。さらに、この演習での経験をもとに、自身の研究の発展を目指す必要がある。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学81

科目ナンバリング	G-LET26 76972 SJ38				
授業科目名 <英訳>	西洋史学（演習II） European History (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	人間・環境学研究科 教授 佐藤 公美		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	金5	授業形態	演習（対面授業科目）	使用言語	日本語
題目	西洋史学演習 II（西洋中世史演習）				
[授業の概要・目的]					
<p>本演習では、ヨーロッパ史に関係する欧米の相対的に新しい英語研究文献を読解し議論する。これにより英語で専門研究文献を精読する力を養うとともに、現在の歴史学方法論、解釈理論、史料論、および研究上の諸論点を学び、理解を深め、ヨーロッパ史についての基本的な知識を身に着ける。本演習では中世史を中心に扱うが、テキストの一部は近世も対象としている。</p> <p>今回のテーマは中・近世における「市民権 citizenship」である。市民権は近代国民国家において、国内の社会統合を支え国民の権利を保障し義務を定めてきたが、このような市民権概念はグローバル化時代の人の移動の拡大と恒常化にともない見直しを余儀なくされている。それとともに、移動する人間が関わる今日の政治的・社会的コミュニティの多様な姿と新たな課題と可能性が浮かび上がってきてつつある。このような現代社会に磨かれた新しい目で、中・近世ヨーロッパ史の大動脈である「都市」と「共同体」という問題に、市民権を軸に、真正面から飛び込んでみたい。そして長い研究の蓄積の中で「都市」と「共同体」と四つに組み合ってきたヨーロッパ前近代史からこそ得られる、現代社会と長い歴史の不断の対話の可能性に手を伸ばしてみたい。</p> <p>今回の演習では、この問題に関する最新の研究成果に向き合い、歴史研究の思考力と知識と技術を磨きながら、参加者各自が新たなヨーロッパ史像を考えることを目指す。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・英語による西洋史学の専門文献の読み方を習得する。 ・授業で扱うテーマを中心に、ヨーロッパ史に関する歴史学研究上の諸論点を理解する。 ・専門的な文献と史資料の理解に基づいた議論を行い、適格な説明や問題提起を行うことができるようになる。 ・各参加者が自らの研究を深めるための知識、技術、考え方を習得する。 					
[授業計画と内容]					
<p>授業は総合人間学部、人間・環境学研究科、文学部の授業と共通。英語文献精読のテキストとして以下のものを用いる。</p> <p>Christian D. Liddy, <i>Contesting the City: The Politics of Citizenship in English Towns, 1250-1530</i>, Oxford University Press, 2017.</p> <p>授業は基本的に以下の計画にそって進めるが、参加者数等に応じて変更がありうる。</p> <p>第1回はイントロダクションとして、取り上げる文献の概要と方法論、研究状況についての導入的説明を行う。また、ヨーロッパ史研究の基本的な道具を紹介し、授業の進め方の確認と担当の分担を行い、補足的な導入用文献の配布を行う。</p> <p>第2回は日本語の参考文献を用いて導入的な議論を行う。</p>					
西洋史学（演習II）(2)へ続く					

西洋史学（演習II）(2)

第3回～第12回はContesting the City: The Politics of Citizenship in English Towns, 1250-1530文献の読解・発表・議論を行う。受講生の関心と必要に応じて、適宜補助的な資料の配布と読解、説明、議論を行う。

第13回・第14回はまとめと討論を行う。

各回の内容は以下の通り。

第1回 イントロダクション

第2回 日本語参考文献に基づく導入的学習

第3回 Contesting the City, 1. Introduction

第4回 Contesting the City, 2. Citizenship and Citizens

第5回 Contesting the City, 3. Space: Boundaries

第6回 Contesting the City, 4. Civic Time: Elections (1)

第7回 Contesting the City, 4. Civic Time: Elections (2)

第8回 Contesting the City, 5. Communication: Sound and Sight (1)

第9回 Contesting the City, 5. Communication: Sound and Sight (2)

第10回 Contesting the City, 6. Written Constitutions; Text and Object (1)

第11回 Contesting the City, 6. Written Constitutions; Text and Object (2)

第12回 Contesting the City, 7. Conclusion

第13回 まとめと討論 1

第14回 まとめと討論 2

第15回 フィードバック

[履修要件]

ヨーロッパの歴史や文化に関心を持ち、英語の研究文献を読む意欲を有すること。

[成績評価の方法・観点]

平常点で評価する。演習時の報告と討論への参加に基づき、上記到達目標を踏まえて総合的に評価する。

[教科書]

Christian D. Liddy 『Contesting the City: The Politics of Citizenship in English Towns, 1250-1530』（Oxford University Press, 2017.）ISBN:9780198705208（テキストとなる文献の入手については別途指示する。補足資料は随時配布する。）

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

文献の予習は必須。随時紹介・配布する参考となる文献や資料も読んでおくこと。その他、関連する文献や資料を各自主体的に読み進めていくことが望ましい。

西洋史学（演習II）(3)へ続く

西洋史学（演習Ⅱ）(3)

（その他（オフィスアワー等））

演習では主体的に関わっただけの成長が得られるので、しっかり文献を読み込み準備をした上で、積極的に臨んでください。また、ぜひとも討論を大切にしてください。意見や疑問をぶつけあい共有することで、一人では決して得られないものにたどり着くことができます。共に学ぶためにお互いに貢献し合ってほしいと思います。

質問その他は授業の前後の時間とオフィスアワーに受け付ける他、メール連絡にも対応します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学82

科目ナンバリング		G-LET26 76972 SJ38			
授業科目名 <英訳>	西洋史学（演習II） European History (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	人間・環境学研究科 教授 佐藤 公美		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	金5	授業形態	演習（対面授業科目）	使用言語	日本語
題目	西洋史学演習 II（西洋中世史演習）				
[授業の概要・目的]					
西洋中世史学の研究方法と研究成果を表現し他者に伝える方法を学ぶ。そのためにまず西洋中世史料論を学び、ついで各参加者が自らの研究課題を定め、具体的な研究を実践し、研究報告を行う。					
[到達目標]					
各演習参加者が自らの研究を深めるための知識、技術、考え方を習得する。 1回生は、自らの研究課題を深め、史資料や文献を収集、分析するとともに、史料の類型や性質に関する理解を深める。 2回生は、自らの研究を深化発展させ、まとめ上げる力を身に着ける。					
[授業計画と内容]					
研究の技術と知識習得のための共通課題として、史料論の学習や史資料研究の実習に一部の時間を充てる。高山博・池上俊一編『西洋中世学入門』第1部を参考資料としつつ、各回に具体的な史料を取り上げ学習する。 次いで、参加者各自が設定したテーマに沿った個人研究の口頭報告と、参加者全員による質疑応答と討論、助言や指導を行う。その際、研究を進めるプロセスの各ステップにおいて習得すべき事柄に毎回焦点を当てる。 第1回と第9回～第14回は「欧米歴史社会論演習IIB」と合同で行う。 総合人間学部、人間・環境学研究科、文学部の授業と共通。 基本的に以下の計画にそって授業を進めるが、参加者数等に応じて変更がありうる。					
第1回 イン트로ダクション 参加者各自の興味や研究課題を確認し、授業の進め方の確認と発表の割り当てを行う。（欧米歴史社会論演習IIBと合同）					
第2回 『西洋中世学入門』序論「西洋中世学の世界」（高山博・池上俊一）					
第3回 『西洋中世学入門』第1章 古書体学・古書冊学					
第4回 『西洋中世学入門』第2章 文書形式学					
第5回 『西洋中世学入門』第3章 刻銘学・第4章 暦学					
第6回 『西洋中世学入門』第5章 度量衡学・第6章 古銭学					
第7回 『西洋中世学入門』第7章 第8章					
第8回 『西洋中世学入門』第9章 第10章					
第9回 受講生の研究発表 -先行研究を整理し問を設定する（欧米歴史社会論演習IIBと合同）					
第10回 受講生の研究発表 -史料の性格を把握する（欧米歴史社会論演習IIBと合同）					
第11回 受講生の研究発表 -史料を分析する（欧米歴史社会論演習IIBと合同）					
第12回 受講生の研究発表 議論を論理的に組み立てる（欧米歴史社会論演習IIBと合同）					
第13回 受講生の研究発表 自説を位置付ける・意義付ける（欧米歴史社会論演習IIBと合同）					
西洋史学（演習II）(2)へ続く					

西洋史学（演習II）(2)

第14回 研究発表の振り返りと総合討論（欧米歴史社会論演習IIBと合同）
第15回 フィードバック

【履修要件】

ヨーロッパの歴史や文化に関心を有すること。

【成績評価の方法・観点】

平常点で評価する。演習時の報告と討論への参加に基づき、上記到達目標を踏まえて総合的に評価する。

【教科書】

高山博・池上俊一（編）『西洋中世学入門』（東京大学出版会，2005年）

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

各自の研究テーマに沿って計画的に史料や文献の読み込み、分析、整理、考察を行い、研究を進めておく。また、口頭報告の準備には十分な時間をとること。

（その他（オフィスアワー等））

演習での研究は、世界にたった一つのあなたの研究成果です。演習ではそれぞれの「たった一つ」を対話の中でともに育て磨き上げてゆきます。積極的に臨み、議論による共有と創造を楽しんでください。質問その他の相談はオフィスアワーの他随時受付ます。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学83

科目ナンバリング		G-LET26 76973 SJ38			
授業科目名 <英訳>	西洋史学（演習Ⅲ） European History (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 文学研究科	教授 講師	小山 哲 安平 弦司
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	金5	授業形態	演習（対面授業科目）	使用言語	日本語
題目	西洋史学演習（西洋近世史演習）				
[授業の概要・目的]					
<p>近世のヨーロッパ史にかんする欧米の比較的新しい研究文献を読解し、また、個別の論点について討論することをつうじて、近世ヨーロッパにかんする基本的な知識を身につけると同時に、最近の研究動向や研究史上の争点についての理解を深めることを目指す。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・ヨーロッパ史における「近世」とはどのような時代か、欧米や日本における最近の研究状況をふまえながら、多角的に理解する。 ・英語による研究文献を読み、議論することをつうじて、西洋史学にかかわる研究文献の読み方を習得する。 					
[授業計画と内容]					
<p>ヨーロッパの近世史上の主要な問題である寛容について多角的に論じた次の本をとりあげ、その内容を正確に理解するとともに、研究の視角や考察の特徴について議論する。</p> <p>Benjamin J. Kaplan and Jaap Geraerts (eds.), Early Modern Toleration: New Approaches, Routledge: London and New York, 2024.</p> <p>参加者全員による討論をつうじて、近世ヨーロッパ史における寛容とはどのような行為実践・思想であるのか、それを可能にしたあるいは妨げた政治的・社会経済的・文化的条件はどのようなものであったのか、近世ヨーロッパの寛容を研究する手がかりとなる史料にはどのような特徴があるのか、最新の研究ではどのような視点や研究手法が取り入れられているのか、といった問題を、さまざまな角度から検討する。</p> <p>イントロダクション（第1回）に続けて、各回（第2回～第15回）に上記の本を読み、内容を理解したうえで、近世ヨーロッパ史にかかわる諸問題について議論する。</p> <p>フィードバックについては、授業中に指示する。</p>					
[履修要件]					
特になし					
----- 西洋史学（演習Ⅲ）(2)へ続く -----					

西洋史学（演習Ⅲ）(2)

【成績評価の方法・観点】

授業でとりあげるテキストの内容要約と論点の提示、研究発表、討論への参加の度合いにもとづき、到達目標に示した諸点をふまえて、総合的に評価する。試験は行なわない。

【教科書】

使用するテキストの入手については、別途指示する。

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

- ・ 毎回、議論の対象となるテキストをあらかじめ読んでおくことが、授業に参加する前提である。
- ・ 議論に積極的に参加するために、西洋史学全般、またヨーロッパ近世史にかかわる文献を幅広く読んでおくこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学84

科目ナンバリング		G-LET26 76973 SJ38			
授業科目名 <英訳>	西洋史学（演習Ⅲ） European History (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 文学研究科	教授 講師	小山 哲 安平 弦司
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	金5	授業形態	演習（対面授業科目）	使用言語	日本語
題目	西洋史学演習（西洋近世史演習）				
【授業の概要・目的】					
<p>近世のヨーロッパ史上の個別の論点について討論することをつうじて、近世ヨーロッパにかんする基本的な知識を身につけると同時に、最近の研究動向や研究史上の争点についての理解を深めることを目指す。必要に応じて近世のヨーロッパ史にかんする欧米の比較的新しい研究文献をとりあげて読解し、議論する。</p>					
【到達目標】					
<ul style="list-style-type: none"> ・ヨーロッパ史における「近世」とはどのような時代か、欧米や日本における最近の研究状況をふまえながら、多角的に理解する。 ・受講生各自が研究発表を行なうことにより、各受講生の専門的な研究を深化させるとともに、発表に説得力をもたせるにはどのような工夫が必要かを考え、実践する経験を積む。 ・関連する英語による研究文献を読み、議論することをつうじて、西洋史学にかかわる研究文献の読み方を習得する。 					
【授業計画と内容】					
<p>第1回： オリエンテーション</p> <p>第2回以降： 参加者がそれぞれ興味をもつテーマについて研究発表を行い、それにもとづいて全員で討論を行う。 また、関連するテーマのについて英語による文献を全員で読解し、議論する。 参加者の研究発表には第2回から偶数回を、文献の読解・議論には第3回から奇数回をあてる予定であるが、受講生の人数によって変更することもありうる。</p> <p>フィードバックについては、授業中に指示する。</p>					
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
<p>研究発表、討論への参加の度合い、授業でとりあげるテキストの内容要約と論点の提示にもとづき、到達目標に示した諸点をふまえて、総合的に評価する。試験は行なわない。</p>					
----- 西洋史学（演習Ⅲ）(2)へ続く -----					

西洋史学（演習Ⅲ）(2)

【教科書】

使用するテキストの入手については、別途指示する。

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

- ・受講生各自が関心のあるテーマについて個別発表を行なうので、そのための研究を各自で進めておくことが必要である。
- ・文献を読む回については、議論の対象となるテキストをあらかじめ読んでおくことが、授業に参加する前提である。
- ・議論に積極的に参加するために、西洋史学全般、またヨーロッパ近世史にかかわる文献を幅広く読んでおくこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学85

科目ナンバリング		G-LET26 76974 SJ38			
授業科目名 <英訳>	西洋史学（演習Ⅳ） European History (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 金澤 周作	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	金5	授業形態	演習（対面授業科目）	使用言語	日本語
題目	西洋史学演習（西洋近代史演習）				
[授業の概要・目的]					
この演習では、西洋の近代（18世紀半～20世紀初頭）を主体的に探求するのに必要な作法を学ぶ。そのために、まとまった分量の欧米の研究文献を精読することを課す。					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・西洋近代の諸事象について、歴史学的な意識を持って考えられるようになる。 ・歴史学的な諸論点を理解することができるようになる。 					
[授業計画と内容]					
<p>近代史研究は、対象とする場所（国や地域）と時期とテーマに応じて非常に専門化と細分化が進んでいる。しかし、異なる地域・時代を扱う研究者や、他の学問分野の人々と有意義な対話をしてゆこうとするならば、ある種の広いパースペクティブを持たざるを得ないだろう。そこで、本演習では、1～2回目にイントロダクションを行ったうえで、3～13回に、大きな近代史共通のテーマを扱っている文献Beatrice de Graaf, Ido de Haan and Brian Vick (ed.), <i>Securing Europe after Napoleon: 1815 and the New European Security Culture</i> (CUP, 2019)を、分担を決めて読んでいく。そして14～15回で総括をする。こうして、広い視野を学び、さまざまな方法論に触れ、同時に西洋史研究に不可欠な、英語文献を正確に読解する力を養う。さらに、内容について活発な議論がなされることを期待している。</p>					
第1回 西洋近代史について					
第2回 19世紀ヨーロッパの国家・帝国の体制について					
第3回 Vienna 1815: Introducing a European Security Cultureを読む					
第4回 chapter 1 - Cultures of Peace and Security from the Vienna Congress to the Twenty-First Centuryを読む					
第5回 chapter 2 - Historicising a Security Cultureを読む					
第6回 chapter 3 - The Congress of Vienna as a Missed Opportunityを読む					
第7回 chapter 4 - The Central Commission for the Navigation of the Rhineを読む					
第8回 chapter 5 - From the Balance of Power to a Balance of Diplomacy? とchapter 6 - The London Ambassadors' Conferences and Beyondを読む					
第9回 chapter 7 - The Allied Machineとchapter 8 The German Confederationを読む					
第10回 chapter 9 - Constructing an International Conspiracyとchapter 10 - Security and Transnational Policing of Political Subversion and International Crime in teh German Confederation after 1815を読む					
第11回 chapter 11 - The Papacy, Reform and Interventionとchapter 12 - From Augarten to Algiersを読む					
第12回 chapter 13 - Friedrich von Gentz and His Wallachian Correspondentsを読む					
第13回 chapter 14 - Diplomats as Power Brokersを読む					
第14回 chapter 15 - Economic Insecuriy, 'Securities' and a European Security Culture after the Napoloenic Warsを読む					
第15回 全体の総括と議論					
西洋史学（演習Ⅳ）(2)へ続く					

西洋史学（演習Ⅳ）(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

演習内報告（回数は人数によって異なる）が80%、演習内での議論での貢献が20%。いずれにおいても、上記到達目標に照らし、受講生の達成の度合いに基づいて判断する。

【教科書】

Beatrice de Graaf, Ido de Haan and Brian Vick 『Securing Europe after Napoleon: 1815 and the New European Security Culture』（CUP, 2019）ISBN:978-1-108-44642-6

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

各回の英語文献の予習は必須。内容理解を深めるために、関連する日本語文献も復習を兼ねて適宜読み進めていくこと。

（その他（オフィスアワー等））

受講者に対するこの演習の効果は、文献を事前にどれだけしっかり読み込んだかに左右される。ただ読むだけでなく、疑問点を洗い出して調べる、議論の問題点を探る、など主体的に挑んでいくことが要求される。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学86

科目ナンバリング		G-LET26 76974 SJ38			
授業科目名 <英訳>	西洋史学（演習Ⅳ） European History (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 金澤 周作	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	金5	授業形態	演習（対面授業科目）	使用言語	日本語
題目	西洋史学演習（西洋近代史演習）				
【授業の概要・目的】					
この演習では、西洋の近代（18世紀半～20世紀初頭）を主体的に探求するのに必要な作法を学ぶ。そのために、個別の自由発表を行うことを課す。					
【到達目標】					
<ul style="list-style-type: none"> ・西洋近代の諸事象について、歴史学的な意識を持って考えられるようになる。 ・歴史学的な諸論点を理解することができるようになる。 					
【授業計画と内容】					
近代史研究は、対象とする場所（国や地域）と時期とテーマに応じて非常に専門化と細分化が進んでいる。しかし、異なる地域・時代を扱う研究者や、他の学問分野の人々と有意義な対話をしてゆこうとするならば、ある種の広いパースペクティブを持たざるを得ないだろう。そこで、1回のイントロダクションの後、2～14回に、各受講者に、日ごろの研究成果を報告してもらい、批判的に議論をし、幅広い地域の諸テーマについて皆で理解を深め、15回目に総括する。					
第1回 授業のねらいについて 第2回 研究報告1、史実に注目して議論する 第3回 研究報告2、学説史に注目して議論する 第4回 研究報告3、先行研究に注目して議論する 第5回 研究報告4、時代区分に注目して議論する 第6回 研究報告5、トランスナショナルな視点から議論する 第7回 研究報告6、グローバルな視点から議論する 第8回 研究報告7、比較史の観点から議論する 第9回 研究報告8、言語論的転回を意識して議論する 第10回 研究報告9、ジェンダーの視点を意識して議論する 第11回 研究報告10、階級に注目して議論する 第12回 研究報告11、帝国に注目して議論する 第13回 研究報告12、資本主義に注目して議論する 第14回 研究報告13、ネイション、エスニシティに注目して議論する 第15回 全体の総括					
【履修要件】					
特になし					
----- 西洋史学（演習Ⅳ）(2)へ続く -----					

西洋史学（演習Ⅳ）(2)

[成績評価の方法・観点]

演習内報告（回数は人数によって異なる）が80%、演習内での議論での貢献が20%。いずれにおいても、上記到達目標に照らし、受講生の達成の度合いに基づいて判断する。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）

金澤周作監修 『論点・西洋史学』（ミネルヴァ書房、2020年）

[授業外学修（予習・復習）等]

自由報告を行うための準備はおこたりにく進めるものとし、演習での指摘を活かして勉学を継続すること。

（その他（オフィスアワー等））

受講者に対するこの演習の効果は、自分の報告のためにどれだけしっかり準備したか、そして他の報告にどれだけ批判的に介入し質問や提言などの形で貢献したかに左右される。ただ漫然と読んでまとめる、聞いて理解するというだけではなく、疑問点を洗い出して調べる、議論の問題点を探る、など主体的に挑んでいくことが要求される。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学87

科目ナンバリング		G-LET27 67031 LJ38			
授業科目名 <英訳>	考古学(特殊講義) Archaeology (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 吉井 秀夫		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	金2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	百済の考古学				
[授業の概要・目的]					
<p>朝鮮三国の中でも、百済は日本と密接な関係にあったことが知られている。また、最近の百済に関係する遺跡の発掘調査では、古代東アジア世界の地域間関係を知る手がかりとなる、さまざまな新発見が続いている。本講義は、最近の百済考古学の研究状況を紹介し、その歴史的意義を検討する。</p>					
[到達目標]					
<p>百済の考古学に対する基本的な知識を得る。 東アジア的な広がりの中で日本考古学を研究する視角・方法を身につける。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 百済考古学を学ぶ意味 第2回 百済考古学の研究史(1) 第3回 百済考古学の研究史(2) 第4回 漢城百済の王都考 第5回 考古学からみた漢城時代の中央と地方 第6回 百済における横穴式石室の受容様相 第7回 熊津・泗比時代の百済王陵 第8回 熊津・泗比時代における横穴式石室の展開 第9回 熊津・泗比時代の王都と寺院(1) 第10回 熊津・泗比時代の王都と寺院(2) 第11回 土器の搬入・搬出からみた百済と倭 第12回 冠・飾履からみた百済と倭 第13回 百済からみた栄山江流域 第14回 百済の滅亡と亡命百済人の行方 第15回 フィードバック</p>					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
平常点評価(小レポートなど)約30%、学期末レポート 約70%					
[教科書]					
使用しない					
----- 考古学(特殊講義)(2)へ続く -----					

考古学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

各回の講義で紹介する論文を是非よんで欲しい。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学88

科目ナンバリング		G-LET27 67031 LJ38			
授業科目名 <英訳>	考古学(特殊講義) Archaeology (Special Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 吉井 秀夫	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	月2	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	高句麗の考古学				
[授業の概要・目的]					
<p>朝鮮三国の中でも、高句麗は日本とは離れた位置にある国であり、朝鮮民主主義人民共和国と中華人民共和国にわたって分布している。本講義では、今西龍コレクションの高句麗関係遺物の観察と検討をおこないながら、高句麗の考古学的研究の現状について学ぶ。</p>					
[到達目標]					
<p>高句麗の考古学に対する基本的な知識を得る。 東アジア的な広がりの中で日本考古学を研究する視角・方法を身につける。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 百済考古学を学ぶ意味 第2回 高句麗考古学の研究史(1) 第3回 高句麗考古学の研究史(2) 第4回 集安出土遺物を観察する(1) 第5回 集安出土遺物を観察する(1) 第6回 集安の高句麗積石塚の変遷 第7回 千秋塚出土有銘線の検討 第8回 集安積石塚出土瓦の生産と供給 第9回 平壤周辺出土遺物を観察する(1) 第10回 平壤周辺出土遺物を観察する(2) 第11回 平壤周辺における高句麗遺跡の調査と瓦に対する認識 第12回 平壤周辺出土高句麗瓦の製作技術(1) 第13回 平壤周辺出土高句麗瓦の製作技術(2) 第14回 平壤高句麗瓦の拡散 第15回 フィードバック</p>					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
<p>レポート試験70% 平常点評価30%(講義についての小レポートなど)</p>					
[教科書]					
使用しない					
----- 考古学(特殊講義)(2)へ続く -----					

考古学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

講義中、数回にわたって瓦の観察をおこない、その成果報告をもとに議論を進める。そのため、観察した瓦に関連する学習や、観察成果のレポート作成などを行う必要がある。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学89

科目ナンバリング		G-LET27 67031 LJ38			
授業科目名 <英訳>	考古学(特殊講義) Archaeology (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 下垣 仁志		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	金3	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	古墳時代像の再構築				
【授業の概要・目的】					
<p>近年、古墳がマスコミなどで人気を博している。古墳研究の裾野が広がるのは結構なことだが、研究の論理や歴史、肝腎のデータを省略して「楽しい古墳」像が広められているという問題点もある。本講義では、研究史的にも重要であり、かつ現在も議論が続いている論点を俎上に載せつつ、現在の考古学的資料状況に即して古墳時代像を再構築する。</p>					
【到達目標】					
<p>古墳という過去の物証から歴史を再構築する考古学の手法を学びとり、かつ関連諸分野とのつながりの重要性を認識できるようになる。</p>					
【授業計画と内容】					
<p>1. イントロダクション【1週】 2. 多様な古墳研究【2週】 3. 考古学から探る邪馬台国【2週】 4. 前方後円墳の誕生【2週】 5. 古墳時代と三角縁神獣鏡【2週】 6. 「畿内」の生成と古墳【2週】 7. 産業・開発と古墳【2週】 8. 考古学から探る国家形成【2週】 * 計15週実施する。</p>					
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
学期末のレポートにより成績を評価する。					
【教科書】					
使用しない					
----- 考古学(特殊講義)(2)へ続く -----					

考古学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

古墳に関する情報を、書籍や実地見学などをつうじて意欲的に吸収しておくこと。博物館や展覧会に積極的に足を運ぶことも推奨する。

(その他(オフィスアワー等))

事前に受講生に周知のうえ、講義の順番を一部変更することもありうる。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学90

科目ナンバリング	G-LET27 67031 LJ38				
授業科目名 <英訳>	考古学(特殊講義) Archaeology (Special Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 下垣 仁志		
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	金3	授業形態	特殊講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	古墳が築かれた時代				
[授業の概要・目的]					
古墳は日本列島に16万基もあり、国家形成期という重大な時代であるにもかかわらず文書史料が稀少な3～6世紀の社会状況に関する物証を現在に伝えてくれている。本講義では、古墳から当時の社会関係、とりわけ地位継承や被葬者像、ジェンダー関係などを検討し、古墳時代の社会・政治状況を豊かに復元することを目指す。					
[到達目標]					
考古資料の多角的な分析方法を学び、そうした方法から過去の社会像を復元するアプローチを学びとる。また他分野との連携の重要性を具体的に理解できるようになる。					
[授業計画と内容]					
1. イントロダクション【1週】 2. 古墳から探る女性の地位【1週】 3. 王宮と都市【1週】 4. 古墳時代に戦争はあったのか【2週】 5. 王朝交替論と古墳【2週】 6. 古墳と地位継承【2週】 7. 古墳と在地首長制論【2週】 8. 古墳の被葬者を探る【2週】 9. 古墳はなぜ築かれたのか【2週】 * 計15週実施する。					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
学期末のレポートにより成績を評価する。					
----- 考古学(特殊講義)(2)へ続く -----					

考古学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

古墳(時代)に関する情報を、書籍や実地見学などをつうじて意欲的に吸収しておくこと。博物館や展覧会に積極的に足を運ぶことも推奨する。

(その他(オフィスアワー等))

事前に受講生に周知のうえ、講義の順番を一部変更することもありうる。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学91

科目ナンバリング		U-LET23 26601 LJ36			
授業科目名 <英訳>	系共通科目(日本史学)(講義) Japanese History (Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 上島 享	
配当学年	2回生以上	単位数	4	開講年度・開講期	2024・通年
曜時限	火3	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	日本史学史・日本中世史概論				
[授業の概要・目的]					
<p>本授業では、日本史学史概論(主に前期)と日本中世史概論(主に後期)のふたつのテーマを扱う。日本史学史概論では、主に明治以降の近代史学のおゆみを振り返りながら、古代・中世・近世という時期区分論の形成や京都大学における日本史学の特色などについて論じたい。次に、日本中世史概論では、中世社会の形成から解体までの約600年間の歴史をテーマごとに通観する。特に、中世社会の形成と転換を政治・社会・経済・文化・宗教の側面から具体的に論じ、それらの歴史的意義を明確にしたい。随時、自身の最新の研究成果も盛り込む予定である。なお、本講義は、日本史全体の研究入門という役割ももっている。</p>					
[到達目標]					
日本史学および日本中世史に関する基本的な知識を身につけるとともに、新たな歴史認識を獲得するための方法を体得する。					
[授業計画と内容]					
<p>基本的に下記のように講義を進めていく予定である。ただし、自身の研究の進捗状況に応じて、新たなテーマも盛り込む予定である。そのため、各テーマの内容・回数・順序については柔軟に考えたい。</p> <p>第1回 本講義の視角と問題意識</p> <p>第2～9回目：日本史学史概論</p> <p>第2回 日本史における時期区分</p> <p>第3回 前近代・明治期における日本史研究</p> <p>第4回 草創期における京都大学の日本史研究</p> <p>第5回 大正・昭和期(戦前)における日本史研究</p> <p>第6回 戦後歴史学と日本史研究</p> <p>第7回 研究視角の転換と新たな潮流</p> <p>第8回 近年の日本史研究の動向と課題</p> <p>第9回 小括</p> <p>第10～30回：日本中世史概論</p> <p>第10回 中世 という時代をどう考えるのか</p> <p>第11回 アジア世界の変化と日本</p> <p>第12回 火災の発生と貴族生活の変化 『源氏物語』の時代</p> <p>第13回 大規模造営の時代</p> <p>第14回 新たな神祇秩序の形成</p> <p>第15回 藤原道長と院政</p> <p>第16回 中世仏教の成立 顕教と密教</p>					
系共通科目(日本史学)(講義)(2)へ続く					

系共通科目(日本史学)(講義)(2)

- 第17回 荘園制の形成と国家財政
第18回 都鄙間交流の展開
第19回 治承・寿永の内乱の歴史的意義 鎌倉幕府の成立
第20回 小括 古代社会から中世社会へ
- 第21回 鎌倉前期の社会と承久の乱
第22回 平安後期・鎌倉前期文化の特質
第23回 モンゴルインパクトと社会の変化
第24回 宋代禅と中世仏教の転換
第25回 南北朝動乱の歴史的意義
第26回 室町期の政治・社会経済・文化
第27回 応仁の乱の歴史的意義
第28回 戦国期社会へ
第29回 中世における神仏習合の展開
第30回 総括 世界史のなかの日本史

【履修要件】

高等学校等で「日本史B」を履修したこと、もしくはそれと同等の学力を有すること。

【成績評価の方法・観点】

毎回の小レポート(30点)、期末レポート(2回、70点)により評価する。
ともに到達目標の達成度に基づき評価する。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)
上島享 『日本中世社会の形成と王権』(名古屋大学出版会) ISBN:978-4-8158-0635-4
上島享ほか編 『論点・日本史学』(ミネルヴァ書房) ISBN:978-4623093496
その他は必要に応じて指示する。

【授業外学修(予習・復習)等】

講義で参考文献等を示すので、積極的に読んでおくこと。

(その他(オフィスアワー等))

特になし。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学92

科目ナンバリング		U-LET24 26701 LJ36			
授業科目名 <英訳>	系共通科目(東洋史学)(講義) Oriental History (Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 吉本 道雅	
配当学年	2回生以上	単位数	4	開講年度・開講期	2024・通年
曜時限	火2	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	中国専制国家の形成				
[授業の概要・目的]					
<p>秦始皇帝の天下統一(221BC)から清朝宣統帝の退位(1912)までの2000年あまり、中国では、皇帝が官僚を用いて集権的に人民を支配する専制国家が持続した。中国専制国家は自らを「中華」とし周辺諸民族を「四夷」とみなす「中華帝国」であった。「中華帝国」のもとで培われた政治文化は21世紀の現代に至るまでその痕跡をとどめている。本講義では秦の天下統一に至る歴史的推移を概観しつつ、中国専制国家の特質を考える。</p>					
[到達目標]					
中国史研究の最新の知見、および史料の批判的分析の方法論を習得する。					
[授業計画と内容]					
以下の項目を逐次論ずる。					
第1回 「中華帝国」の推移					
第2回 「中華帝国」起源論としての先秦史					
第3回 龍山期・二里头文化：国家の形成					
第4回 夏王朝					
第5回 殷前期・中期					
第6回 殷後期					
第7回 西周前期：周王朝の建国					
第8回 西周中期・後期：周王朝の変容					
第9回 『春秋』					
第10回 『左伝』					
第11回 『繫年』					
第12回 東遷期					
第13回 春秋前期前半：鄭莊公の小覇					
第14回 春秋前期後半：齊桓公の覇権					
第15回 春秋中期：晋文公の覇者體制					
第16回 秦					
第17回 楚					
第18回 吳					
第19回 春秋後期：晋覇の動揺					
第20回 『史記』					
第21回 孔子					
第22回 『竹書紀年』					
第23回 戦国前期：魏文侯・魏武侯					
第24回 戦国中期：魏恵王					
系共通科目(東洋史学)(講義)(2)へ続く					

系共通科目(東洋史学)(講義)(2)

- 第25回 孟子
第26回 戦国後期：秦の独走
第27回 華夷思想
第28回 秦始皇帝の天下統一
第29回 前漢前期の秦史認識
第30回 「封建」と「郡縣」：伝統中国における専制国家批判

*フィードバック方法は授業中に説明する。

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

講義の感想を中心とする毎回の小レポート（30点）と期末レポート（70点）に基づき総合的に評価する。

[教科書]

講義資料は担当者が準備する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

授業中に別途指示する。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学93

科目ナンバリング	U-LET24 26750 LJ36				
授業科目名 <英訳>	東洋史学(講読) Oriental History (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 中砂 明德		
配当学年	2回生以上	単位数	4	開講年度・開講期	2024・通年
曜時限	水4	授業形態	講読(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	『資治通鑑』を読む				
[授業の概要・目的]					
<p>長らく為政者の必読書とされてきた『資治通鑑』を読むことによって、漢文読解の力を養うだけでなく、中国の知識人が歴史から何を学び取ろうとしたかを考える機会を提供する。</p> <p>なお、本授業は東洋史学専修進学者の必修単位であるので、東洋史に進もうと考えている者は2回生のうちに履修しておくのが望ましい。</p> <p>他の専修に進む予定の人も歓迎する。「最後の漢文学習の機会」と考えて参加してほしい。</p>					
[到達目標]					
<p>1、漢文史書の読解力の基礎ができる。</p> <p>2、漢文史書の叙述のスタイルを体得できる。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>今年は北齊・北周の最終決戦、隋朝の中国統一を取り上げる。なお、南朝の動向については華北の情勢と関係しない限りは取り上げない。授業の進捗については受講生次第なので、明確に計画を示すことはできないが、次のように予定している。</p> <p>1回 『資治通鑑』がいかに読まれてきたかを紹介</p> <p>2～10回 北齊の滅亡(572～577)</p> <p>11～19回 隋朝の成立(578～581)</p> <p>20～29回 陳朝を併合(582～589)</p> <p>30回 フィードバック</p>					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
平常点で評価する。					
[教科書]					
プリントしたものを配布する。					
----- 東洋史学(講読)(2)へ続く -----					

東洋史学(講読)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

一回前の授業で次の授業分のテキストを配布する(A3用紙1枚分)ので、そのなかの担当分について予習し、あらかじめ訳稿を提出すること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学94

科目ナンバリング		U-LET24 26750 LJ36			
授業科目名 <英訳>	東洋史学(講読) Oriental History (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 中砂 明德	
配当学年	2回生以上	単位数	4	開講年度・開講期	2024・通年
曜時限	水2	授業形態	講読(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	英書講読				
[授業の概要・目的]					
<p>法輪功のルポルタージュにより、2001年にピューリッツァー賞を受賞したイアン・ジョンソンの最新作Sparks: China's Underground Historians and Their Battles for the Future, 2023を読む。習近平体制の「歴史独占」に抗してグラスルーツの歴史を紡ぎだす作家、映像制作者、芸術家たちの営為を描き出した作品である。著者は、体制による検閲の強化にもかかわらず、デジタル・テクノロジーの進化が彼ら「江湖」の作家たちの仕事の静かな広がりを可能にしていると主張する。本書を一年かけて読むことで、日本ではあまり知られていない中国の知的胎動に触れる。本書に関する英語の文章も選読する予定である。</p>					
[到達目標]					
<p>1, 正確な英文和訳の力を身に着けることができる。 2, 中国新世代の知的胎動に触れることができる。</p>					
[授業計画と内容]					
1回	著者の紹介				
2回	1 Introduction				
3~4回	2 The Ditch				
5~6回	3 The Sacrifice				
7~9回	4 Spark				
10~11回	5 History as Weapon				
12回	6 History as Myth				
13回	7 The Limits of Amnesia				
14回	8 The Lost City				
15~16回	9 The Gateway				
17~18回	10 Remembrance				
19~20回	11 Lay Down the Butcher's Knife				
21~22回	12 Virus				
23~24回	13 Empire				
25回	14 The Land of Hermits				
26回	15 Conclusion				
27~29回	ジョンソン氏が取り上げた文章				
30回	フィードバック				
----- 東洋史学(講読)(2)へ続く -----					

東洋史学(講読)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点。

[教科書]

授業で配布する

[参考書等]

(参考書)

特になし

[授業外学修(予習・復習)等]

担当範囲の英文を日本語訳して提出する。

(その他(オフィスアワー等))

特になし

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学95

科目ナンバリング		U-LET24 36761 PJ36					
授業科目名 <英訳>	東洋史学(実習) Oriental History (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 文学研究科 文学研究科	教授 教授 教授	吉本 中砂 箱田	道雅 明德 恵子
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期		2024・通年	
曜時限	水5	授業形態	実習(対面授業科目)		使用言語	日本語	
題目	東洋史学(実習)						
【授業の概要・目的】							
<p>全教員3人によるリレー担当。東洋史学研究のうち、特に中国史の全時代にわたって、先行研究をどのようにして探るか、古文書をどのようにあつかうか、コンピューターを研究にどのように用いるかなど実習させるとともに、自らテーマを選んで「小論文」を発表させる。</p>							
【到達目標】							
<p>東洋史の卒論を書くにあたって基本的なスキルを習得できるようにする。</p>							
【授業計画と内容】							
<p>第1回～第30回： 主に3回生を対象とする。東洋史学専修の全教員が1年間にわたり、東洋史学を研究するにあたってのツール(工具)を教え、学生に実際に使わせる。先行研究の探し方を教えるとともに、優れた先行研究を選んで学生に読ませ、先人の達成したものを学びつつ、自らがおかれた研究状況を考えさせる。 11月頃までにツールの修得や先行研究の選読を終え、自らの問題関心に即した研究テーマを選ばせる。それまでに修得した知識と方法をもとにして、自ら先行研究を探し、あるいは原典の一部を読むことによって、自らの問題に解答を与えさせる。1月中頃にこれを「小論文」として授業で発表させる。 *フィードバック方法は授業中に説明する。</p>							
【履修要件】							
特になし							
【成績評価の方法・観点】							
平常点と「小論文」の発表を評価する。							
【教科書】							
授業中に指示する							
----- 東洋史学(実習)(2)へ続く -----							

東洋史学(実習)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

毎回提出される課題を準備しておくこと。一年間を通して卒論のテーマを絞り込めるようにつねひ
ごろから関心を持っておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

授業は各教員の研究室で行う

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学96

科目ナンバリング		U-LET25 26801 LJ36			
授業科目名 <英訳>	系共通科目(西南アジア史学)(講義) West Asian History (Lectures)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 磯貝 健一		
配当学年	2回生以上	単位数	4	開講年度・開講期	2024・通年
曜時限	水2	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	イスラーム世界史研究入門 An Introduction to the Study of History of the Islamicate World				
[授業の概要・目的]					
<p>この授業では、初学者向けにイスラーム世界史の研究に必要な基礎的な知識を説明する。勿論、アフリカ大陸から東南アジアに及ぶ広大なイスラーム世界の歴史すべてを、一人の教員でカバーすることなど出来ない。従って、授業の内容は、イスラーム世界史の理解、研究に最低限必要な事項(たとえばイスラーム教の基本的な教義など)の説明に重点が置かれる。</p> <p>This course aims to explain students of such basic knowledge and skills required to engage in the research activity into history of the Islamicate world as essential teachings of Muslim religion, crucial events in its history, and so on.</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・イスラーム世界を理解するために最低限必要な専門的知識を獲得し、これにもとづきイスラーム世界の現状について自分自身の見解を持つことが出来る。 ・イスラーム世界史の研究に必要な基礎的知識を獲得し、自ら研究を開始することが出来る。 <p>Upon the successful completion of this course, students will:</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) acquire necessary knowledge for understanding current picture of the contemporary Muslim world. (2) obtain essential knowledge required for the research activity into history of the Muslim world. 					
[授業計画と内容]					
<p>授業で扱うトピック、および、各トピックに配当される目安となる授業時間は下記の通り：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・導入：現代イスラーム世界の概観(2回) イスラーム世界の範囲、人口、ヨーロッパのムスリムなど ・イスラーム教の基礎知識(2回) コーランとハディース、および、その日本語訳書の紹介など ・イスラーム世界史の概観(12回) イスラーム教の成立、イスラーム世界の拡大過程、シーア派とスンナ派の形成、19世紀までのイスラーム世界など ・イスラーム法(3回) イスラーム法と法学派の形成、近代におけるイスラーム法の法典化など ・イスラーム世界史研究入門(3回) 各種工具書の紹介、研究対象となる時代・地域別に必要な言語、辞書、歴史資料の種類など ・ワクフ(2回) ワクフ制度の説明、ワクフ文書の実例紹介など ・知識の伝達(2回) 口承の重要性、マドラサとそのカリキュラムなど ・スーフイズム(2回) 「スーフイズム(イスラーム神秘主義)」の概要、歴史研究におけるスーフイズムなど 					
系共通科目(西南アジア史学)(講義)(2)へ続く					

系共通科目(西南アジア史学)(講義)(2)

・イスラーム法廷（2回）

「法廷文書」とその類型、法廷の役割、裁判のながれ、「法廷文書」の歴史資料としての可能性など

・ Contour of the contemporary Islamic world (2 weeks)

・ Basic teachings of the Muslim religion (2 weeks): al-Quran and Hadith (the traditions about the words and deeds of Prophet Muhammad)

・ Brief explanation of history of the Muslim world (12 weeks)

・ Islamic law (3 weeks)

・ How to embark on the research into history of the Islamicate world? - dictionaries, tools, and typology of historical sources (3 weeks)

・ Waqf (pious donation) (2 weeks)

・ The way of transmitting knowledge in the pre-modern Islamicate world - the curriculum of madrasa (2 weeks)

・ Sufism in history (2 weeks)

・ Sharia court documents (2 weeks)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

定期試験（筆記）により評価する。

Final exam

【教科書】

使用しない

担当教員が作成するレジюмеを教科書とする。尚、レジюмеは紙媒体では配布せず、PDFファイルを配布する。ファイルの受信方法については、初回授業時に説明する。

Handouts will be shared through Google Drive.

【参考書等】

（参考書）

授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

初回授業を除き、必ず前回の授業内容を復習したうえで授業に臨むこと。また、前回の授業で参考書、関連URL等が提示された場合は、予めこれに目を通したうえで次回の授業に臨むこと。

Students should review class notes before attending each lesson.

系共通科目(西南アジア史学)(講義)(3)

(その他(オフィスアワー等))

特になし。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学97

科目ナンバリング		U-LET25 36840 SJ36			
授業科目名 <英訳>	西南アジア史学(演習 I) West Asian History (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 岩本 佳子	
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講年度・開講期	2024・通年
曜時限	水4	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	西南アジア史に関する英文文献講読 Reading English text about Western and Southern Asian history				
[授業の概要・目的]					
<p>西南アジア史、イスラーム史の初学者である学部生を対象として、比較的近年に刊行された英語のイスラーム史概説(詳細は「授業計画と内容」を参照)を講読する。イスラーム史に関する基礎的知識を獲得するだけでなく、英語の研究文献においてアラビア語・ペルシア語・トルコ語の歴史用語がどのような語に置き換えられているのかを知ること、本授業の大きな目的の一つである。</p> <p>In this course students read English text on Islamic world history. Through reading the text students will gain an adequate knowledge not only about early stages of the development of Muslim history, but also the rules for translating Arabic, Persian and Turkish technical terms into English.</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・イスラーム史に関する海外の研究動向について知り、これを他者に対して説明することができる。 ・イスラーム史に関する英語の研究文献に頻出する専門用語の意味を知り、これに対応するアラビア語その他の現地語における原語を指摘することができる。 <p>Upon the successful completion of this course, students will:</p> <p>(1) be informed of contemporary research trend in the field of history of the Islamic world.</p> <p>(2) understand the meaning of technical terms which frequently appear in research literature on the field.</p>					
[授業計画と内容]					
<ul style="list-style-type: none"> ・講読対象とする文献は、講義の際に事前に適宜指定する。 ・各回の授業では、受講者全員がテキストの翻訳を実施する。 <p>Each student will be required to translate the English text into Japanese.</p> <p>Week 1: (講読文献、および、講読箇所の説明と各回の担当者決定) 受講生と相談のうえ講読テキストを決定する Deciding the text we will read in this course by consulting with students.</p> <p>Weeks 2-29: 講読 Reading of the assigned text</p> <p>Week 30: (これまで講読した内容についての議論) Having discussion on the key issues presented by the authors.</p>					
----- 西南アジア史学(演習 I)(2)へ続く -----					

西南アジア史学(演習Ⅰ)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

参加者の受講姿勢と講読担当の内容によって評価する。

Participation in class and preparation for reading

【教科書】

Edited by Hamit Bozarslan, Cengiz Gunes, Veli Yadirgi 『The Cambridge History of the Kurds』 (Cambridge University Press, 2021) ISBN:9781108623711

講読史料やその他必要な資料は適宜PDF化したうえで、Web上で共有する。

講師が受講生全員分の講読史料を用意するので、教科書を事前に受講生が用意する必要はない。

Reading Texts and Handouts will be shared through the Internet Cloud System. Course instructor prepares the reading materials or textbook in the first week; thus, students do not need to prepare the textbook in advance.

【参考書等】

(参考書)

必要な資料は適宜PDF化したうえで、Web上で共有する。

Handouts will be shared through Google Drive

【授業外学修(予習・復習)等】

授業では受講生全員が翻訳に参加する。必ず予習をしておくこと。

All Students are required to make an adequate preparation for reading the text so that they can participate in translation work.

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学98

科目ナンバリング		U-LET25 36861 PJ36			
授業科目名 <英訳>	西南アジア史学(実習) West Asian History (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 岩本 佳子	
配当学年	3回生以上	単位数	1	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	月4	授業形態	実習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	西南アジア史学実習 Practice education for Western and Southern Asian history				
[授業の概要・目的]					
<p>学部学生を対象に、イスラーム圏の歴史研究に着手するにあたり、差し当たって必要な基本的知識を説明することを目的とする。また、本授業で得た知識をもとに、受講生が自身の卒業論文の対象となるおおよその時代、地域を決定することも、本授業の目的の一つである。</p> <p>The main purpose of this course is to explain students the essential skills necessary to undertake research activity into history of the Islamicate world.</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・イスラーム圏諸地域の歴史研究に必要な、言語、辞書、事典、工具書、および、主にインターネットを利用した各種文献の検索方法を知り、卒業論文完成に向け、自身の研究に着手することができる。 ・自身の研究テーマの大枠を決定することができる。 ・実際に、自身の研究テーマに関連した専門論文を検索し、その内容についてレジュメ付きで発表することができる。 <p>Upon the successful completion of this course, students will:</p> <p>(1) acquire knowledge about the basic tools required to undertake research activity as dictionaries, encyclopedias, websites, and so on.</p> <p>(2) be able to decide their own topics of research.</p> <p>(3) be able to make a presentation about the contents of a professional paper relating to his/her topic of research.</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 後期授業の進め方について 第2回 期末の研究発表に向けての個人指導 第3-5回 日本語論文の内容紹介発表 第6回 期末の研究発表に向けての個人指導 第7-9回 英語論文の内容紹介発表 第10回 期末の研究発表に向けての個人指導 第11-13回 英語論文の内容紹介発表 第14-15回 研究発表</p> <p>Week 1: Explaining the tasks which will be assigned to students in the 2nd semester Week 2: Individual tutoring for a research talk which is scheduled to be carried out at the end of the semester Weeks 3-5: Making a presentation about a research essay written in Japanese Weeks 6: Individual tutoring for a research talk which is scheduled to be carried out at the end of the semester Weeks 7-9: Making a presentation about a research essay written in English</p>					
西南アジア史学(実習)(2)へ続く					

西南アジア史学(実習)(2)

Weeks 10: Individual tutoring for a research talk which is scheduled to be carried out at the end of the semester

Weeks 11-13: Making a presentation about a research essay written in English

Weeks 14-15: Making a research talk

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点（50点）と各人が担当する一人あたり3回の発表の内容（50点）による。平常点は取り組む姿勢（授業時の質疑応答への積極的な参加等）による。

Participation (50%)

Presentations (50%)

【教科書】

使用しない

必要資料を電子ファイル化し、Web上で共有する。

Handouts will be shared through Google Drive.

【参考書等】

（参考書）

授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

必ず前回の復習を行った上で授業に臨むこと。また、各回の発表を行うにあたっては、準備のために十分な時間をとること。

Students are required to make adequate preparations for each presentation.

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学99

科目ナンバリング	U-LET25 36861 PJ36				
授業科目名 <英訳>	西南アジア史学(実習) West Asian History (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 磯貝 健一		
配当学年	3回生以上	単位数	1	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	月4	授業形態	実習(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	西南アジア史学実習				
[授業の概要・目的]					
学部学生を対象に、イスラーム圏の歴史研究に着手するにあたり、差し当たって必要な基本的知識を説明することを目的とする。また、本授業で得た知識をもとに、受講生が自身の卒業論文の対象となるおおよその時代、地域を決定することも、本授業の目的の一つである。					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・イスラーム圏諸地域の歴史研究に必要な、言語、辞書、事典、工具書、および、主にインターネットを利用した各種文献の検索方法を知り、卒業論文完成に向け、自身の研究に着手することができる。 ・自身の研究テーマの大枠を決定することができる。 ・実際に、自身の研究テーマに関連した専門論文を検索し、その内容についてレジュメ付きで発表することができる。 					
[授業計画と内容]					
第1回 各時代、地域を研究するにあたり習得が必要な言語、および、辞書についての説明 第2回 日本語および英語による事典、工具書類の説明 第3回 インターネットを利用した各種文献の検索方法とその実践 第4回～第6回 専門論文の読み方、自身の研究への利用方法、レジュメ化の方法について 第7回～第9回 受講生各人が選択した時代、地域について、主に概説書等に基づきレジュメ付きの発表を実施 第10回～第12回 受講生各人が選択した時代、地域について、各々が日本語の専門論文を一つ選択し、その内容につきレジュメ付きの発表を実施 第13回～第15回 受講生各人が選択した時代、地域について、各々が英語(または、それ以外の外国語)の専門論文を一つ選択し、その内容につきレジュメ付きの発表を実施					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
平常点(50点)と各人が担当する一人あたり3回の発表の内容(50点)による。平常点は取り組む姿勢(授業時の質疑応答への積極的な参加等)による。					
----- 西南アジア史学(実習)(2)へ続く -----					

西南アジア史学(実習)(2)

[教科書]

授業の際に必要な資料を配布する。

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

必ず前回の復習を行った上で授業に臨むこと。また、各回の発表を行うにあたっては、準備のために十分な時間をとること。

(その他(オフィスアワー等))

授業中に指示する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学100

科目ナンバリング		U-LET26 26901 LJ36			
授業科目名 <英訳>	系共通科目(西洋史学)(講義) European History (Lectures)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 金澤 周作	
配当学年	2回生以上	単位数	4	開講年度・開講期	2024・通年
曜時限	火5	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	西洋史学序説				
[授業の概要・目的]					
授業全体のテーマ：ヨーロッパ史学史から学ぶ歴史への複眼的接近法					
<p>過去は変えられない。しかし、歴史は変わる。歴史とは、過去の見方である。すなわち、歴史を学ぶとは、単に重要な過去の事実を幅広く記憶するというだけではなく、多分に、過去の見方の多様性や変遷を知ることにはかならない。そして、さまざまな見方に触れるほどに、過去や未来の諸課題にも、柔軟性をもって取り組むことができるであろう。そこで本講義では、近代歴史学の基礎をなし、現在もなお世界の歴史研究にとって重要なインスピレーションの源となっているヨーロッパの歴史叙述の歴史を概観する。それによって、決して時代遅れでも有効期限切れでもない、しかも、互いに相いれないがいずれも説得的であるような、多彩な過去の見方を紹介し、歴史学的思考を深める素材を提供することを目的とする。そして、「西洋史学」の由来や現状や意義を解説する。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・古代から現代にいたるヨーロッパ史の展開を把握し、各時代の全般的な状況について理解する。 ・ヨーロッパにおける歴史認識や歴史叙述の歴史についての基本的な知識を習得し、それぞれの時代の特徴について理解する。 ・ヨーロッパにおける歴史認識の特徴について理解を深め、「西洋史学」という学問分野の歴史的特質と今日的課題について各自の関心に即して考察する。 					
[授業計画と内容]					
(授業計画と内容)					
以下のようなテーマをとりあげる予定である。					
<p>第1回 過去とは何か / 歴史叙述とは何か / 「西洋史学」とは何か 第2回 古代ギリシアと歴史の誕生 第3回～第4回 古代ローマの歴史叙述 第5回～第6回 中世ヨーロッパにおける歴史叙述 附：ビザンツ帝国の歴史叙述 第7回 ルネサンスと歴史叙述 第8回 宗教改革の時代における歴史叙述 第9回～第10回 啓蒙の時代の歴史叙述 第11回～第12回 近代歴史学の誕生 ランケとブルクハルト 第13回～第14回 ヘーゲル、マルクス、ヴェーバー 第15回 歴史主義への反発 (以上、前期) 第16回 論争する現代歴史学 第17回～第18回 アナール学派(第一世代) 第19回～第20回 アナール学派(第二世代)</p>					
系共通科目(西洋史学)(講義)(2)へ続く					

系共通科目(西洋史学)(講義)(2)

第21回～第22回 アナール学派（第三世代）
第23回～第24回 アナール学派（第四世代）
第25回 17世紀危機論争
第26回 「西洋の勃興」をめぐる論争
第27回 ジェンダーをめぐる論争
第28回 ナショナリズムをめぐる論争
第29回 感情・感覚をめぐる論争
第30回 授業の内容をふまえた総論

フィードバックについては、授業中に指示する。

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

前期末に、レポートの提出を求める。また、後期末に定期試験を行う。成績の評価は提出されたレポート40%、後期末定期試験60%とする。

【教科書】

授業中に資料を配布する。

【参考書等】

（参考書）

服部良久・南川高志・小山哲・金澤周作編 『人文学への接近法 西洋史を学ぶ』（京都大学学術出版会、2010年）ISBN:978-4-87698-948-5（京都大学における西洋史学研究・教育への導入解説をおこなっており、本講義全体を通じて参考となるであろう。）

金澤周作監修 『論点・西洋史学』（ミネルヴァ書房、2020年）ISBN:978-4-62308-779-2

上記の本以外の参考文献については、テーマに応じて、授業中に紹介する。

【授業外学修（予習・復習）等】

授業のなかで、関連する文献のリストを提示する予定である。受講者には、各自の関心にしたがってリストから文献を選び、読み進めていくことを期待する。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学101

科目ナンバリング	U-LET26 26956 LJ36				
授業科目名 <英訳>	西洋史学(講読) European History (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	白眉センター 特定准教授 小俣ラポー 日登美		
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	月2	授業形態	講読(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	デジタル・ヒューマニティーズ入門書購読				
[授業の概要・目的]					
<p>ドイツはデジタル・ヒューマニティーズ先進国である。各地の様々な大学にこの方法論に特化した研究所が設立され、新たな分析ツールが開発され、それを用いた研究が推進されている。統計学的な分析は、もともと歴史学ではアナル学派によって積極的に活用されていたが、現在はさまざまなツールの開発により、経済史や人口学以外の分野(例えば文学/史・宗教史など)でもこの分析方法の目覚ましい活用が見られる。</p> <p>本講義では、ドイツで2017年に初版が発行された以下の基本的なテキストを輪読することで、この新しい学問手法に触れる機会とする。本テキストは、2024年9月に新版の公刊が予定されているが、適宜関連する情報や論文を紹介することで古い情報を補う予定である。</p> <p>Fotis Jannidis et al. (hrsg.), "Digital Humanities: Eine Einfuehrung", J.B. Metzler, 2017.</p>					
[到達目標]					
<p>本授業を通じて、受講生は学術的なドイツ語に親しみ、必要とされる文法と語彙の基礎知識を獲得することができる。また、ドイツ語圏で実施されているデジタル・ヒューマニティーズの研究の状況に触れることができる。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 イントロダクション</p> <p>第2回-第14回 テキスト講読</p> <p>第15回 内容確認のテスト</p>					
[履修要件]					
ドイツ語の基礎文法を既習していること。					
----- 西洋史学(講読)(2)へ続く -----					

西洋史学(講読)(2)

[成績評価の方法・観点]

授業への積極的参加および学習態度（70パーセント）、最後の内容確認のテスト（30パーセント）。平常点の比率が高いため、毎回出席できる方が望ましいが、やむを得ない事情により欠席した場合は、診断書を見せるなど教師に納得のいく説明を行い、休んだ回に読み進められたテキストの翻訳を提出することで補うことができる。最終テストは、内容が理解できたかどうかを確認するためのテストで、学期中に読み進めたテキスト内容を理解している必要がある。

[教科書]

授業中に指示する

授業のテキストは、第一回に配布するため、出席希望者は第一回に参加する方が良い。

[参考書等]

（参考書）

授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

出席者は日本語翻訳をあらかじめ全員が予習して用意してくるのが望ましい。輪読であるため、授業中に出席者全員をあてて、一文ずつ翻訳していく。講義参加者人数が多く、授業内で翻訳があたりなかった場合には、授業中に読み進んだ部分の翻訳を授業後に提出することで、評価の代わりとする。

（その他（オフィスアワー等））

メールにて連絡。オフィスアワーに常に在室しているとは限らないため、必ずメールでアポをとること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学102

科目ナンバリング	U-LET26 26956 LJ36				
授業科目名 <英訳>	西洋史学(講読) European History (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	白眉センター 特定准教授 小俣ラポー 日登美		
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	月2	授業形態	講読(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	デジタル・ヒューマニティーズ入門書購読				
[授業の概要・目的]					
<p>ドイツはデジタル・ヒューマニティーズ先進国である。各地の様々な大学にこの方法論に特化した研究所が設立され、新たな分析ツールが開発され、それを用いた研究が推進されている。統計学的な分析は、もともと歴史学ではアナル学派によって積極的に活用されていたが、現在はさまざまなツールの開発により、経済史や人口学以外の分野(例えば文学/史・宗教史など)でもこの分析方法の目覚ましい活用が見られる。</p> <p>本講義では、ドイツで2017年に初版が発行された以下の基本的なテキストを輪読することで、この新しい学問手法に触れる機会とする。本テキストは、2024年9月に新版の公刊が予定されているが、適宜関連する情報や論文を紹介することで古い情報を補う予定である。</p> <p>Fotis Jannidis et al. (hrsg.), "Digital Humanities: Eine Einfuehrung", J.B. Metzler, 2017.</p>					
[到達目標]					
<p>本授業を通じて、受講生は学術的なドイツ語に親しみ、必要とされる文法と語彙の基礎知識を獲得することができる。また、ドイツ語圏で実施されているデジタル・ヒューマニティーズの研究の状況に触れることができる。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 イントロダクション</p> <p>第2回-第14回 テキスト講読</p> <p>第15回 内容確認のテスト</p>					
[履修要件]					
ドイツ語の基礎文法を既習していること。					
----- 西洋史学(講読)(2)へ続く -----					

西洋史学(講読)(2)

[成績評価の方法・観点]

授業への積極的参加および学習態度（70パーセント）、最後の内容確認のテスト（30パーセント）。平常点の比率が高いため、毎回出席できる方が望ましいが、やむを得ない事情により欠席した場合は、診断書を見せるなど教師に納得のいく説明を行い、休んだ回に読み進められたテキストの翻訳を提出することで補うことができる。最終テストは、内容が理解できたかどうかを確認するためのテストで、学期中に読み進めたテキスト内容を理解している必要がある。

[教科書]

授業中に指示する

授業のテキストは、第一回に配布するため、出席希望者は第一回に参加する方が良い。

[参考書等]

（参考書）

授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

出席者は日本語翻訳をあらかじめ全員が予習して用意してくるのが望ましい。輪読であるため、授業中に出席者全員をあてて、一文ずつ翻訳していく。講義参加者人数が多く、授業内で翻訳があたりなかった場合には、授業中に読み進んだ部分の翻訳を授業後に提出することで、評価の代わりとする。

（その他（オフィスアワー等））

メールにて連絡。オフィスアワーに常に在室しているとは限らないため、必ずメールでアポをとること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学103

科目ナンバリング		U-LET26 26957 LJ36			
授業科目名 <英訳>	西洋史学(講読) European History (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 准教授 菅原 百合絵	
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	水4	授業形態	講読(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	仏書講読				
[授業の概要・目的]					
<p>本講義では、モンテスキュー(1689-1755)の『ローマ人盛衰原因論(Considerations sur les causes de la grandeur des Romains et de leur decadence)』を講読する。名高い名著『法の精神』によって政治思想家として言及されることの多いモンテスキューだが、その『法の精神』を含め、彼の作品はいずれもきわめて該博な歴史の知識に裏打ちされている。当時のフランスに山積していた課題を考えるにあたって、彼はつねに縦(時間)と横(地域)の広がりを目を向けていた。『ローマ人盛衰原因論』における考察も、そうした彼の問題意識と切り離すことができない。ランケにより実証主義的な「歴史(学)」が確立される19世紀以降とは異なる18世紀フランスの特異な「歴史」のありように目を向けつつ、歴史家としてのモンテスキューの姿をテキストを通じて追うことを目指す。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・フランス語でテキストを読む力を身につける ・とくに18世紀のフランス語に馴染む ・モンテスキューおよび当時の歴史家たちの歴史的アプローチについての理解を深める 					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 イントロダクション(1) : 授業の概要、『ローマ人盛衰原因論』の説明、今後の進め方 第2回 イントロダクション(2) : モンテスキューおよび当時の歴史(学)についてのレクチャー 第3回-第15回 『ローマ人盛衰原因論』の精読</p> <p>* 第3回以降の精読パートからは、事前に訳読担当者を決めておき、講義の前にテキスト約1頁分ほどの訳稿を提出してもらうという方式になります。講義では受講者の皆さんと全員でその訳稿を検討しながら、随時解説などを加えていきます。</p>					
[履修要件]					
フランス語文法をひと通り習得していること。中級程度のフランス語読解力があることが望ましい。					
[成績評価の方法・観点]					
講義での発表(40%)および期末レポート(60%)によって評価する					
[教科書]					
<p>授業中に指示する なお、本講義では Montesquieu, Considerations sur les causes de la grandeur des Romains et de leur decadence suivi de Reflexions sur la monarchie universelle en Europe (edition de Catherine Volpilhac-Augier avec la</p> <p style="text-align: right;">西洋史学(講読)(2)へ続く</p>					

西洋史学(講読)(2)

collaboration de Catherine Larrere), Gallimard, coll. "folio classique", 2008
を底本とする。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

「授業計画と内容」で記したように、第3回以降の精読パートからは、事前に訳読担当者を決めておき、担当者に講義の前に訳稿を提出してもらいます。単位が必要な方は、最低1回はこの訳読にあたってもらうことが必要です。
提出の仕方等については、初回講義にて説明します。

(その他(オフィスアワー等))

不明な点や要望などがあれば、メール等でご連絡ください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学104

科目ナンバリング	U-LET26 26957 LJ36				
授業科目名 <英訳>	西洋史学(講読) European History (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 准教授 菅原 百合絵		
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	水4	授業形態	講読(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	仏書講読				
[授業の概要・目的]					
<p>本講義では、ルネ・ポモー著『彼自身によるヴォルテール』(スイユ社、1955)を講読する。現在では『カンディード』などの哲学的コントや『寛容論』によって名高いヴォルテールだが、彼は18世紀フランス随一の悲劇作者であり、さらに王室史料編纂官として『ルイ14世の世紀』を執筆するなど、歴史家としても活躍した。歴史はいかに書かれるべきかを考究した歴史哲学者としての側面も無視することができない。そのような人物の足跡を体系的にたどり、コンパクトにまとめた文献としてテキストを読んでいきたい。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・フランス語でテキストを読む力を身につける ・ヴォルテールおよび当時の歴史家たちの歴史的アプローチについての理解を深める 					
[授業計画と内容]					
<p>第1回 イン트로ダクション：授業の概要、ヴォルテールや本講義で扱う文献、今後の進め方についての説明 第2回 当時の歴史(学)についてのミニレクチャーおよび『彼自身によるヴォルテール』の精読 第3回-第14回 『彼自身によるヴォルテール』の精読(つづき) 第15回 フィードバック</p>					
[履修要件]					
フランス語文法をひと通り習得していること。中級程度のフランス語読解力があることが望ましい。					
[成績評価の方法・観点]					
講義での発表(訳読の提出)によって評価する					
[教科書]					
<p>授業でテキストを配布する。 なお、本講義では Rene Pomeau, Voltaire par lui-meme, Paris, Edition du Seuil, "Ecrivains de toujours" 1955 を底本とする。</p>					
[参考書等]					
<p>(参考書) 授業中に紹介する</p>					
----- 西洋史学(講読)(2)へ続く -----					

西洋史学(講読)(2)

[授業外学修(予習・復習)等]

「授業計画と内容」で記したように、第2回以降の精読パートからは、事前に訳読担当者を決めておき、担当者に講義の前に訳稿を提出してもらいます。単位取得には、最低1回はこの訳読にあたってもらうことが必須要件です。
提出の仕方等については、初回講義にて説明します。

(その他(オフィスアワー等))

不明な点や要望などがあれば、メール等でご連絡ください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学105

科目ナンバリング	U-LET26 26958 LJ36				
授業科目名 <英訳>	西洋史学(講読) European History (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 准教授 伊藤 順二		
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	火3	授業形態	講読(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	露書講読 1				
【授業の概要・目的】					
19世紀の思想家の文章の読解を通じて、ロシア語の一般的能力、および歴史的・批評的文書に対する読解力を向上させる。					
【到達目標】					
ロシア語で書かれた現代の研究論文、および19世紀の一般的な文章を、辞書等を参照しつつ自力で読解できる。					
【授業計画と内容】					
以下の文書をテキストとする。					
(1857)					
[ゲルツェン「エカチェリーナ・ロマーノヴナ・ダーシコワ公爵夫人」]					
ただし、受講者の希望によってテキストを変更する可能性もある。					
第1回：イントロダクション 第2回～第15回：講読(日本語訳、文法的説明、背景説明)					
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
期末テストはおこなわない。 毎回の講読における平常点(予習の精度)によって評価する。					
【教科書】					
使用しない プリントを配布する。					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介する					
【授業外学修(予習・復習)等】					
予習として自分でテキストを訳しておくことが必須となる。					
(その他(オフィスアワー等))					
オフィスアワーは、火曜4限とする。					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

歴史文化学106

科目ナンバリング	U-LET26 26958 LJ36				
授業科目名 <英訳>	西洋史学(講読) European History (Seminars)	担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 准教授 伊藤 順二		
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	火3	授業形態	講読(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	露書講読 1				
[授業の概要・目的]					
19世紀の思想家の文章の読解を通じて、ロシア語の一般的能力、および歴史的・批評的文書に対する読解力を向上させる。					
[到達目標]					
ロシア語で書かれた現代の研究論文、および19世紀の一般的な文章を、辞書等を参照しつつ自力で読解できる。					
[授業計画と内容]					
前期に引き続き、以下の文書をテキストとする。					
(1857)					
[ゲルツェン「エカチェリーナ・ロマーノヴナ・ダーシコワ公爵夫人」]					
初回授業で前期の要約を配布し、後期のみ受講者にも不便のないよう配慮する。 また、受講者の希望によってテキストを変更する可能性もある。					
第1回：イントロダクション 第2回～第15回：講読(日本語訳、文法的説明、背景説明)					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
期末テストはおこなわない。 毎回の講読における平常点(予習の精度)によって評価する。					
[教科書]					
使用しない プリントを配布する。					
----- 西洋史学(講読)(2)へ続く -----					

西洋史学(講読)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

予習として自分でテキストを訳しておくことが必須となる。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーは、火曜4限とする。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET49 28007 LJ36			
授業科目名 <英訳>	博物館学III(講義) Museum Science III		担当者所属・ 職名・氏名	京都国立博物館 学芸課 特任研究員 宮川 禎一	
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	水2	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	博物館学 (博物館資料論)				
[授業の概要・目的]					
<p>博物館・美術館の学芸員の仕事を博物館業務の実態をもとに具体的に講義する。特に作品・資料の収集・搬入の方法、また作品の取り扱い方法や収蔵庫や展示場での保存方法を中心に講義を進める。すなわち資料作品の収集・管理・研究・展示・運搬など資料にまつわる具体的作業について述べる。また京都国立博物館で実際に企画運営されている展覧会の実情を述べて博物館・美術館学芸員の役割への理解を深める。さらには実際の展覧会・展示場の見学もあわせて博物館美術館業務への認識を向上させることを目的とする。</p>					
[到達目標]					
<ol style="list-style-type: none"> 1 博物館・美術館の成り立ちと意義 - 博物館とはなにかを理解する 2 作品の種類と性質 - 資料の性質と収蔵の問題を考えて理解する 3 博物館における作品の収集とは - 寄託・寄贈・購入の実態を理解する 4 作品の保存処理 - 作品を科学的に守る方法を理解する 5 収蔵庫の要件 - 保存環境の問題を理解する 6 作品の貸借と作品保護 - 保存と公開のあいだにある問題を理解する 7 展覧会の作り方1 - 展示を構想し出品をめざすことの意味を理解する 8 展覧会の作り方2 - 展示に際しての諸問題があることを理解する 9 展覧会図録の作り方 - 鑑賞を助け、未来に記録する意義を理解する 10 良い展覧会とは何か? - 人と作品の関係と展覧会の意義を考える 11 実際に展示を見学しよう - 実際の展示からわかる保存と公開の問題を考える 12 博物館美術館の未来 - デジタル化の行方と未来の展示を考える 13 世界の博物館・美術館 - 世界にある様々な博物館美術館のありかたを考える 14 学芸員になるには - 求められる学芸員の資質に関して考える 15 博物館をめぐるディスカッション - これまでの講義を受けて学生と討論する 					
[授業計画と内容]					
<ol style="list-style-type: none"> 1 博物館美術館の成り立ちと意義 2 作品の種類と性質 3 博物館における作品の収集 4 作品の保存処理 5 収蔵庫の要件 6 作品の貸借と作品保護 7 展覧会の作り方(1) 8 展覧会の作り方(2) 9 展覧会図録の作り方 10 良い展覧会とは何か? 11 実際に展示を見学しよう(京都大学総合博物館の展示見学) 12 博物館美術館の未来 					
----- 博物館学III(講義)(2)へ続く -----					

博物館学III(講義)(2)

- 13 世界の博物館・美術館
- 14 学芸員になるには
- 15 博物館をめぐるディスカッション

【履修要件】

学芸員資格を得ようとするのであるから、日頃から博物館美術館を積極的に訪れて興味を高め、疑問をもつようにして欲しい。そこから自己の学問研究にも刺激があるはずである。

【成績評価の方法・観点】

受講態度およびレポートの成績で評価する。
受講態度30%、レポート内容70%の割合で評価する。

【教科書】

講義中に適宜資料等を配布する。

【参考書等】

(参考書)

授業中に紹介する

博物館・美術館の展覧会図録を図書館などで読んで、図録のありかたに興味をもってほしい。また日本歴史・考古学・美術史などの図書も積極的に読んで欲しい。

【授業外学修(予習・復習)等】

学芸員を目指し、資格を得ようとする学生のための講義であるので、受講生は日ごろから問題意識をもって博物館・美術館などの見学を行ってほしい。また講義を超えて展示物や解説から自己の学術的興味の範囲を広げてほしい。

(その他(オフィスアワー等))

日時は定めていないが、京都国立博物館での講義(例えば土曜日午後など)を行うのでそのつもりでいてほしい。

【履修上の注意点】

資格取得のための科目であり、卒業に単位として認められないので注意して履修すること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング					
授業科目名 <英訳>	歴史基礎文化学系(ゼミナール) Relay Seminars for Undergraduate Students (Seminars)		担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 下垣 仁志	
配当学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・開講期	2024・通年
曜時限	木1	授業形態	ゼミナール(対面授業科目)	使用言語	日本語
題目	歴史学研究の最前線				
【授業の概要・目的】					
<p>歴史学研究の最前線で活躍する若手研究者が講師となり、自らの研究の体験をふまえながら、リレー形式で最新の研究成果をわかりやすく紹介する。通年の授業であり、前半では日本史学と西洋史学(古代)の、後半では東洋史学・西洋史学・西南アジア史学・考古学の新しい研究の課題や手法に触れ、歴史研究への理解を深める手がかりを得ることを目的とする。</p>					
【到達目標】					
新しい研究の課題や手法に触れ、歴史研究への理解を深める手がかりを得る。					
【授業計画と内容】					
<p>ゼミナール担当講師がリレー講義をする。講義担当者と講義題目(予定)は以下のとおり。日程については初回の授業で確定させるが、様々な事情により受講生に事前に説明した上で変更することがある。</p> <p>30回分：</p> <p>01 村上孟謙 「寺院制度からみる律令国家」</p> <p>02 佐藤早紀子 「平安時代の貴族装束について」</p> <p>03 田口佳奈 「平安時代の神社と穢れ思想」</p> <p>04 殷捷 「中世朝廷の官司制度と文書」</p> <p>05 伊藤啓介 「気候変動と中世社会」</p> <p>06 勅使河原拓也 「鎌倉幕府の守護・地頭制」</p> <p>07 岩永紘和 「戦国時代と宗教 臨済宗妙心寺派に注目して」</p> <p>08 山下耕平 「日本近世前期の政治と儒者」</p> <p>09 山下耕平 「日本近世における学問と社会集団」</p> <p>10 平良聡弘 「対日使節派遣運動の展開と日本開国 ペリー来航の再検討」</p> <p>11 平良聡弘 「幕末維新时期灯台建設をめぐる内外動向 近代的インフラ整備の国際環境」</p> <p>12 堀雄高 「近代日本の農村と学校教育」</p> <p>13 酒嶋恭平 「古代ギリシア世界におけるペルシア戦争の記憶」</p> <p>14 小山田真帆 「アテナイ民主政の中の男性同性愛」</p> <p>15 下垣仁志 「フィードバック」</p> <p>16 西真輝 「統一秦代の統治制度「新地」と「新地吏」」</p> <p>17 松島隆真 「呉楚七国の乱はなぜ起こったのか？ 前漢時代の転換点」</p> <p>18 小野木聡 「唐代における官僚制の変容」</p> <p>19 中村慎之介 「大覺國師義天の焼身供養」</p> <p>20 大津谷馨 「中世メッカ・メディナにおける地方史叙述」</p> <p>21 葉勝 「清朝の旗民関係研究序説」</p> <p>22 XuLu 「満洲へ越境する日本人新聞人」</p> <p>23 藤田風花 「東地中海世界と宗教改革」</p>					
歴史基礎文化学系(ゼミナール)(2)へ続く					

歴史基礎文化学系(ゼミナール) (2)

- 24 中辻柚珠 「ハブスブルク帝国の解体と後継諸国の誕生」
25 田中悠子 「イスラーム初期における『論駁』文化」
26 辻田明子 「古代メソポタミアの神々とジェンダー」
27 高野紗奈江 「縄文原体を可視化する」
28 高野紗奈江 「縄文土器研究における知能情報学的方法の応用」
29 西原和代 「かごを編む人々：新石器時代の植物資源管理の考古学」
30 下垣仁志 「フィードバック」
* コーディネーター：下垣仁志

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

講義の感想を中心とする毎回の小レポート(40%)と、学期末のレポート(60%)にもとづいて総合的に評価する。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

毎回、講師・テーマが変わるので、各講義で学んだ内容をそのたびに整理すること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。